



RC F

取扱説明書

イラスト目次

イラストから検索

安全・安心のために

お客様に**必ずお読みいただきたいこと**

(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

1

走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方

(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

2

運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整

(主な項目：キー、ドア、シート)

3

運転

運転に必要な操作やアドバイス

(主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた)

4

室内装備・機能

室内装備の使いなど

(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

5

お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

(主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)

6

万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

(主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

7

車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報

(主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)

8

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	5
本書の見方	9
検索のしかた	10
イラスト目次	11

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	23
シートベルト	25
SRS エアバッグ	28
排気ガスに対する注意	33
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	35
チャイルドシート	36
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザーシステム	47
オートアラーム	48

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方	
警告灯／表示灯	54
計器類	57
マルチインフォメーションディスプレイ	65
燃費画面／Harmonious Driving Navi. 画面	73

3 運転する前に

3-1. キー	
キー	80
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	84
トランク	87
スマートエントリー&スタートシステム	91

3-3. シートの調整	
フロントシート	96
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能	98
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	101
インナーミラー	102
ドアミラー	103
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	106

4 運転

4-1. 運転にあたって	
運転にあたって	110
荷物を積むときの注意	117
4-2. 運転のしかた	
エンジン（イグニッション）スイッチ	118
オートマチックトランスミッション	122
方向指示レバー	126
電動パーキングブレーキ	127
ブレーキホールド	130
ASC（アクティブサウンドコントロール）	132
4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方	
ランプスイッチ	133
AHB（オートマチックハイビーム）	136
フォグランプスイッチ	138
ワイパー&ウォッシャー	139
4-4. 給油のしかた	
給油口の開け方	144
4-5. 運転支援装置について	
Lexus Safety System +	147
PCS（プリクラッシュセーフティ）	152

LTA (レーントレーシングアシスト)	162
RSA (ロードサインアシスト) ...	171
レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)	174
先行車発進告知機能	183
BSM (ブラインドスポットモニター)	185
クリアランスソナー	193
ドライブモードセレクトスイッチ	199
ローンチコントロール	200
アクティブリヤウイング	202
サーキットモード	205
運転を補助する装置	207

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	212
--------------	-----

5 室内装備・機能

5-1. リモートタッチ

リモートタッチ	216
センターディスプレイ	218

5-2. エアコンの使い方

オートエアコン	220
シートヒーター/シートベンチレーター	228

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	230
-------------	-----

5-4. 収納装備

収納装備一覧	232
トランク内装備	234

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	236
----------------	-----

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	240
内装の手入れ	245

ウルトラエード® の手入れ	247
---------------------	-----

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	249
ガレージジャッキ	251
ウォッシュャー液の補充	253
タイヤについて	253
タイヤの交換	260
タイヤ空気圧について	266
エアコンフィルターの交換	267
電子キーの電池交換	268
ヒューズの点検・交換	270
電球 (バルブ) の交換	272

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	274
非常点滅灯 (ハザードランプ)	275
発炎筒	275
車両を緊急停止するには	276
水没・冠水したときは	277
車中泊が必要なときは	278

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	279
フューエルポンプシャットオフシステム	283
警告灯がついたときは	284
警告メッセージが表示されたときは	291
パンクしたときは	294
エンジンがかからないときは	304
キーをなくしたときは	306
給油扉が開かないときは	306
電子キーが正常に働かないときは	307
バッテリーがあがったときは	309
オーバーヒートしたときは	312
スタックしたときは	314

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 318

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 . 322

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 331

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 334

車から音が鳴ったときは（音さくいん） 336

アルファベット順さくいん 338

五十音順さくいん..... 339

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- 1 レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 1 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適合しない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 1 ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

す。

- 1 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイールボルトの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

- ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあります。

RF送信機の取り付けについては、P.7も参照してください。

- 1 フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

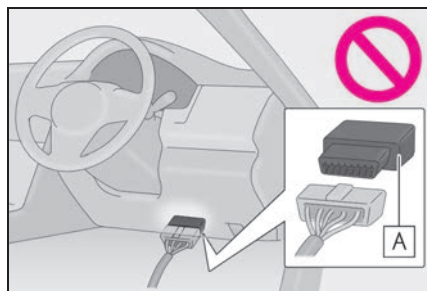
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

レクサス純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してレクサスは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター[Ⓐ]などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、レクサス販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

Ⅰ データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利

用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Ⅰ 記録した画像情報はレクサス販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

Ⅰ 車両の各システムの作動状況

Ⅰ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況

Ⅰ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

Ⅰ EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。

- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

Ⅰ EFI コンピュータ

Ⅰ Lexus Safety System +

Ⅰ ABS（アンチロックブレーキシステム）

Ⅰ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

Ⅰ SRS エアバッグ

Ⅰ シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

アクセサリパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。ご購入いただきましたアクセサリパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなうCO₂排出量の低減が見込まれます。持続可能な社会を構築するためにレクサスはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にてQRコードを読み取りいただくか、URLより閲覧してください。

URL:<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、レクサス販売店にご相談ください。




QRコードについて

QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

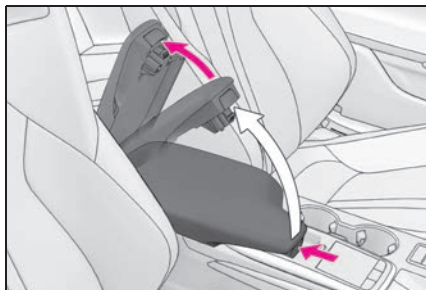
本書の見方



本書で使用している、記号について説明します。

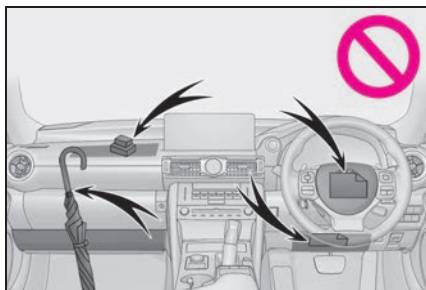
本文の記号について



記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



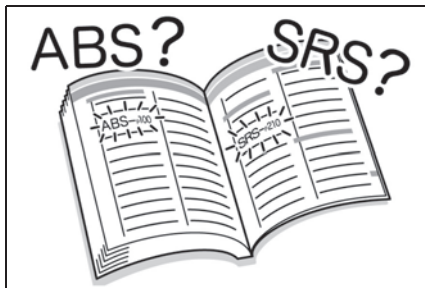
記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

n 名称から探す

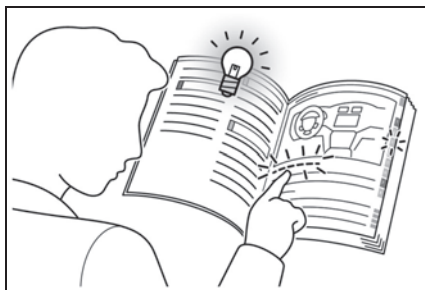
l 五十音順さくいん : P.339

l アルファベット順さくいん : P.338



n 取り付け位置から探す

l イラスト目次 : P.11



n 症状や音から探す

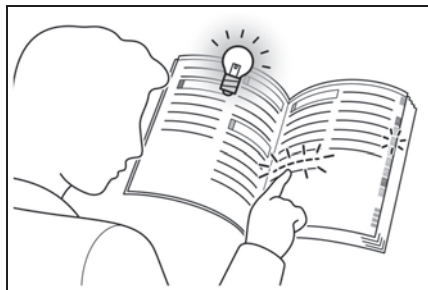
l こんなときは (症状別さくいん) :
P.334

l 車から音が鳴ったときは (音さくいん) : P.336



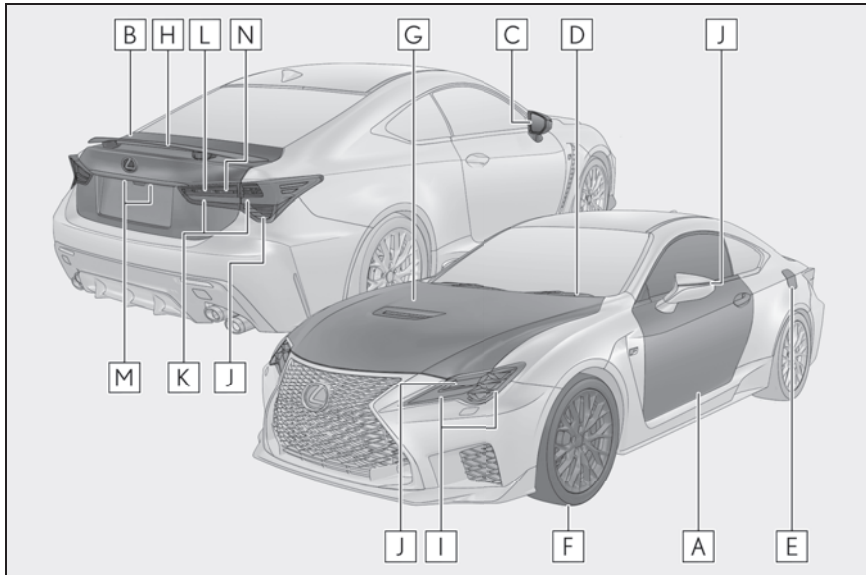
n タイトルから探す

l 目次 : P.2



イラスト目次

n 外観



A	ドア.....	P.84
	施錠／解錠.....	P.84
	ドアガラスの開閉.....	P.106
	メカニカルキーでの施錠／解錠.....	P.307
	警告灯・警告メッセージ.....	P.284, 291
B	トランク.....	P.87
	車内から開ける.....	P.88
	車外から開ける.....	P.88
	メカニカルキーで開ける.....	P.307
	警告灯・警告メッセージ.....	P.284, 291
C	ドアミラー.....	P.103
	鏡面の角度調整.....	P.103
	ミラーの格納.....	P.104
	調整位置の登録.....	P.98
	曇りを取る（ミラーヒーター）.....	P.224

D	ワイパー	P.139
	冬季の注意	P.212
	凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★	P.224
	洗車時の注意	P.242
E	給油口	P.144
	給油方法	P.144
	燃料の種類・燃料タンク容量	P.318
F	タイヤ	P.253
	サイズ・空気圧	P.320
	冬用タイヤ	P.212
	点検・ローテーション・空気圧警報システム	P.253
	パンク時の対処	P.294
G	ボンネット	P.249
	開け方	P.249
	エンジンオイル	P.318
	オーバーヒート時の対処	P.312
	警告メッセージ	P.291
H	アクティブリヤウイング	P.202

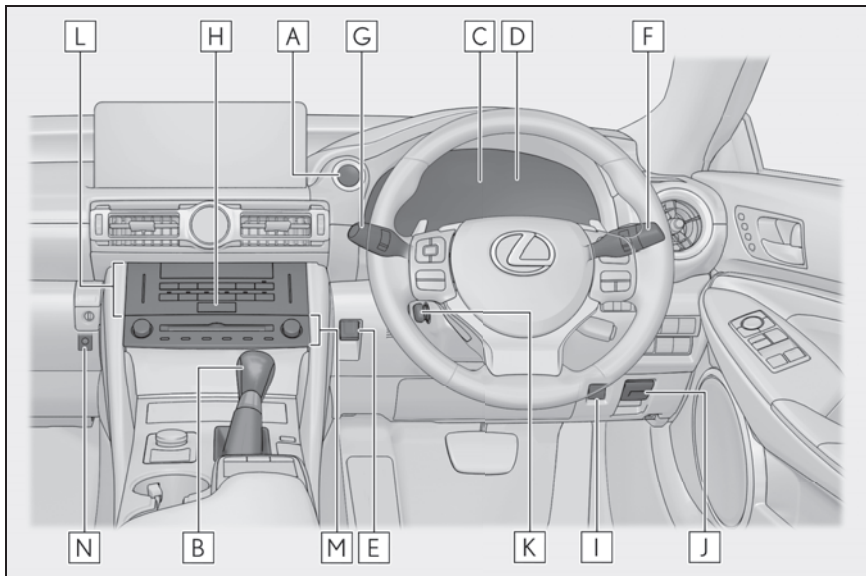
走行に関わる外装のランプバルブ

（交換要領：P.272）

I	ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト	P.133
J	方向指示灯	P.126
K	尾灯	P.133
	制動灯	
	緊急ブレーキシグナル	P.208
L	リヤフォグランプ★	P.138
M	番号灯	P.133
N	後退灯	
	シフトポジションを R にする	P.122

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n インstrumentパネル



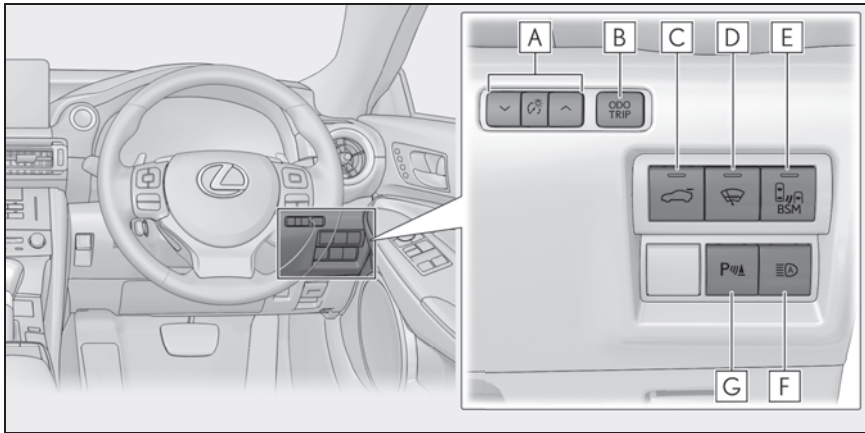
- A** エンジンスイッチP.118
 エンジンの始動・モード切りかえP.118
 エンジンの緊急停止P.276
 エンジンが始動できないときの対処P.304
 警告メッセージP.291
- B** シフトレバーP.122
 シフトポジションの切りかえP.123
 けん引時の注意P.279
 シフトレバーが動かないときの対処P.123
- C** メーターP.57
 見方・明るさの調整P.57
 警告灯／表示灯P.54
 警告灯点灯時の対処P.284
- D** マルチインフォメーションディスプレイP.65
 表示内容P.65

	警告メッセージ表示時の対処.....	P.291
E	パーキングブレーキスイッチ.....	P.127
	かける・解除する.....	P.127
	冬季の注意.....	P.213
	警告ブザー・警告メッセージ.....	P.291
F	方向指示レバー.....	P.126
	ランプスイッチ.....	P.133
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイライト.....	P.133
	リヤフォグランプ★.....	P.138
G	ワイパー&ウォッシャースイッチ.....	P.139
	使い方.....	P.139
	ウォッシャー液の補充.....	P.253
	警告メッセージ.....	P.291
	ヘッドランプクリーナー★.....	P.139
H	非常点滅灯スイッチ.....	P.275
I	トランクオープナー.....	P.88
J	ボンネット解除レバー.....	P.249
K	ハンドル位置調整スイッチ.....	P.101
	調整方法.....	P.101
	調整位置の登録.....	P.98
L	オートエアコン.....	P.220
	操作方法.....	P.220
	リヤウィンドウの曇り取り (リヤウィンドウデフォグガー).....	P.224
M	オーディオ※	
N	トランクオープナーメインスイッチ.....	P.90

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

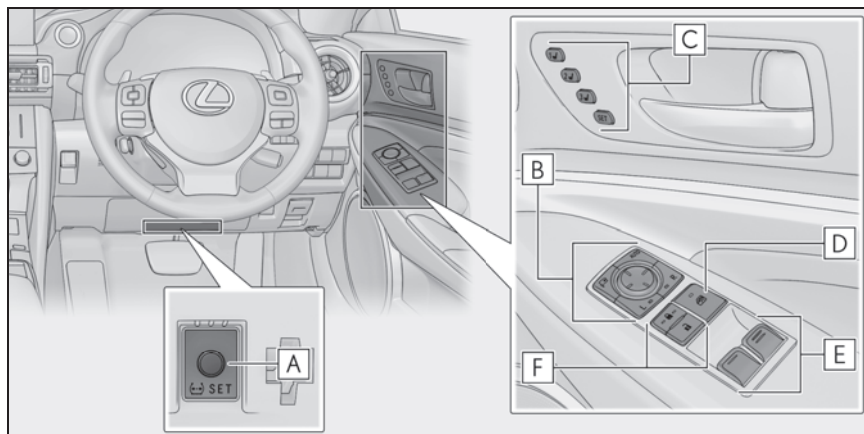
※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

n スイッチ類

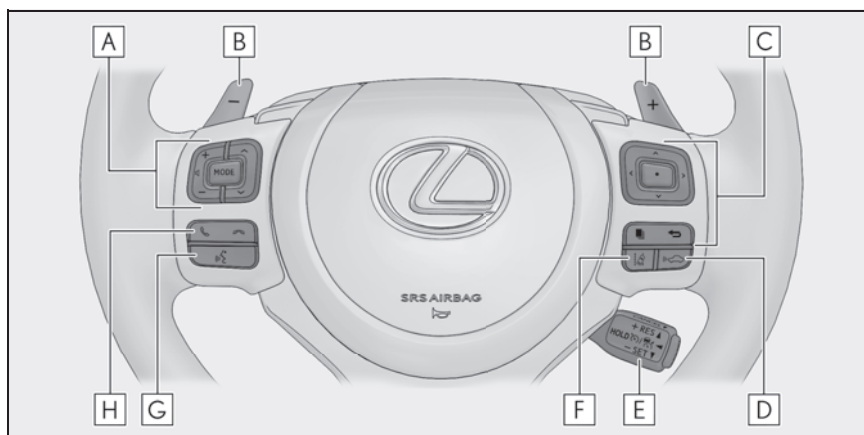


- A** インストルメントパネル照度調整スイッチP.64
- B** オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットボタン
P.63
- C** アクティブリヤウイングスイッチP.202
- D** ウインドシールドデアイサースイッチ★P.224
- E** オートマチックハイビームスイッチP.136
- F** BSM（ブラインドスポットモニター）メインスイッチP.185
- G** クリアランスソナースイッチP.193

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



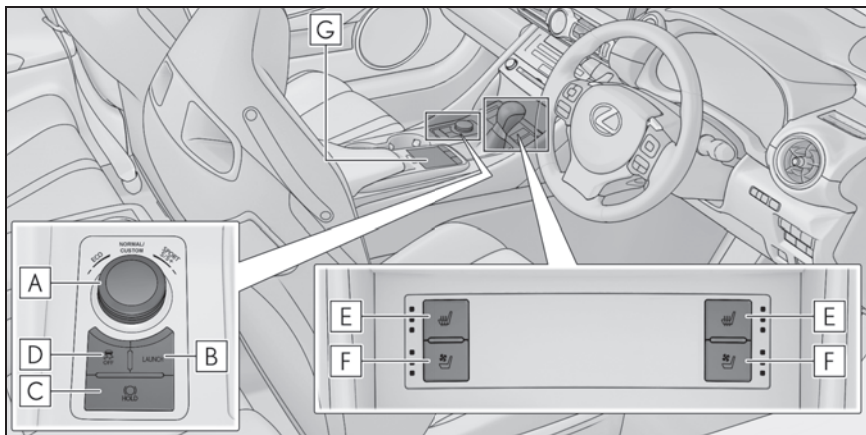
- A** タイヤ空気圧警報リセットスイッチP.257
- B** ドアミラースイッチP.103
- C** ポジションメモリーボタン.....P.98
- D** ウィンドウロックスイッチ.....P.108
- E** パワーウィンドウスイッチ.....P.106
- F** ドアロックスイッチP.86



- A** オーディオスイッチ ※
- B** パドルシフトスイッチP.124, 125
- C** メーター操作スイッチP.66

- D** 車間距離切りかえスイッチ.....P.174
- E** クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....P.174
- F** LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ.....P.162
- G** トークスイッチ ※
- H** 電話スイッチ ※

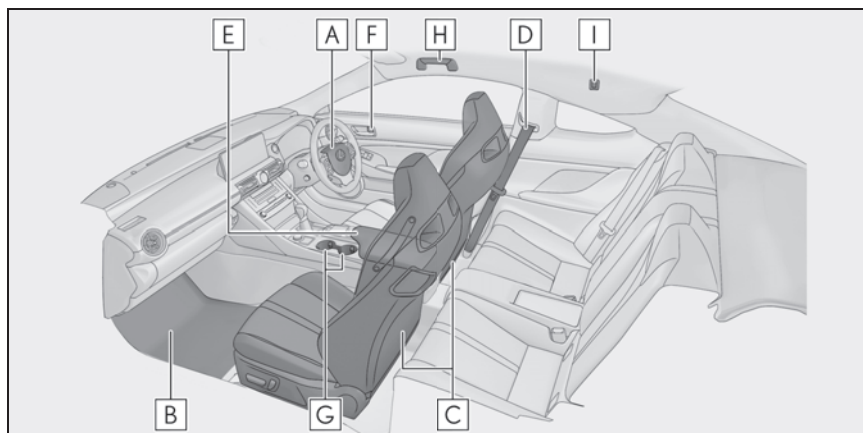
※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



- A** ドライブモードセレクトスイッチ.....P.199
- B** “LAUNCH” スイッチ.....P.200
- C** ブレーキホールドスイッチ.....P.130
- D** VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ.....P.208
- E** シートヒータースイッチ.....P.228
- F** シートベンチレータースイッチ.....P.229
- G** リモートタッチ ※.....P.216

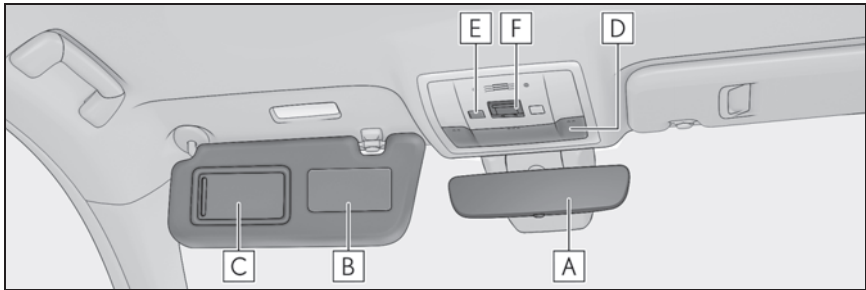
※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

n 室内



- | | | |
|----------|-----------------|-------|
| A | SRS エアバッグ | P.28 |
| B | フロアマット | P.22 |
| C | フロントシート | P.96 |
| D | シートベルト | P.25 |
| E | コンソールボックス | P.233 |
| F | ドアロックレバー | P.86 |
| G | カップホルダー | P.233 |
| H | アシストグリップ | P.236 |
| I | コートフック | P.237 |

n 天井



- A** インナーミラーP.102
- B** サンバイザー ※1P.237
- C** バニティミラーP.237
- D** インテリアランプP.230
 パーソナルランプP.231
- E** 侵入・傾斜センサー OFF スイッチP.50
- F** ヘルプネットスイッチパネル ※2

※1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.37)



※2 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

- 1-1. 安全にお使いいただくために
 - 運転する前に 22
 - 安全なドライブのために 23
 - シートベルト 25
 - SRS エアバッグ 28
 - 排気ガスに対する注意 33
- 1-2. お子さまの安全
 - お子さまを乗せるときは 35
 - チャイルドシート 36
- 1-3. 盗難防止装置
 - エンジンイモビライザーシステム
..... 47
 - オートアラーム 48

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

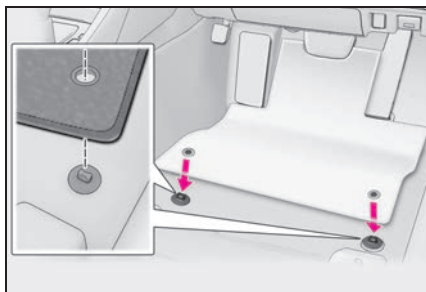
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

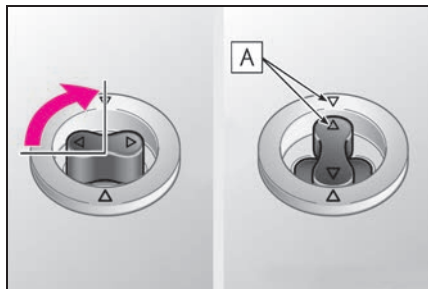
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上しっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク **A** を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

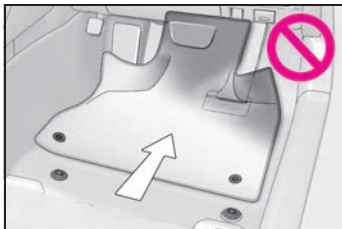
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 運転席にフロアマットを敷くとき

- ┃ レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ┃ 運転席専用のフロアマットを使用する
- ┃ 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- ┃ 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ┃ フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告**n 運転する前に**

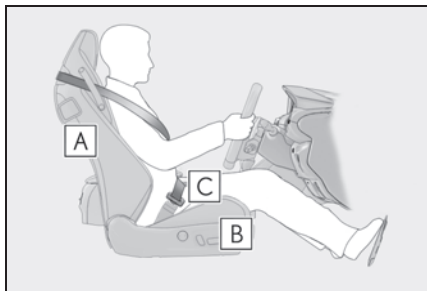
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには

- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.96）
- B** ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.96）
- C** シートベルトを正しく着用する（→P.25）

警告**n 安全な運転のために**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

警告

- | 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- | フロントシートの下にものを置かないでください。ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- | 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- | 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- | 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- | 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- | 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

(→P.25)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.36)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.102, 103)

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

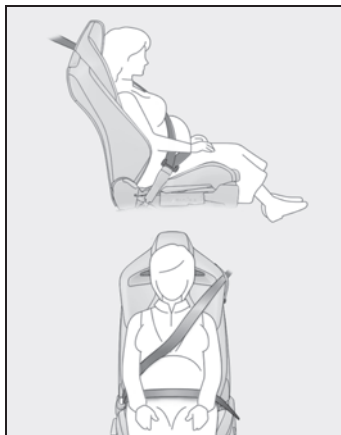
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n シートベルトの着用について

- l 全員がシートベルトを着用する
- l シートベルトを正しく着用する
- l シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- l お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- l 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- l 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- l 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

n 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.26)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを選んで胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

n お子さまを乗せるとき

→P.44

n シートベルトの損傷・故障について

- l ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- l シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

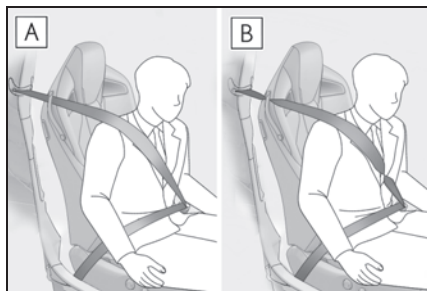
警告

- 1 プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- 1 もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- 1 プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには



- 1 肩部ベルトを肩に十分かける首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 1 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 1 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- 1 ねじれがないようにする



A ねじれていない

B ねじれている

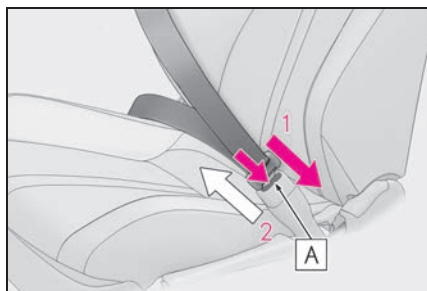
知識

n お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- 1 シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.36)
- 1 シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタ

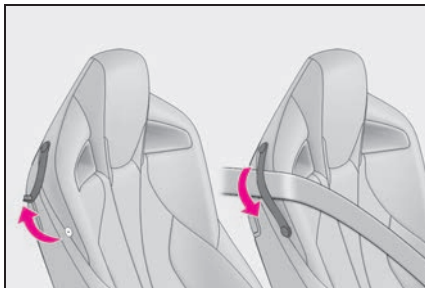
ン[A]を押す

知識

n シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトガイド



フロント席のシートベルトを着用するときは、ベルトをガイドに通してください。フロント席のシートベルトをガイドに通しておくことでシートベルトが引き出しやすくなります。

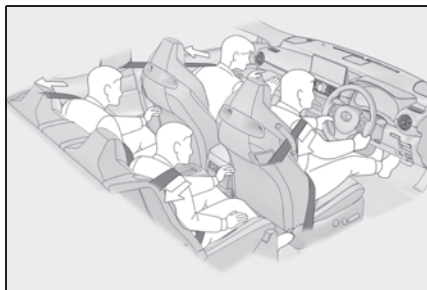
リヤシートへ乗り降りするときは、シートベルトガイドからシートベルトをはずします。

警告

n シートベルトガイドを使うときは

- l ベルトがねじれたり、ひっかかったりしたままで使用しないでください。
- l 使用・不使用に関わらず、確実にボタンを留めてください。
- l ぶらさがったり、無理に引っばったりしないでください。

シートベルトプリテンショナー



前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

フロント席のシートベルトプリテンショナーは、側方から強い衝撃を受けたときも作動します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

n シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

n プリテンショナー付きシートベルトについて

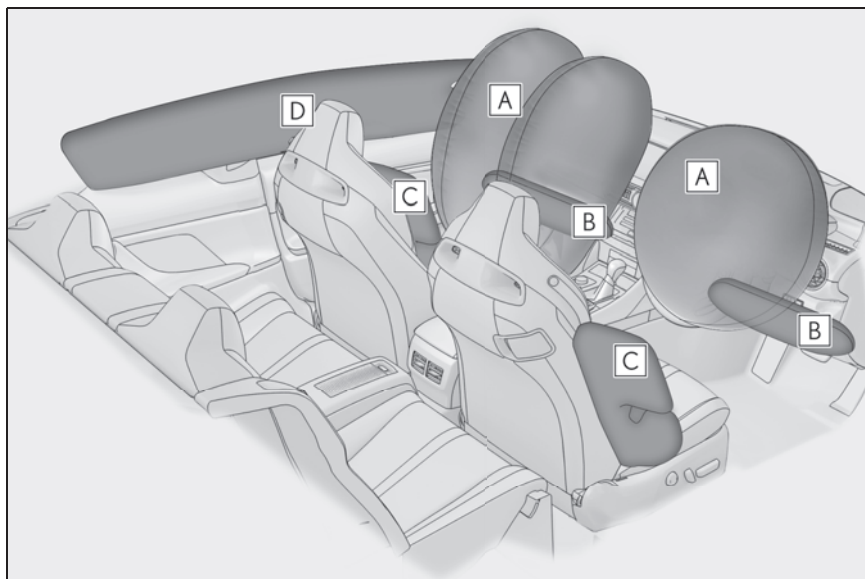
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRSエアバッグ/プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

n SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和します

B SRS ニーエアバッグ

運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助します

▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

C SRS サイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和します

D SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ席乗員の主に頭部への衝撃を緩和します

 知識

n SRS エアバッグが作動すると

- l SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- l 作動音と共に白いガスが発生します。
- l フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- l フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- l G-Linkの契約期間内は、SRS エアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに应答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

n SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- l フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- l 衝突条件によってはシートベルトプリ

テンションナーのみ作動する場合があります。

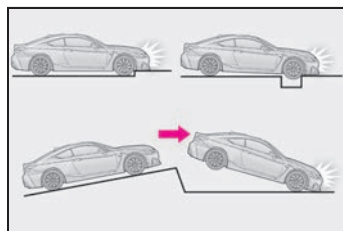
n SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

- l SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5tの車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- l 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

n 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

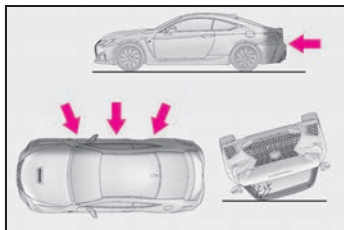
- l 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- l 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- l ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



n SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

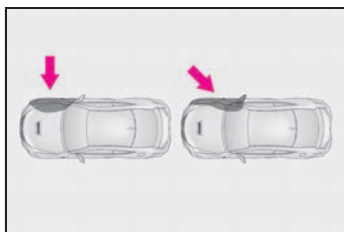
- | 側面からの衝突
- | 後方からの衝突
- | 横転



n SRS エアバッグが作動しないとき
(SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ)

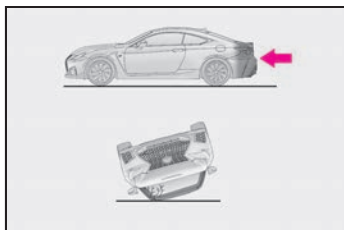
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- | 客室部分以外の側面への衝撃
- | 斜めからの衝撃



SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

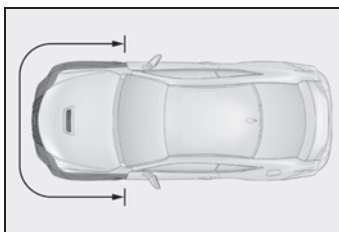
- | 後方からの衝突
- | 横転



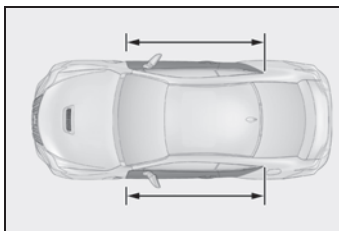
n レクサス販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

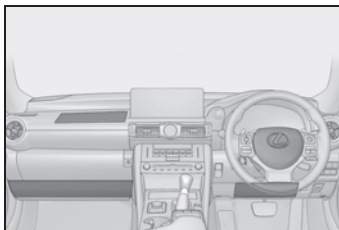
- | いずれかのSRS エアバッグがふくらんだとき
- | フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



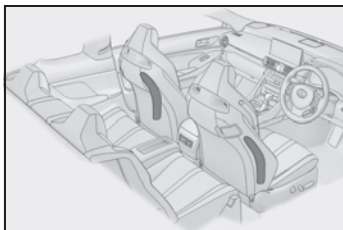
- | SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



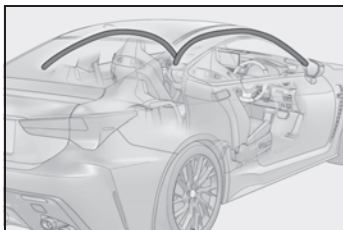
- | ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- Ⅰ SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- Ⅰ SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



⚠ 警告

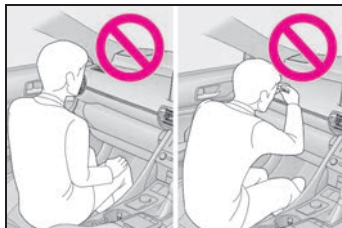
n SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

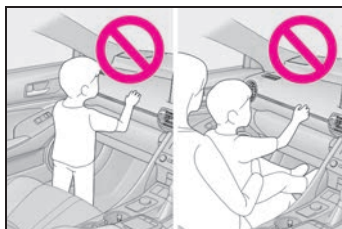
- Ⅰ 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- Ⅰ 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

- Ⅰ お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に寄せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P.36)

- Ⅰ シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- Ⅰ お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



- Ⅰ 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

- Ⅰ ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

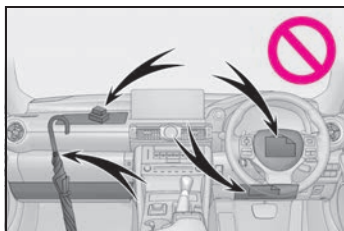


警告

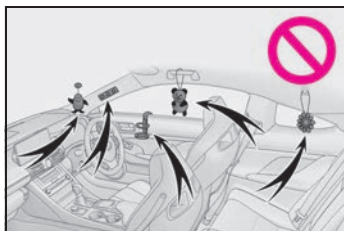
- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く：→P.296)



コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRSカーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。

- SRSニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

- SRSサイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたきなど過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- SRSエアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

- SRSエアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

- SRSエアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

警告**n 改造・廃棄について**

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- | SRSエアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- | ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- | フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- | グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- | サスペンションの改造
- | CDプレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 走行中の留意事項

トランクを閉じてください。

トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

n 駐車するとき

| 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。

| 長時間エンジンが作動したままにしないでください。

やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。

| 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。

まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

**n 排気管について**

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- Ⅰ お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.36)
- Ⅰ 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- Ⅰ パワーウィンドウを誤操作しないように、ウィンドウロックスイッチ(→P.108)をご使用ください。
- Ⅰ 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

Ⅱ お子さまを乗せるときは

- Ⅰ お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

Ⅰ 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→P.36)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

目次

知っておいていただきたいこと：

P.36

チャイルドシートを使用するとき
は：P.37

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.39

チャイルドシートの取り付け方法：
P.42

- ・ シートベルトで固定する：P.43
- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.45
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.46

知っておいていただきたいこと

- I チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- I お子さまが成長し、適切にシート

ベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。

- I お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- I すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

警告

n お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- I 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- I レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- I お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

警告

n チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれ強いので、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.39）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するとき

n 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシ-

トを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。



- シートをいちばんうしろに下げる
 - シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
 - 背もたれを可能な限り起こす
- 背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように調整してください。

警告

n チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告



警告

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



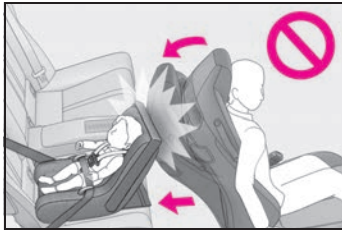
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

警告

- 1 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 1 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

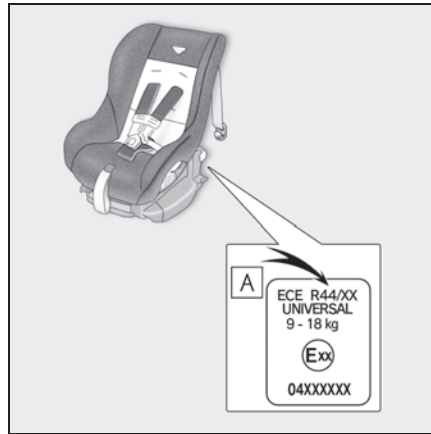
n シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.40）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

n シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

- 1 チャイルドシートの規格を確認する
UN(ECE) R44※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

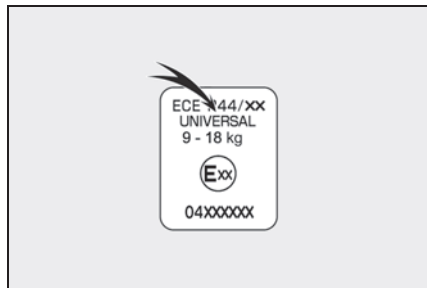
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

- A** UN(ECE) R44 認可マーク※²
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。
- 2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。
- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
 - ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
 - ・リストラクティッド「restricted（限定）」
 - ・ビークルスペシフィック「vehicle」

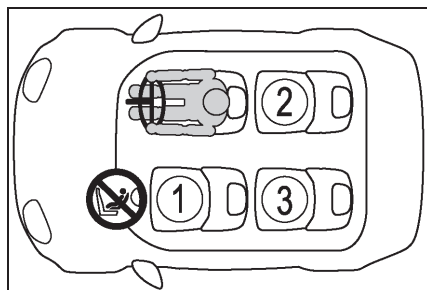
specific (特定車両)]



※¹UN(ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※²表示されているマークは、商品により異なります。

n シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※ ^{1, 2}	U ※ ³	
②	U	
③	U	

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリのチャイルドシートに適しています。

ISOFIX チャイルドシートに適しています。

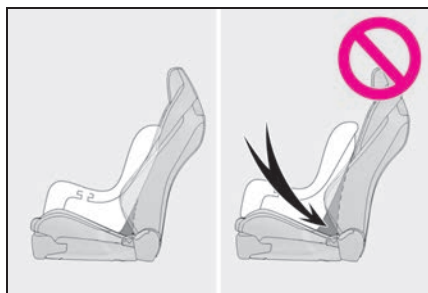
トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※¹シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※²背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にはすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※³チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

n チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1※	R1※
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2	F2X, F2
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	×	×

※ フロントシートをいちばん前の位置に調整してください。

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

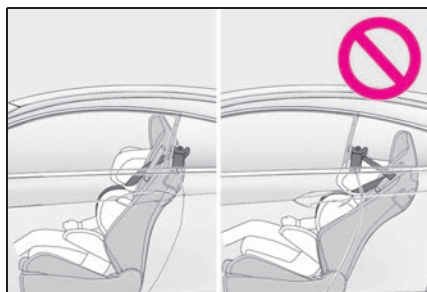
治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

Ⅰ リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

Ⅰ サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

Ⅰ シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



Ⅰ ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P.43
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.45
テザーベルトを固定する		P.46

チャイルドシートをシートベルトで固定する

n シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが

提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.39, 40）

- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.37）
- 2 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿

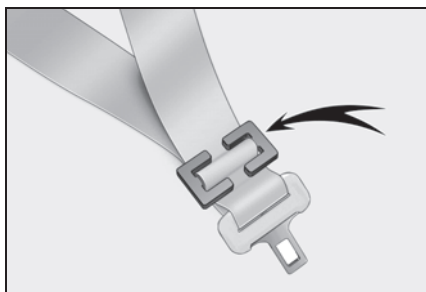
し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 3** チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



- 4** 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.44）

n チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの

反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

n チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

シートベルトのプレートとバックルがしっかりと固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。

チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

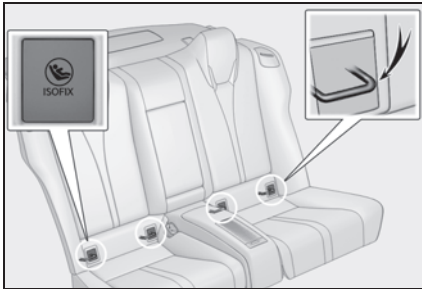
ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

n ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています)



n ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

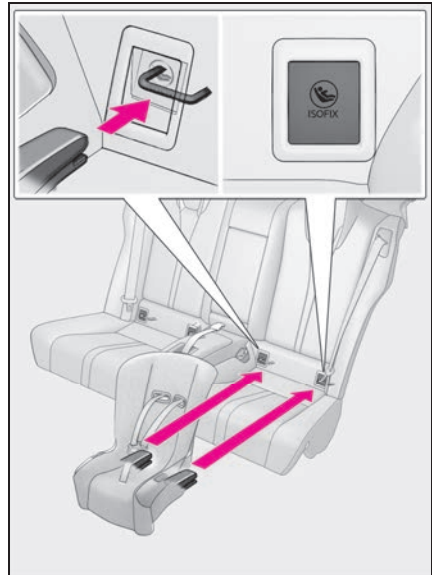
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない(または必要な情報が表の中にある)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.39, 40)

1 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ(取り付け金具)をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってくだ

さい。



2 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→P.44)

⚠ 警告

n チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

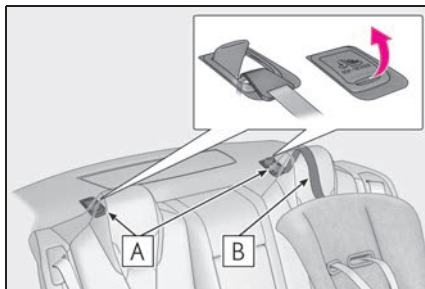
- ┃ チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ┃ ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- ┃ 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

n トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

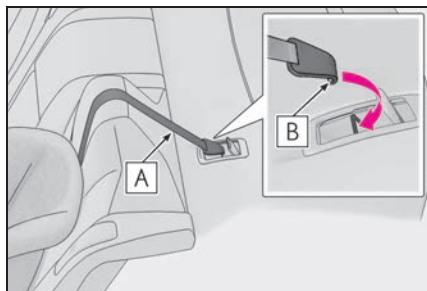
B テザーベルト

n テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



A テザーベルト

B フック

⚠ 警告

n チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ⌋ テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- ⌋ テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- ⌋ チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ⌋ 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

⚠ 注意

n トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

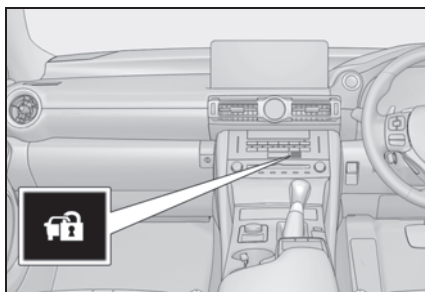
エンジンイモバイザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

n メンテナンスについて

エンジンイモバイザーシステムのメンテナンスは不要です。

n システムが正常に作動しないとき

- l キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- l キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

n エンジンイモバイザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- l 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- l ボンネットが開けられたとき
- l 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- l 傾斜センサーが車両の傾きを検知したとき

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／サービスの使い方／G-Security を利用する」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

n ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- l 車内に人が乗っていないか
- l ドアガラスが閉じているか

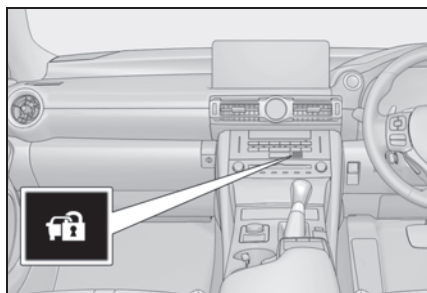
l 車内に貴重品などを放置していないか

n オートアラームを設定するには

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。

30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかかります。



n オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- l スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- l エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

□ 知識

n メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

n G-Link（ご契約のお客様のみ）

↑ うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れなどを、ご指定のEメールアドレスへお知らせすることができます。

うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

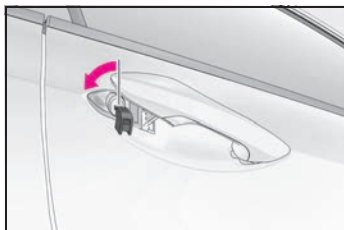
↑ リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／サービスの使い方／G-Securityを利用する」を参照してください。

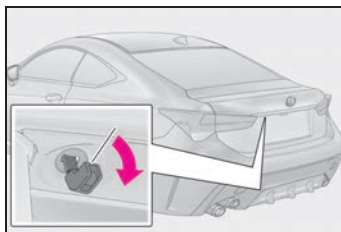
n オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

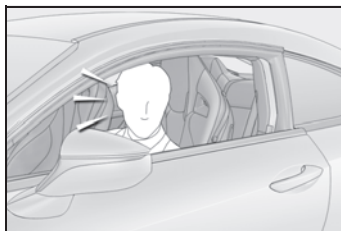
↑ メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



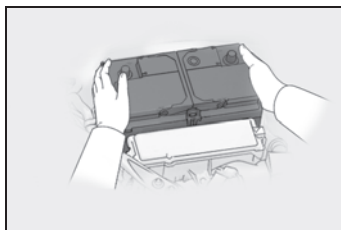
↑ メカニカルキーを使ってトランクを開けたとき



↑ 車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき



↑ 施錠後、バッテリーあがりなどで、バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.311）



n オートアラーム作動によるドアロック機能について

以下のとき、自動的にドアが施錠されることがあります。

↑ 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

↑ オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

↑ バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することがで

きます。(→P.322)



注意

n オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入センサー・傾斜センサー

n 侵入・傾斜センサーの検知について

l 侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

l 傾斜センサーは、車両の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入・傾きに対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

n 侵入・傾斜センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→P.48)

n 侵入・傾斜センサーを停止する

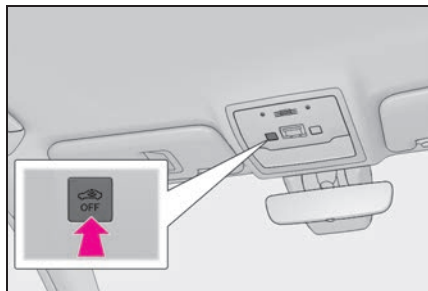
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 侵入・傾斜センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入・傾斜センサーは再びセットされます。

侵入・傾斜センサーを OFF / ON するたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

n 侵入・傾斜センサーの作動・停止について

l 侵入・傾斜センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。

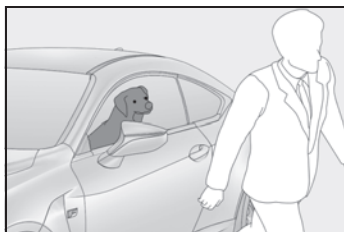
l 侵入・傾斜センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入・傾斜センサーは復帰します。

l オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

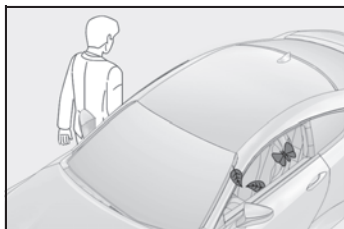
n 侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

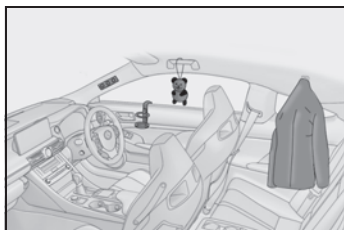
l 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



- l ドアガラスが開いている場合、次のものを検知することがあります。
 - ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
 - ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
 - ・ 室外の歩行者の動き



- l マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



- l 振動や騒音が激しい場所、または連続的な衝撃や振動が車両に伝わる状況
 - ・ 立体駐車場に駐車したとき
 - ・ ガラスに付着した氷を削り落とすとき
 - ・ 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
 - ・ ひょう・落雷などのとき

n 傾斜センサーについての留意事項

次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあ

ります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

- l フェリー・トレーラー・列車などで運搬するとき
- l 立体駐車場に駐車したとき
- l 車両移動をともなう洗車機を使用するとき
- l タイヤ空気が少ないとき
- l ジャッキアップするとき
- l 地震や路面陥没が起きたとき
- l ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

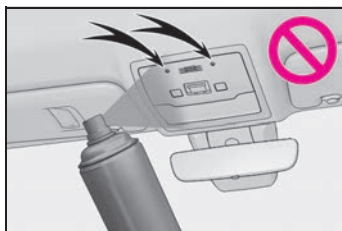
⚠ 注意

n 侵入センサーを正しく作動させるために

- l センサーの穴はふさがないようにしてください。



- l センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。



 注意

- I 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯.....	54
計器類.....	57
マルチインフォメーションディスプレイ.....	65
燃費画面／Harmonious Driving Navi. 画面.....	73

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯一覧

システム異常などを警告します。



(赤色)

ブレーキ警告灯 ※1
(→P.284)



(黄色)

ブレーキ警告灯 ※1
(→P.284)



高水温警告灯 ※2 (→P.284)



充電警告灯 ※1, 2 (→P.284)



油圧警告灯 ※2 (→P.285)



エンジン警告灯 ※1
(→P.285)



SRS エアバッグ／プリテン
ショナー警告灯 ※1
(→P.285)



ABS & ブレーキアシスト警告
灯 ※1 (→P.285)



ペダル誤操作警告灯 ※2
(→P.152, 286)



(点滅)

パーキングブレーキ表示灯
(→P.286)



(点滅)

ブレーキホールド作動表示灯
※1 (→P.286)



パワーステアリング警告灯 ※1
(→P.286)



(橙色)

LTA 表示灯 (→P.286)



(点滅または点灯)

PCS 警告灯 ※¹ (→P.287)



スリップ表示灯 ※¹
(→P.287)



ヘッドランプオートレベリング警告灯 ※¹ (→P.287)



半ドア警告灯 (→P.287)



燃料残量警告灯 (→P.288)



運転席・助手席シートベルト非着用警告灯 (→P.288)



リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※³ (→P.288)



マスターウォーニング ※¹
(→P.288)



タイヤ空気圧警告灯 ※¹
(→P.289)

※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※² マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※³ センターパネルに表示されます。

警告

n 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.126)



尾灯表示灯 (→P.133)



ハイビーム表示灯 (→P.135)



オートマチックハイビーム表示灯 (→P.136)



リヤフォグランプ表示灯★
(→P.138)



PCS 警告灯 ※^{1, 2} (→P.155)



クルーズコントロール表示灯
(→P.174)



レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.174)



クルーズコントロールセット表示灯 (→P.174)





LTA 表示灯 (→P.152, 167)

※³





BSM (ブラインドスポットモニター) ドアミラーインジケーター ※^{4, 5} (→P.185)


 クリアランスソナー表示灯
(→P.193)


 スリップ表示灯 ※1
(→P.208)


(点滅)


 VSC (ピークルスタビリティ
コントロール) OFF 表示灯
※1, 2 (→P.209)


 TRC OFF 表示灯 ※1
(→P.208)


 スマートエントリー & スター
トシステム表示灯 ※6
(→P.118)


 セキュリティ表示灯 ※7
(→P.47, 48)

 パーキングブレーキ表示灯
(→P.127)


 ブレーキホールドスタンバイ
表示灯 ※1 (→P.130)

 ブレーキホールド作動表示灯
※1 (→P.130)

 低温表示灯 ※6, 8 (→P.57)

 エコドライブインジケータ
ランプ ※1 (→P.67)


 EXPERT 表示灯 (→P.209)

 サーキットモードインジケ
ーター (→P.205)

 LAUNCH インジケータ
ー (→P.200)


I 走行モード表示

 NORMAL 表示灯 (→P.199)

 エコドライブモード表示灯
(→P.199)

 SPORT S 表示灯 (→P.199)

 SPORT S+ 表示灯 (→P.199)

 カスタム表示灯 (→P.199)

★: グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを
イグニッション ON モードにすると
点灯し、数秒後またはエンジンをかけ
ると消灯します。点灯しない場合や点
灯したままのときはシステム異常のお
それがあります。レクサス販売店で点
検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 システムの作動状態により、表示色と
点灯・点滅の状態が変化します。

※4 作動確認のため次の条件のときイン
ジケーターが点灯します。

- ・ BSM メインスイッチが ON の状
態で、エンジンスイッチをイグ
ニッション ON モードにしたとき
- ・ エンジンスイッチがイグニッシ
ョン ON モードで、BSM メイン
スイッチを ON にしたとき

システムが正常であればインジケ
ーターは数秒後に消灯します。点灯し
ない場合や点灯したままのときはシ
ステム異常のおそれがあります。レ
クサス販売店で点検を受けてくださ
い。

※5 ドアミラーに表示されます。

※6 マルチインフォメーションディス
プレイに表示されます。

※7 センターパネルに表示されます。

※8 外気温が約 3℃ 以下のとき、約 10
秒間点滅後に点灯します。

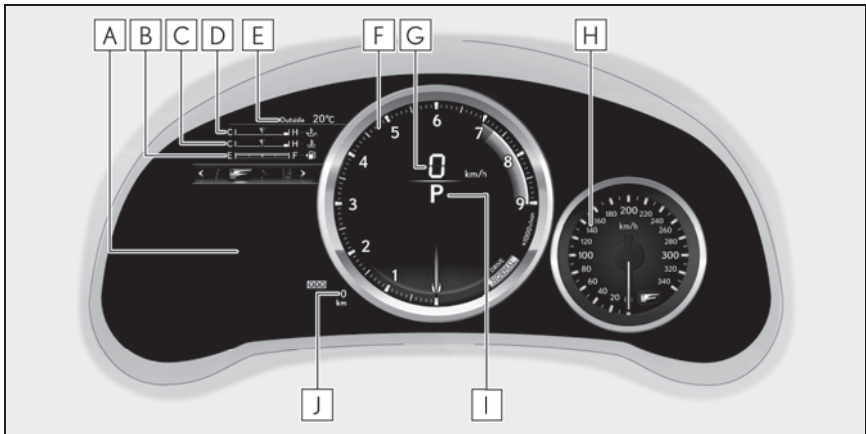
計器類

メーターの表示について

n 計器類の位置

選択しているドライブモードに応じて、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。

▶ ノーマルモード

**A** マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.65)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.291)

B 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

C 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。水温計の表示がレッドゾーンに入ると、ブザーが鳴り、▼が赤色に変わり点滅します。また、警告メッセージを表示します。

D エンジン油温計

エンジンオイルの温度を示します。エンジン油温計の表示がレッドゾーンに入ると、▼が赤色に変わり点滅します。

E 外気温

外気温度を -40°C ~ 50°C の間で表示します。外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

F タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

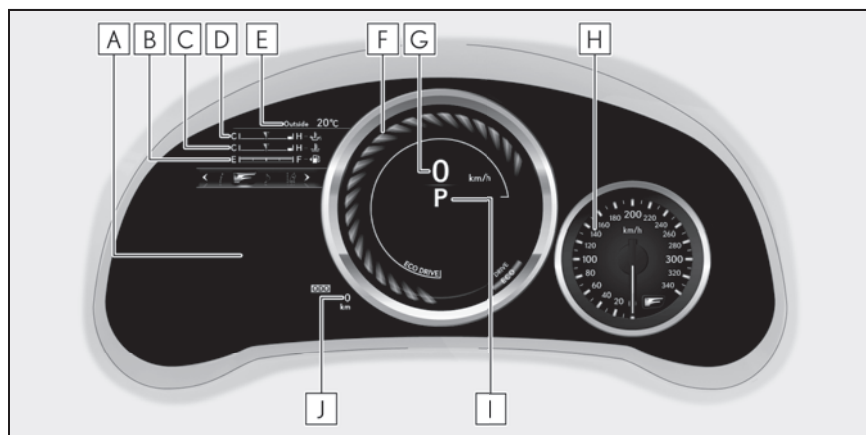
G デジタルスピードメーター

H アナログスピードメーター

I シフトポジション・ギヤ段表示 (→P.122)

J オドメーター／トリップメーター (→P.63)

▶ エコドライブモード



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.65)


車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.291)

B 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

C 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。水温計の表示がレッドゾーンに入ると、ブザーが鳴り、 が赤色に変わり点滅します。また、警告メッセージを表示します。

D エンジン油温計

エンジンオイルの温度を示します。エンジン油温計の表示がレッドゾーンに入ると、

▼ が赤色に変わり点滅します。

E 外気温

外気温度を -40°C ~ 50°C の間で表示します。外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

F エコドライブ表示

車両の加速度を表示します。急な加速であるほど青い目盛りが減少していき、エコ運転から離れていく様子を表現しています。

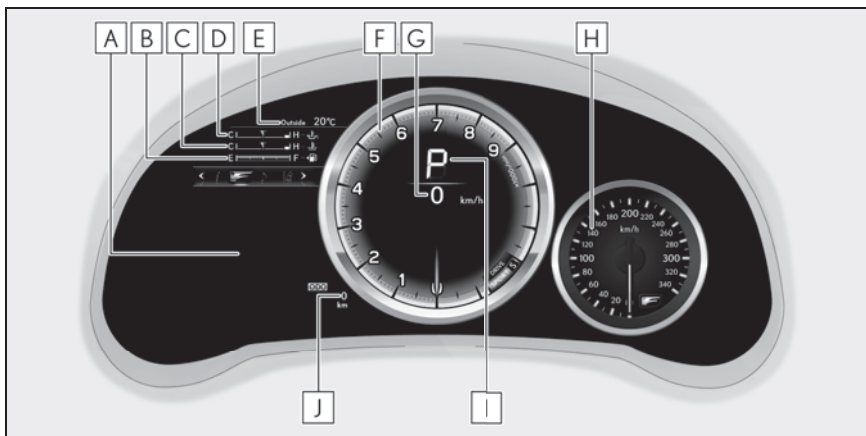
G デジタルスピードメーター

H アナログスピードメーター

I シフトポジション・ギヤ段表示 (→P.122)

J オドメーター／トリップメーター (→P.63)

▶ スポーツSモード



イラストは初期設定時の表示です。メーターの表示はマルチインフォメーションディスプレイの設定画面で変更することができます。

A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.65)


車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.291)

B 燃料計


燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油 (約 5L 以下) を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

C 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。水温計の表示がレッドゾーンに入ると、ブザーが鳴り、が赤色に変わり点滅します。また、警告メッセージを表示します。

D エンジン油温計

エンジンオイルの温度を示します。エンジン油温計の表示がレッドゾーンに入ると、が赤色に変わり点滅します。

E 外気温

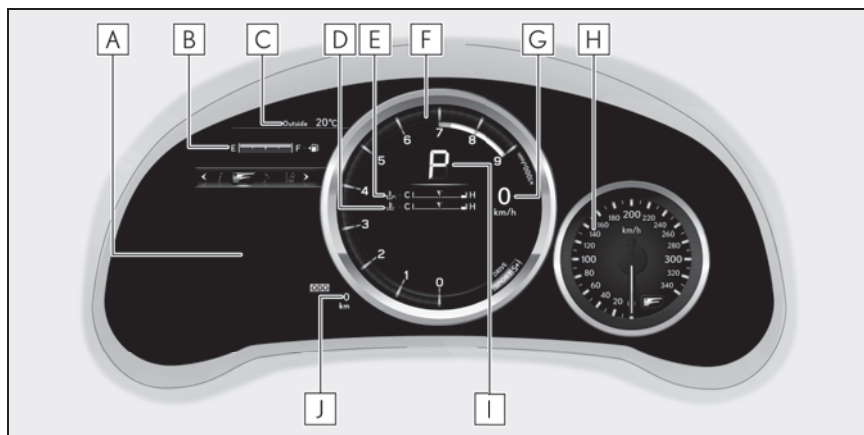
外気温度を -40℃～50℃の間で表示します。外気温が約3℃以下のときは、低温表示灯が点灯します。

F タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

G デジタルスピードメーター**H** アナログスピードメーター**I** シフトポジション・ギヤ段表示 (→P.122)**J** オドメーター／トリップメーター (→P.63)

▶ スポーツ S+ モード



イラストは初期設定時の表示です。メーターの表示はマルチインフォメーションディスプレイの設定画面で変更することができます。

A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.65)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.291)

B 燃料計


燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき


C 外気温

外気温度を -40°C ~ 50°C の間で表示します。外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

D 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。水温計の表示がレッドゾーンに入ると、ブザーが鳴り、 が赤色に変わり点滅します。また、警告メッセージを表示します。

E エンジン油温計

エンジンオイルの温度を示します。エンジン油温計の表示がレッドゾーンに入ると、 が赤色に変わり点滅します。

F タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

G デジタルスピードメーター

H アナログスピードメーター

I シフトポジション・ギヤ段表示 (→P.122)

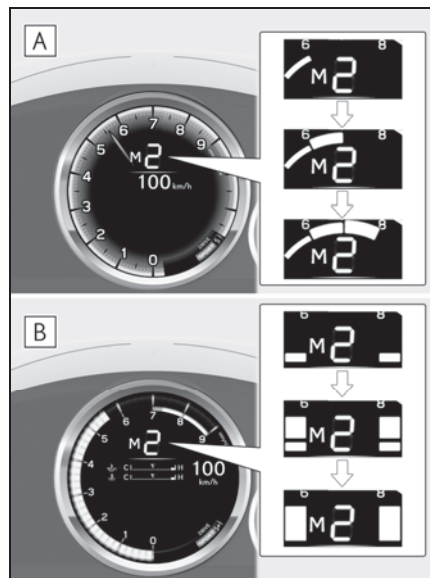
J オドメーター／トリップメーター (→P.63)

n REV インジケーター (スポーツ S モード/スポーツ S+ モード)

シフトレバーが M のとき、エンジン回転数に応じてタコメーター内にインジケーターを 3 段階で点灯します。また、3 段階目に到達するとインジケーターが点滅するとともにブザーが鳴り、シフトアップのタイミングをお知らせします。

ダウンシフトをしたときでも、エンジンの回転数によっては表示されることがあります。

イラストは初期設定時の表示です。メーターの表示はマルチインフォメーションディスプレイの設定画面で変更することができます。



A スポーツ S モード**B** スポーツ S+ モード**n** REV ピーク (ノーマルモード/スポーツ S モード)

3600r/min 以上の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーター指針の残像を約 1 秒間表示します。

**表示の切りかえ****n** メーターの表示・配置

ドライブモードを切りかえるごとに、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。(→P.199)

知識**n** メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

n アナログスピードメーターのウェルカム演出について

運転席ドアを開けた時にアナログスピードメーターを発光させ、さらに運転席ドアを閉じると 3 回発光・消灯を繰り返します。(脈動発光)

次の場合は、運転席ドアを開閉しても脈動発光しません。

- ・脈動発光が終了してからの 60 秒間
- ・エンジンスイッチを OFF にしてからの 60 秒間

n 可変レッドゾーン

エンジン保護のため、エンジン冷却水温の上昇にあわせて、タコメーターのレッドゾーン開始位置が 3700r/min から 7300r/min まで変化し、エンジン回転を抑える制御が働きます。高負荷走行前は十分な暖機を行ってください。

**n** エコドライブ表示について

エコドライブ表示は、車両の加速度に応じて目盛りが増減します。ゆるやかなアクセル操作によりガソリン消費を抑えたいときなど、エコ運転をするときの参考として使用ください。ただし、下り坂などのアクセルペダルを踏まなくても車両が自然に加速する状況においては、正しいエコ情報とならない場合があります。

シフトレバーが P、N または R にあるとき、目盛りが灰色になりエコドライブ表示は作動しません。

n アナログスピードメーターの減光制御について

周囲が明るいとき(昼間など)において次の場合、アナログスピードメーターの照明が暗くなります。

- l ドライブモードがスポーツ S モード/スポーツ S+ モードのとき
- l サーキットモードインジケーターが点灯しているとき

n 外気温表示について

l 次の場合は、正しい外気温が表示され

なかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- ・ 停車しているときや、低速走行（約20km/h以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- l “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

n 割込表示について

- l スイッチの操作方法などを状況に応じてマルチインフォメーションディスプレイに一定時間表示します。
- l 一部の割り込み表示の表示／非表示を切りかえることができます。（→P.71）

n 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

n カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイでメーターの表示を変更できます。（→P.322）

警告



n 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

n エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- l タコメーターの表示がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- l 次のときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.312）
- ・ 水温計の表示（) が赤色に変わり、点滅した
 - ・ エンジン油温計の表示（) が赤色に変わり、点滅した

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

n 表示項目

l オドメーター

走行した総距離を表示します。

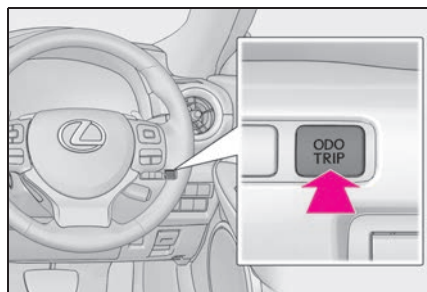
l トリップメーター A／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中にオドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットボタンを長押しします。

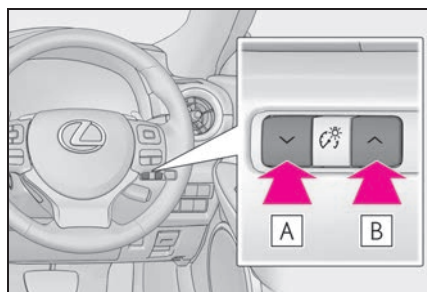
n 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



A 暗くする

B 明るくする

知識

n インストルメントパネルの照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

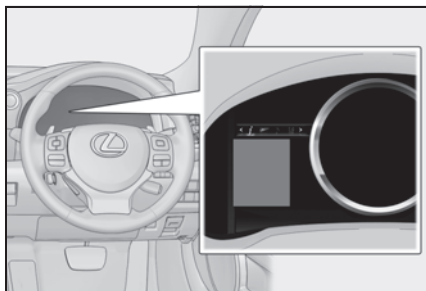
ディスプレイの表示/メニューアイコン一覧

n ディスプレイの表示

▶ コンテンツ表示エリア

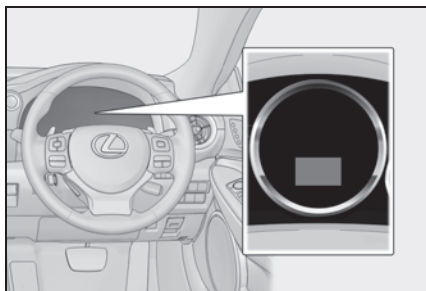
メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。



▶ サブコンテンツ表示エリア

各メニューの表示内容に合わせて、コンテンツ表示エリアと連動した内容が表示されます。



n メニューアイコン

メーター操作スイッチの **<** または **>** を押すとメニューアイコンが表示されます。

	ドライブインフォメーション
	“F” コンテンツ
	ナビゲーションシステム連携表示
	オーディオシステム連携表示
	運転支援システム情報
	警告メッセージ
	設定

知識

n オープニング表示について

エンジンを始動したとき、マルチインフォメーションディスプレイに車名が表示されます。

オープニング表示中は、ドライブモードを切りかえてもメーター画面の表示は切りかわりません。オープニング表示が終

了すると、その時選択されているドライブモードのメーター画面が表示されます。

n 液晶ディスプレイについて

→P.63



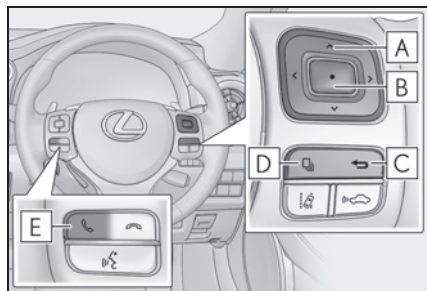
警告

n 低温時の画面表示について

→P.63

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A < / > : メニューの切りかえ
 ▲ / ▼ : 表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し: 決定
 長押し: リセット

C ひとつ前の画面にもどる
 短押しと長押しで戻ることができる階層がわかります。

D 短押し: トップ画面を表示する
 長押し: トップ画面を登録する

E 電話の発着信・履歴表示
 ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

n トップ画面の登録

お好みの画面を登録することで、トップ画面を変更することができます。トップ画面を登録するには、登録したい画面を表示中に スイッチを長押ししてください。

l スイッチを長押しすると、登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。

l 未登録時はドライブインフォメーション画面を表示します。

n ドライブインフォメーションのリセット

i で表示される平均燃費（リセット間）・平均車速（リセット間）・走行時間（リセット間）をリセットするには、リセットしたい項目を表示中に スイッチを長押しします。

画面に表示されている項目が2つともリセット可能な場合は、選択画面が表示されます。

走行に関する情報について

n ドライブインフォメーション 1 / 2 / 3

次の項目から選択し、1画面につき2項目ずつ表示します。

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの < または > を押して **i** を選択し、▲ または ▼ を押しします。

表示される数値は参考として利用してください。

| ドライブインフォメーション 1


- ・ 瞬間燃費
- ・ リセット間平均燃費

| ドライブインフォメーション 2

- ・ 航続可能距離
- ・ リセット間平均車速

| ドライブインフォメーション 3

- ・ 給油後平均燃費
- ・ 始動後走行時間

表示する項目は、メニューアイコンのから変更することができます。(→P.71)

表示できる項目は次のとおりです。

| 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

| 平均燃費

- ・ リセット間：リセット後の平均燃費を表示 ※1、2
- ・ 始動後：エンジン始動後の平均燃費を表示 ※2
- ・ 給油後：給油後の平均燃費を表示 ※2、3

| 平均車速

- ・ リセット間：リセット後の平均車速を表示 ※1
- ・ 始動後：エンジン始動後の平均車速を表示

| 走行時間

- ・ リセット間：リセット後の経過時間を表示 ※1
- ・ 始動後：エンジン始動後の経過時間を表示

| 距離

- ・ 航続可能距離：燃料残量による走行可

能な距離を表示 ※3、4

- ・ 始動後：エンジン始動後の走行距離を表示

| その他

ブランク：非表示

※1リセット方法：→P.66

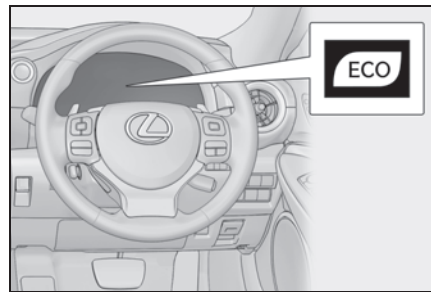
※2表示される燃費は参考として利用してください。

※3燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

※4運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

n エコドライブインジケーター

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。



次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- | シフトレバーがD以外にあるとき
- | パドルシフトスイッチを操作しているとき

l 走行モードがノーマルモードまたはエコドライブモード以外するとき
→P.199)

l 車速が約 100km/h 以上のとき

n タイヤ空気圧

→P.255

n Gear Position

シフトレバーが D ポジションまたは M ポジションの時、現在選択されているギヤ段を表示することができます。

n ブランク (非表示)

ブランク画面を表示します。



知識

n タイヤ空気圧表示について

- ・ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。
- ・ 電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは “---” と表示されることがあります。
- ・ タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

“F” コンテンツ

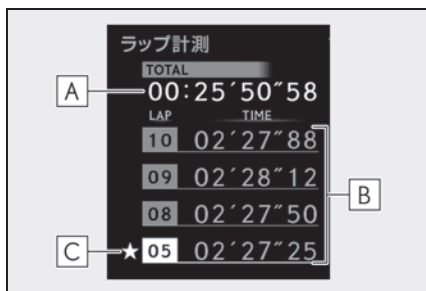
n ラップ計測

ラップタイムを計測することができます。

l 表示の見方

計測中のタイムは次のように表示されます。

・ コンテンツ表示エリア



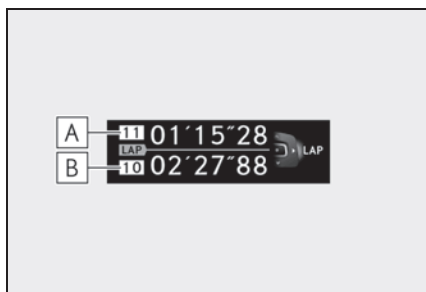
A 計測開始からの合計タイム

B 過去のラップタイム

C 最速ラップタイム

最速ラップタイムには星マークがつきます。

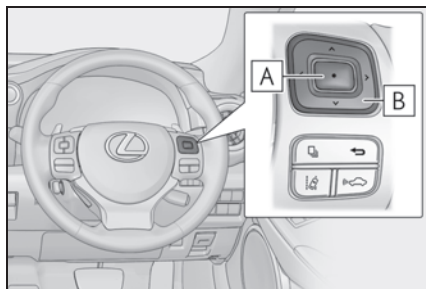
・ サブコンテンツ表示エリア



A 計測中のラップタイム

B 最新のラップタイム

l 操作方法



A 短押し：計測開始／停止

長押し：リセット

B **>**：ラップ

^ **v**：表示コンテンツの切りかえ

計測中はディスプレイの表示を、下記のコンテンツに切りかえることができます。

- ・ G モニター
- ・ タイヤ空気圧
- ・ リヤウィング状態

l 計測タイムのリセット／保存方法

計測停止後、**▶**スイッチを長押ししてください。

確認画面が表示され、計測タイムのリセット／保存を選択できます。

保存すると、履歴画面に計測データが表示されるようになります。(→P.69)

n 履歴 (ラップ計測)

保存したラップタイムを閲覧できます。

l 表示の見方

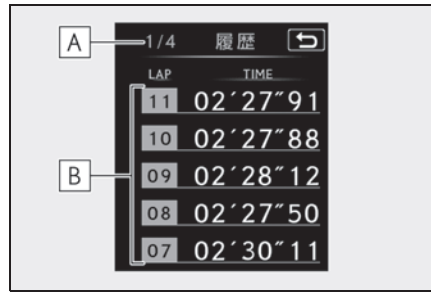
- ・ 履歴トップ画面



A 計測開始からの合計タイム

B 最速ラップタイム

- ・ 過去ラップ画面



A ページ番号

B 最終ラップから過去 20 ラップ分のラップタイム

ページを送るには、**^** / **v** スイッチを押してください。

l 表示の切り替え

過去ラップ画面を表示させるには、

▶ スイッチを押してください。

履歴トップ画面に戻るには、**◀** スイッチを押してください。

l 履歴の消去

履歴トップ画面表示中に **▶** スイッチを長押しすると、確認画面が表示されます。

画面の指示に従って、履歴を消去してください。

n G モニター

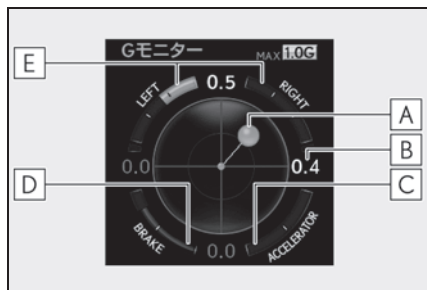
車両にかかる前後左右の G (加速度) を表示することができます。

また、G モニターの周囲にはステアリング操作量・アクセル開度量・ブレーキ液圧が表示されます。

l 表示の見方

▶ 通常表示

コンテンツ表示エリアに次の内容が表示されます。

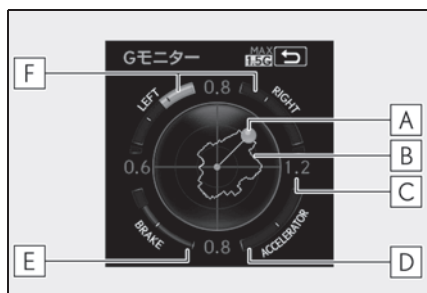


- A** 車両にかかる G
- B** 現在の G 値（前後左右に分解した値）
- C** アクセル開度量
- D** ブレーキ液圧
- E** ステアリング操作量

▶ 詳細表示

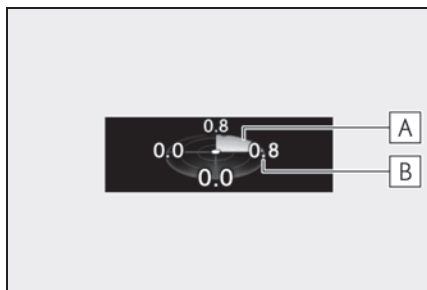
コンテンツ表示エリアとサブコンテンツ表示エリアに次の内容が表示されます。

- ・ コンテンツ表示エリア



- A** 車両にかかる G
- B** 最大 G の軌跡
- C** リセット後の最大 G 値（前後左右に分解した値）
- D** アクセル開度量
- E** ブレーキ液圧
- F** ステアリング操作量


- ・ サブコンテンツ表示エリア




- A** 車両にかかる G の方向
- B** 現在の G 値（前後左右に分解した値）


表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

Ⅰ 表示の切りかえ

詳細表示に切りかえるには、 スイッチを押してください。

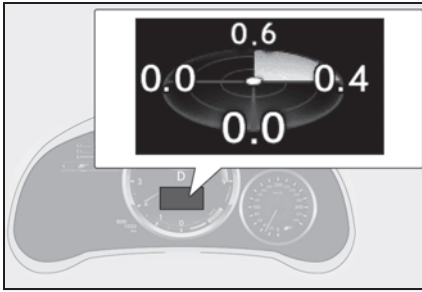
通常表示に戻るには、 スイッチを押してください。

Ⅰ 最大 G の軌跡のリセット

最大 G の軌跡表示中に  スイッチを長押しすることで、軌跡をリセットすることができます。

Ⅰ ピークホールド機能（詳細表示のみ）

0.5G 以上の力を発生した場合、サブコンテンツ表示エリアの G 値表示が黄色に変わり、3 秒間保持されます。



n リヤウイング状態

リヤウイングの上昇／格納状態を表示することができます。



知識

n ラップ計測について

ラップ計測中にエンジンを停止すると、ラップ計測は停止し、計測していたタイムは計測停止時点まで記憶されます。

n G モニターの表示について

- l 傾斜のある場所など、路面の状況によっては停車中でもG値が0にならない場合があります。
- l エンジンの暖機中（可変レッドゾーンの上昇が7300r/minに到達するまで）は、ステアリング操作量、アクセル開度量、ブレーキ液圧が非表示状態になります。暖機終了後使用可能になります。
- l 車両や使用環境によって、ブレーキペダルを一杯に踏み込んでもブレーキ液圧の表示が最大にならない場合があります。
- l バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にステアリング操作量が表示されなくなりますが、しばらく走行することで表示されます。

ナビゲーションシステム連携表示について

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

- l 目的地案内
- l コンパス（ヘディングアップ表示）

オーディオシステム連携表示について

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

運転支援システム情報について

次のシステムの作動状況を表示します。

- l LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.162）
- l RSA（ロードサインアシスト）（→P.171）
- l レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.174）

警告メッセージについて

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P.291）

設定について

n 変更できる項目（メーター表示）

- l 言語

表示される言語を変更することができます

す。


Ⅰ 単位


燃費表示の単位を変更することができます。

Ⅰ エコドライブインジケータランプ (→P.67)

エコドライブインジケータランプの作動・非作動を変更することができます。

Ⅰ スイッチ設定

 スイッチにお好みの画面を登録する方法を表示します。

お好みの画面を登録しておく、 スイッチを押したときに登録した画面を表示させることができます。

Ⅰ ドライブインフォメーション画面 (→P.66)

ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ1、ドライブインフォ2、ドライブインフォ3それぞれに2項目ずつ選択することができます。

Ⅰ 割込表示 (→P.63)

下記の割り込み表示される項目の表示・非表示を変更することができます。

- ・ 交差点案内
- ・ 電話着信
- ・ オーディオ操作
- ・ ボリューム操作
- ・ 照度調整

Ⅰ REV インジケータ (→P.61)

- ・ REV インジケータの作動・非作動を変更することができます。
- ・ REV インジケータの表示を開始するエンジン回転数を設定します。

Ⅰ REV ピーク (→P.62)

REV ピークの作動・非作動を変更することができます。

Ⅰ ドライブモード画面

各走行モードを選択した時に表示される画面パターンを変更することができます。

Ⅰ 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

n 変更できる項目 (機能の切りかえ・車両設定)

→P.322

知識

n 設定画面の操作について

Ⅰ 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

Ⅰ 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

n バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

Ⅰ ドライブインフォメーション

Ⅰ ラップタイマー：計測データ、履歴

Ⅰ G モニター：最大Gの軌跡

n カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.322)

警告

n 運転中の使用について

Ⅰ マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

警告

I マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

n ディスプレイの設定を変更するときエンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

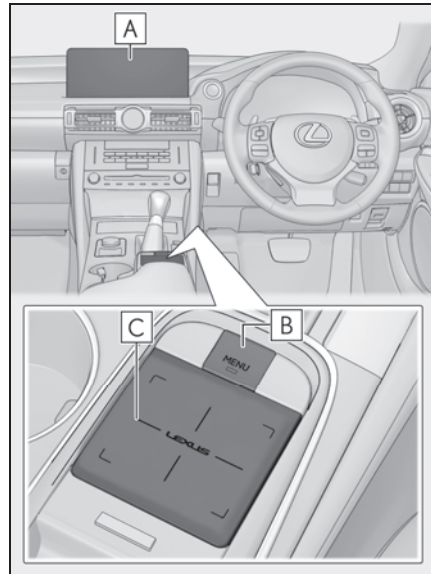
n ディスプレイの設定を変更するときバッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

燃費画面 / Harmonious Driving Navi. 画面

燃費に関する情報をセンターディスプレイに表示します。

燃費画面は、サイド画面にも表示することができます。

システムの構成部品



A センターディスプレイ

B MENU ボタン

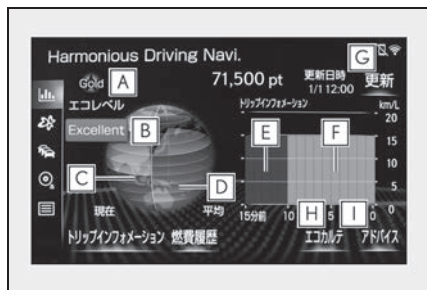
C タッチパッド

Harmonious Driving Navi. 画面の見方

n 画面を表示させるには

- 1 リモートタッチの“MENU”ボタンを押し、**i** を選択する
- 2 “エコ情報” を選択する

3 “Driving Navi” を選択する



A ステータス／ポイント表示 ※1

エコ運転の採点結果や走行情報を G-Link センターに送信し、計算されたデータをもとにステータスやポイント獲得率を表示します。

ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

B エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

C エコレベルメーター

エコドライブインジケーターランプの点灯を継続させることなどでメーターが増加します。

D エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

E トリップインフォメーション（前回エンジン始動～エンジン停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

F トリップインフォメーション（今回エンジン始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

G 更新スイッチ ※2

走行情報などを G-Link センターへ送信し、ステータス／ポイント表示を更新します。

H エコカルテススイッチ ※2

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO2 排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

I アドバイススイッチ

ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。

エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※1 G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。

G-Link の利用手続き・利用開始操作については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

※2 G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。

また、センターディスプレイに通信設定に関するメッセージが表示された場合は、メッセージに従って設定してください。

G-Link の利用手続き・利用開始操作については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

n G-Link センターへ送信する走行情報について

G-Link センターへ送信する走行情報は、

ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などは一致しないことがあります。

n Harmonious Driving Navi. 画面について

パソコンや携帯電話のユーザーサイトでモステータスなどをみることができます。

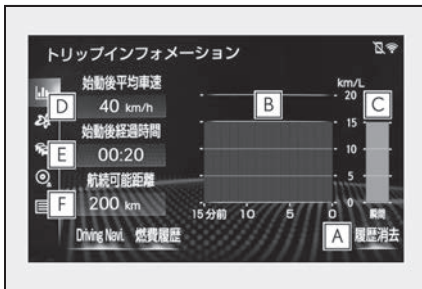
燃費画面の見方

n 画面を表示させるには

- 1 リモートタッチの“MENU” ボタンを押し、**i** を選択する
- 2 “エコ情報” を選択する
- 3 “トリップインフォメーション” または “燃費履歴” を選択する

n トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、“トリップインフォメーション” を選択します。



- A** 履歴消去
- B** 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費 (平均燃費)
- C** 瞬間燃費
- D** エンジン始動後平均車速

E エンジン始動後経過時間

F 航続可能距離 (→P.76)

平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

n 燃費履歴の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、“燃費履歴” を選択します。



- A** 過去最高値表示
- B** 最新値表示
- C** 過去平均燃費表示
- D** 履歴消去
- E** 最新値更新

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

n 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“更新”を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

n 燃費データをリセットするには

“履歴消去”を選択すると、燃費データがリセットされます。

n 航続可能距離について

1 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

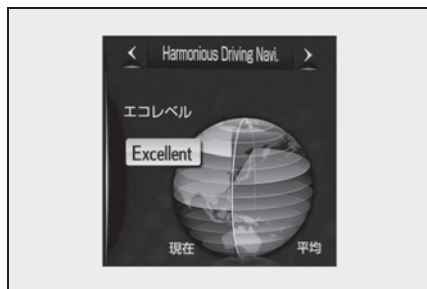
1 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

サイド画面の使い方

サイド画面に車両情報を表示して（→P.219）、**◀**または**▶**を選択してお好みの画面を表示します。表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

n Harmonious Driving Navi.

現在のエコ運転の状況を表示します。



n トリップインフォメーション（タイプA）

過去 10 分間の 1 分ごとの平均燃費と航続可能距離を表示します。



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

n トリップインフォメーション（タイプB）

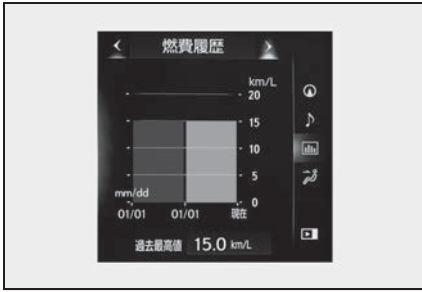
航続可能距離・最新値・始動後経過時間を表示します。



表示される最新値は、参考として利用してください。

n 燃費履歴

最新値と過去最高値を表示します。



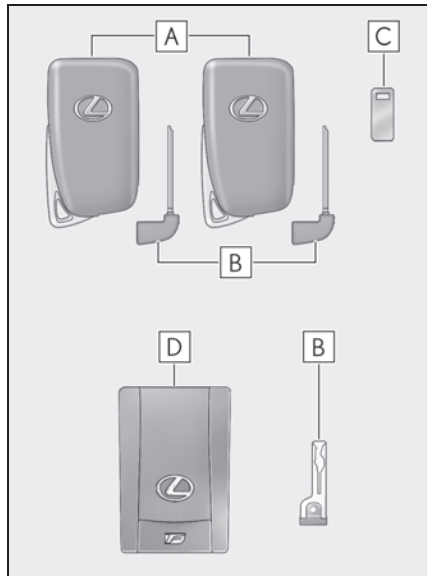
表示される平均燃費は、参考として利用してください。

3-1. キー	
キー	80
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	84
トランク	87
スマートエントリー&スタートシステム	91
3-3. シートの調整	
フロントシート	96
パワーイージーアクセスシステム/ ポジションメモリー/メモリー コール機能	98
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	101
インナーミラー	102
ドアミラー	103
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	106

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.91)
- ・ワイヤレス機能の作動 (→P.82)

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー

スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.91)



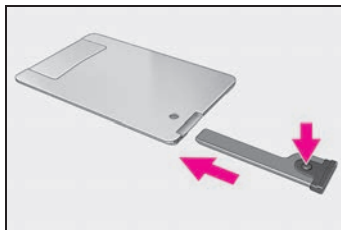
知識

n カードキーについて

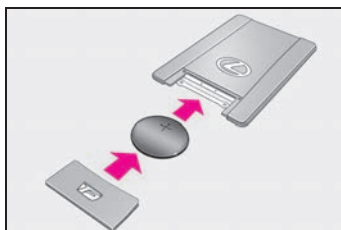
- l カードキーは非防水です。
- l カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してくだ

さい。

- l メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。
- l メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- l 電池カバーがはずれたときやめれたときに電池をはずした場合は、電池の+極をレクサスエンブレム面側に取り付けてください。



n 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

n 電池の消耗について

- l 電池の標準的な寿命は1～2年です。(カードキーの電池は1年半程度で消耗します)
- l 電池残量が少なくなると、エンジンを

停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- l 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・作動範囲が狭くなった
 - ・電子キーのLEDが点灯しない
 - l 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内
- n 電子キーの取り扱いについて

- 内に電子キーを保管しないでください。
- ・TV
 - ・パソコン
 - ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・電気スタンド
 - ・電磁調理器

n 電池の交換方法

→P.268

n キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

00

 注意

n キーの故障を防ぐために

- l 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- l 温度の高いところに長時間放置しない
- l ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- l キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- l 分解しない
- l 電子キー表面にシールなどを貼らない

- l テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

n キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

n スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.307

n 電子キーを紛失したとき

→P.306

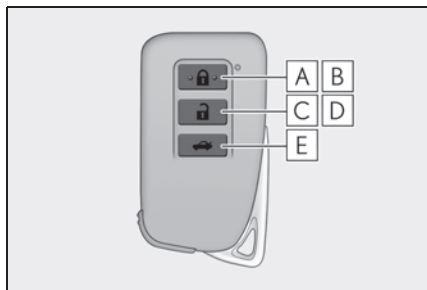
⚠ 注意

n カードキーの取り扱いについて

- ❶ メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- ❷ 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- ❸ 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- ❹ 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなる場合があります。
- ❺ 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- ❻ 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



- ❶ ドアを施錠する（→P.84）
- ❷ ドアガラスを閉める※（→P.84）
- ❸ ドアを解錠する（→P.84）
- ❹ ドアガラスを開く※（→P.84）
- ❺ トランクを開ける（→P.89）

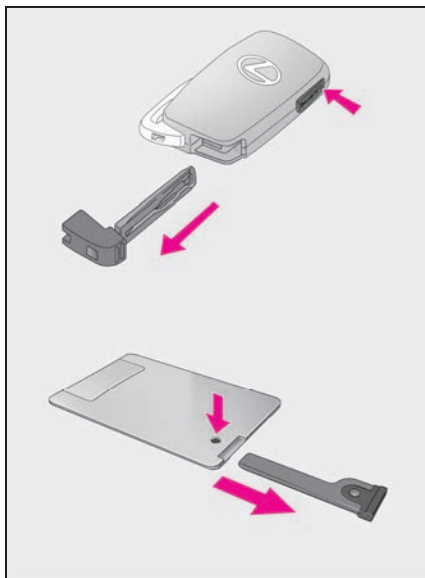
※レクサス販売店ででの設定変更が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.307）



知識

n 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じて、ラゲージセキュリティシステムをセット (→P.90) し、グローブボックスを施錠 (→P.233) します。

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

n メカニカルキーを紛失したとき

→P.306

n 不正キーの使用について

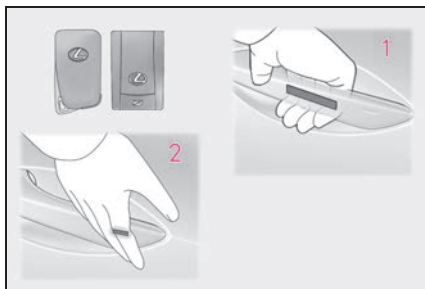
指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

ドア

車外から解錠／施錠するには

n スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



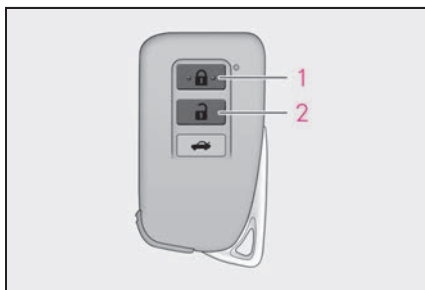
1 ドアハンドルを握って解錠する
ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

n ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。
※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ レクサス販売店ででの設定が必要です。




知識

n ドア連動ドアガラス開閉機能


ドアの開閉に連動して、ドアガラスが少し開閉します。

n 解錠するドアを切りかえるには


ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 オートアラームの侵入・傾斜センサーを停止する
(操作中のオートアラーム誤作動防止：→P.50)
- 3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、
 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 **3** を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ” (3回) 車内：“ポーン” (1回)	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピピッ” (2回) 車内：“ポーン” (1回)	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます)

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→P.48)

n 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

n 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

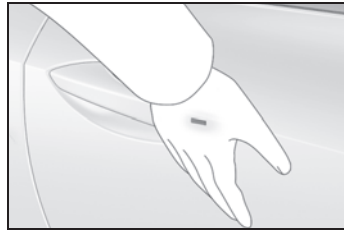
n 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開け

なかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

n ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。



n 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。

ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

n オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されません。(→P.48)

n スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に動かないおそれのあるとき

→P.92

n スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーやロックレバーを使ってドアの施錠・解錠ができます。

(→P.307)

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.268)

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.322)

警告

n 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1 すべてのドアを確実に閉め、施錠する

1 走行中はドア内側のドアレバーを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

n ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

n ドア連動ドアガラス開閉機能

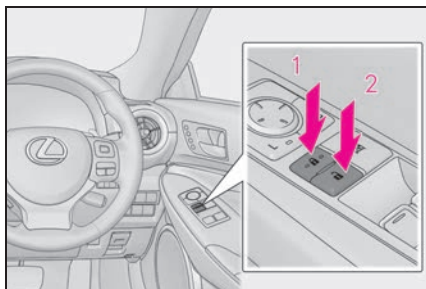
ドアガラスの上端を持ってドアを閉めないでください。ドアガラスで指などを挟むおそれがあります。

n ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

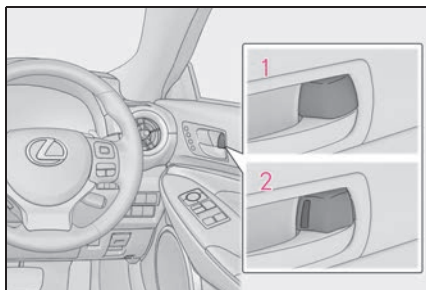
n ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

n ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

知識

n キーを使わずに外側から施錠するには

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを開める

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

ます。

n 半ドア走行時警告ブザー

ボンネット、いずれかのドア、またはトランクが確実に閉まっていません。ボンネット、各ドア、またはトランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5km/hをこえるとマスターウオーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。ボンネット、全ドア、およびトランクを確実に閉めてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.322を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約20km/h以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーをPから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーをPに入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチをOFFにしてから45秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 走行する前に

走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

n 走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

n トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあります。

トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。

トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

強風時の開閉には十分注意してください。

トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

トランクを開けるときは、顔や体などをぶつけないよう注意してください。



トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。



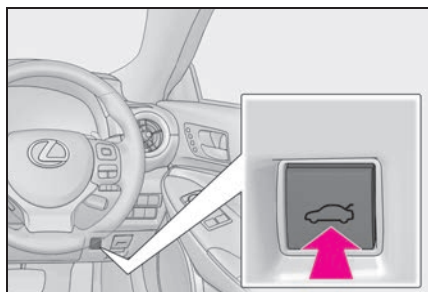
トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

トランクを開閉するには

n トランクオープナースイッチを使用して開く

スイッチを押す

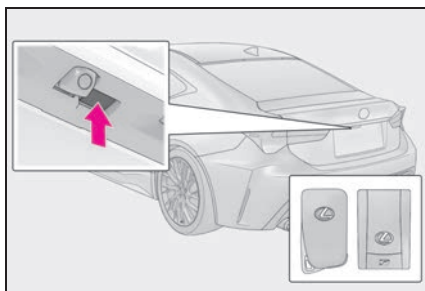


n スマートエントリー&スタートシステムを使用して開く

電子キーを携帯し、トランクのスイッチを押す

次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。

- l スマートエントリー&スタートシステム
- l ワイヤレス機能
- l ドアロックスイッチ
- l メカニカルキー
- l オートドアアンロック機能



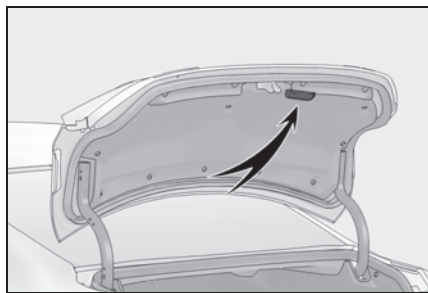
n ワイヤレス機能を使用して開く

スイッチを押し続ける
ブザーが鳴ります。



n 閉める

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。



□ 知識

n トランクランプ

- l トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。
- l エンジンスイッチがOFFの場合、トランクランプが点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。

n トランク内キー閉じ込み防止機能について

- l すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- l すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- l すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いて、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- l ドアがひとつでも解錠されている場合

は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

n メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。(→P.307)

n スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。(→P.307)

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.268)

n 半ドア走行時警告ブザー

→P.87

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.322)

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー & スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。

知識

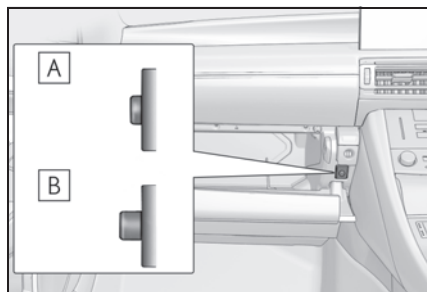
n 駐車場などでキーを預けるときは

→P.83

ラゲージセキュリティシステム

トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、ラゲージセキュリティシステムをセットできます。

グローブボックス内のメインスイッチを OFF にして、トランクオープナースイッチを無効にします。



A ON

B OFF

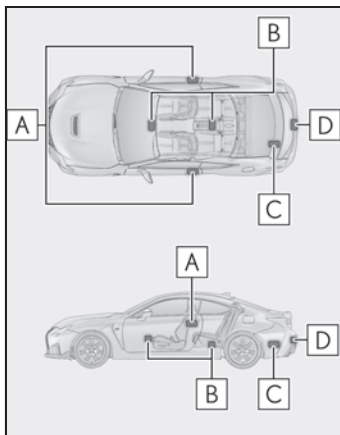
スマートエントリー&スタートシステム

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ┆ ドアを解錠・施錠する（→P.84）
- ┆ トランクを開ける（→P.88）
- ┆ エンジンを始動する（→P.118）

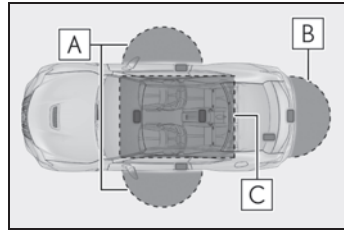
知識

n アンテナの位置



- A** 車外アンテナ
- B** 車室内アンテナ
- C** トランク内アンテナ
- D** トランク外アンテナ

n 作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

C エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

n 警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P.291）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- ┆ 車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出したあと、トランクを閉じる

- ⌋ 車内から警告音が“ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリモードにした（エンジンスイッチがアクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをOFFにした	運転席ドアを閉める

⌋ 節電機能



長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- ⌋ 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
- ・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- ⌋ 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンド

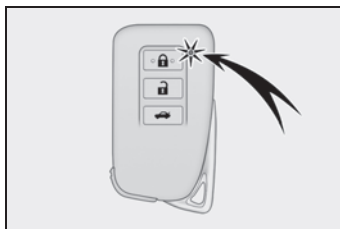
ルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

⌋ 電子キーを節電モードにするには

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



⌋ 機能が正常に動かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.307）

- ⌋ 電子キーの電池が消耗しているとき
- ⌋ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ⌋ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ⌋ 電子キーが、次のような金属製のもの

に接していたり、覆われたりしているとき

- ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・ 金属製の財布やかばん
- ・ 小銭
- ・ カイロ
- ・ CD や DVD などのメディア

| 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

| 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

- ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
- ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
- ・ デジタルオーディオプレーヤー
- ・ ポータブルゲーム機器

| リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

| 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

n ご留意いただきたいこと

| 電子キーが作動範囲内 (検知エリア内) にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。

- ・ 施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
- ・ トランクを開けるときの、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
- ・ エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

| インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められる

おそれがあります。

| 電子キーが作動範囲内であれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

| 車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、エンジンを始動できることがあります。

| 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します)

| ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。(ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できません)

| 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

| ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

| 電子キーを携帯したまま洗車をするとき、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

- ・ キーを車両から 2m 以上離れた場所におく (盗難に注意し保管してください)
- ・ キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する (→P.92)

| 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

| ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が

付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

- l すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

- l 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

n 長期間運転しないとき

- l 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。
- l あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。

n システムを正しく作動させるために

- l 電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近づけすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。)

- l トランク内に電子キーを置かないでください。

電子キーの場所(トランク内側の端)、状況(金属製のかばんの中、金属製のものの付近など)、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。

(→P.89)

n 電子キーが正常に作動しないとき

- l ドア・トランクの施錠・解錠：→P.307
- l エンジンの始動：→P.308

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.322)

n カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- l ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。(→P.84, 89, 307)

- l エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→P.308

- l エンジンの停止：→P.119

⚠ 警告

n 電波がおよぼす影響について(スマートエントリー&スタートシステムアンテナ)

- l 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ

(→P.91)から約22cm以内に近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

- l 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

 **警告**

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

⚠ 警告

n シートを調整するとき

1 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

1 シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。

指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。

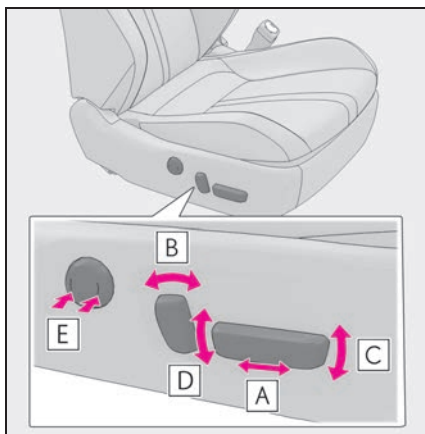
1 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

n リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

調整するには



A 前後位置調整

B リクライニング調整

C クッション前端の上下調整

D シート全体の上下調整

E 腰部位置調整（ランバーサポート）（運転席のみ）

📖 知識

n パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートとハンドルが動きます。

（→P.98）

n シートを調整するとき

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

リヤシートへの乗り降り（ワンタッチウォークインシート）

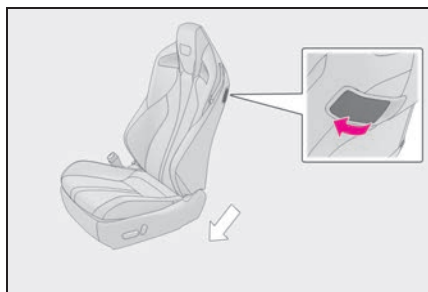
n 乗り降りする前に

シートベルトガイドからシートベルトをはずしてください。（→P.27）

n 乗るとき／降りるとき

1 レバーを引く

フロントシートが下がります。



2 背もたれを前に倒す

フロントシートが前方に移動します。



n フロントシートをもとにもどすとき

固定される位置まで背もたれを起こすと、自動でもとの位置にもどります。

知識

n ワンタッチウォークインシートについて

- l 前方への操作後、復帰させる前にシート調整スイッチや運転席ポジションメモリースイッチを押したときは、背もたれを起こしても復帰作動しません。
- l 次のときはワンタッチウォークインシートが作動しません。
 - ・ シートベルトを装着しているとき
 - ・ エンジンスイッチがイグニッションONモードでシフトレバーがP以外のとき（運転席のみ）
- l 次のときは、作動が途中で停止します。
 - ・ シート調整スイッチや運転席ポジションメモリースイッチを押したとき
 - ・ シートベルトを装着したとき
 - ・ エンジンスイッチがイグニッションONモードでシフトレバーをP以外にしたとき（運転席のみ）

n 挟み込み防止機能

ワンタッチウォークインシートの作動中に、シートの前後に異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し反対方向に少し

移動します。

警告

n ワンタッチウォークインシートについて

- l 操作する前に、周囲の人や物がシートに挟まるおそれがないことを確認してください。
- l 走行時は背もたれを確実に固定させてください。
- l 走行中は絶対に操作しないでください。

n 挟み込み防止機能

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・体・足などを挟んだりしないでください。

パワーイーゼリアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能

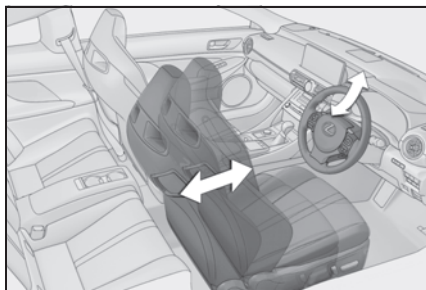
自動でシート・ハンドル・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

パワーイーゼリアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- ┆ シフトレバーをPに入れる
- ┆ エンジンスイッチをOFFにする
- ┆ シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- ┆ エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッションONモードにする
- ┆ シートベルトを着用する

知識

n パワーイーゼリアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が後方付近にあるときは、パワーイーゼリアクセスシステムが作動しない場合があります。

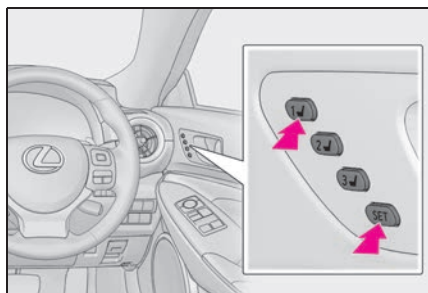
n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.322)

ドライビングポジションを登録するには

- 1 エンジンスイッチをイグニッションONモードにする
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する
- 4 SET ボタンを押しながら、またはSET ボタンを押したあと3秒以内に1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



知識

n 登録できるシート位置 (→P.96)

腰部位置調整(ランバーサポート)以外の位置が登録できます。

n ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

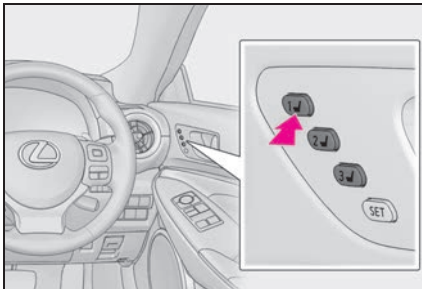
警告

n シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをイグニッションONモードにする
- 3 1～3のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

n ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- l SET ボタンを押す
- l 1～3のボタンを押す

- l シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- l ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

n エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

電子キー（カードキーを含む）にドライビングポジションを登録／解除／呼び出しをするには（メモリーコール機能）

n 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1～3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

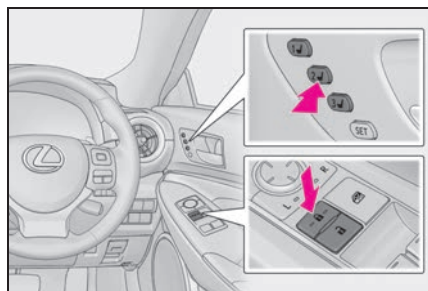
登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。

車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをイグニッションONモードにする
- 3 登録させたいドライビングポジション（1～3）を呼び出す
- 4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブ

ザーが鳴り続けます。



n 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。

車内にキーが2つ以上あると、正確に解除できません。

- 1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約3秒間ブザーが鳴り続けます。

n 呼び出し方法

- 1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

- 2 エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON

モードにするか、シートベルトを着用する

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

知識

n メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 1 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯するキーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- 1 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

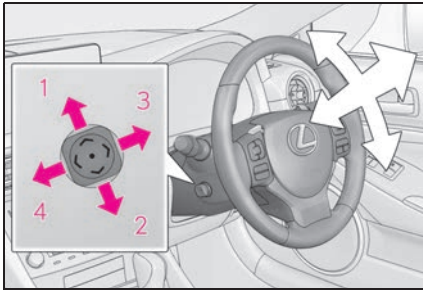
n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.322)

ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



- 1 上方へ
- 2 下方へ
- 3 手前へ
- 4 前方へ

知識

n ハンドル位置調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき
※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

n ハンドル位置の自動調整

好みのハンドル位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。
(→P.98)

n パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→P.98)

警告

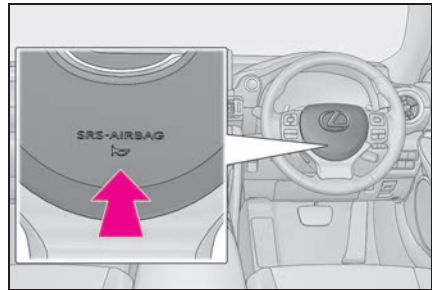
n 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。

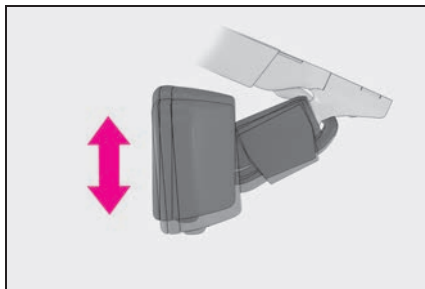


インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

n 走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

自動防眩機能を使うには

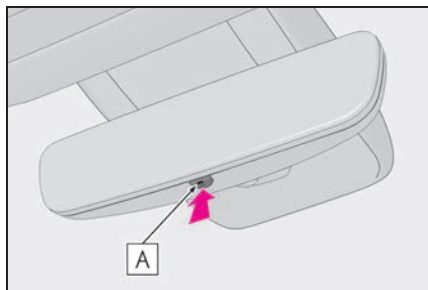
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の ON / OFF を切りかえる

ON のときはインジケータ－**A**が点灯します。

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

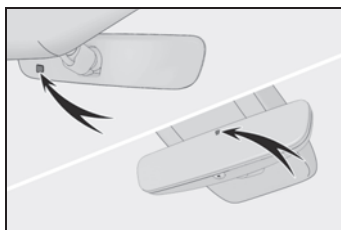
ボタンを押すと OFF になりインジケータ－**A**が消灯します。



知識

n センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

□ 知識

n 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

⚠ 警告

n 走行中の留意事項

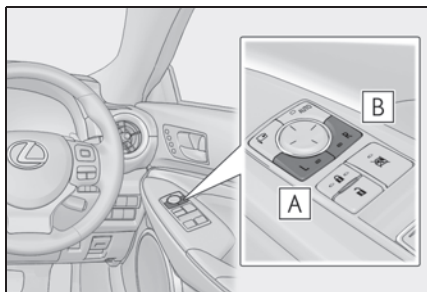
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ┃ ミラーの調整をしない
- ┃ ドアミラーを格納したまま走行しない
- ┃ 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

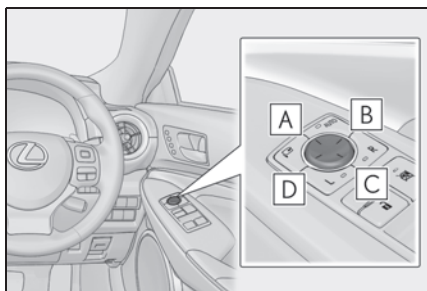


A 左

B 右

もう一度押すと、選択が解除されます。

- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

C 下

D 左

□ 知識

n 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

n ミラーの曇りを取りたいときは

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.224)

n 自動防眩機能★

インナーミラーの自動防眩機能を ON にしておくと、運転席側のドアミラーも連動して防眩機能が作動します。

(→P.102)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

n ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.98)

n リバース連動機能

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

後退時に下向きになる角度を調整するときは、シフトレバーを R に入れた状態で鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時(シフトレバーが R 以外のとき)の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

警告

n ミラーヒーターが作動しているとき

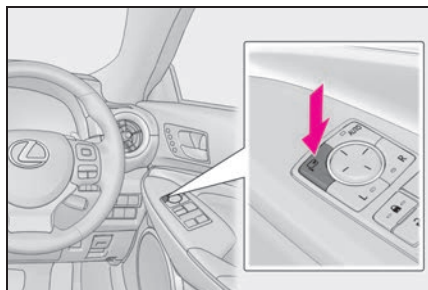
ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納するには

n マニュアル作動での格納・復帰

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



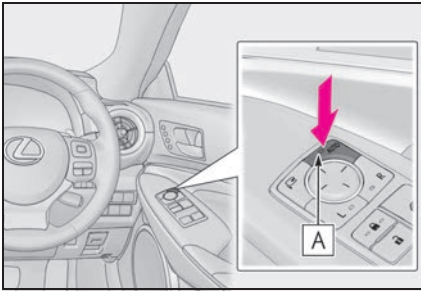
n オート作動での格納・復帰

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーター **A** が点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。



□ 知識

n バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFF の状態にもどります。機能を ON にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

n カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができません。(→P.322)

⚠ 警告

n ミラーが動いているとき

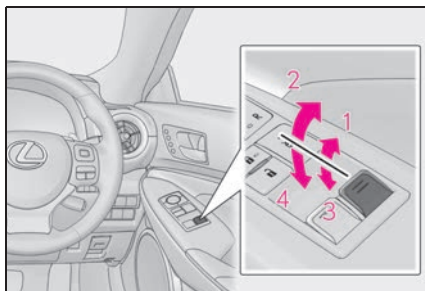
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



- 1 閉める
- 2 自動全閉 ※
- 3 開ける
- 4 自動全開 ※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

n 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

n エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動なくなります。

n 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

n 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

n ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

1 車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態に、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

1 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドア

ガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス 販売店で点検を受けてください。

n ドアロック連動ドアガラス開閉機能

l メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。* (→P.308)

l ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。* (→P.84)

l オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.48)

* レクサス販売店での設定変更が必要です。

n 窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.322)

⚠ 警告

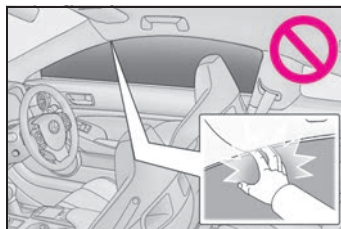
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n ドアガラスを開閉するとき

l 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.108)

l ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



l ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

l 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

n 挟み込み防止機能

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

n 巻き込み防止機能

巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

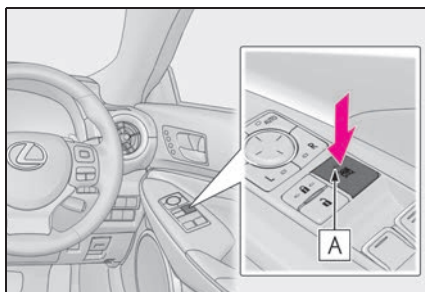
巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター

Aが点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。



知識

n 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

n バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

4-1. 運転にあたって

- 運転にあたって..... 110
- 荷物を積むときの注意..... 117

4-2. 運転のしかた

- エンジン（イグニッション）スイッチ..... 118
- オートマチックトランスミッション..... 122
- 方向指示レバー..... 126
- 電動パーキングブレーキ..... 127
- ブレーキホールド..... 130
- ASC（アクティブサウンドコントロール）..... 132

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

- ランプスイッチ..... 133
- AHB（オートマチックハイビーム）..... 136
- フォグランプスイッチ..... 138
- ワイパー&ウォッシャー..... 139

4-4. 給油のしかた

- 給油口の開け方..... 144

4-5. 運転支援装置について

- Lexus Safety System + 147
- PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 152
- LTA（レーントレーシングアシスト）..... 162
- RSA（ロードサインアシスト）..... 171
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 174
- 先行車発進告知機能..... 183
- BSM（ブラインドスポットモニター）..... 185

- クリアランスソナー..... 193
- ドライブモードセレクトスイッチ..... 199
- ローンチコントロール..... 200
- アクティブリヤウイング..... 202
- サーキットモード..... 205
- 運転を補助する装置..... 207

4-6. 運転のアドバイス

- 寒冷時の運転..... 212

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

n エンジンをかける

→P.118

n 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする (→P.122)
- 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する (→P.127)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

n 停車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーをPまたはNにします。(→P.122)

n 駐車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.127)、シフトレバーをPにする (→P.122)
- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する
- 4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に

応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

n 上り坂で発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする
- 2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む
- 4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押して、パーキングブレーキを解除して発進する

知識

n 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→P.208)

n サマータイヤでの走行について

外気温が低いとき、ハンドル操作を行いながら発進するとノイズが発生する場合がありますが故障ではありません。

n 雨の日の運転について

- l 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- l 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- l 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

n 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- l 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- l アクセルペダルを離したとき
- l スポーツモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき

n エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- l アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- l ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

n 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などをバンパーやアルミ部分・カーボン部品に取り付けることはできません。

n オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- l 暑い日に長い上り坂を走行する
- l 高速走行直後に急減速や急停止をする

n 高摩擦ブレーキパッド装着車について

車速、制動力や車両を取り巻く環境（気温、湿度など）によってはブレーキノイズが発生することがあります。

n 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

n 運転するとき

- l 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- l 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.276を参照してください。

急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.122)

走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

n すべりやすい路面を運転するとき

急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

n シフトレバーを操作するとき

シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

n ブレーキパッド摩耗の警告メッセージが表示されたとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

n 停車するとき

空ぶかしをしないでください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあります。

n 駐車するとき

炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。

放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあります。

- ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
- ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたりしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあります。

ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあります。

シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあります。

警告

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、エンジンを停止し、施錠してください。

エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

n 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。

ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。

ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。

ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまう。

- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

CCB（カーボンセラミックブレーキ）装着車は、次のようなときなどにブレーキの効きが低下することがあります。

- ブレーキパッドまたはブレーキディスクを交換した直後
- 洗車後・水たまり走行時・雪道走行時など、ブレーキがぬれているとき
- ブレーキディスクの温度が低いとき

特にホイール内に雪が堆積するような雪道走行時は、パッドとディスクの間に氷が付着し、さらに効きが低下するおそれがあります。

車間距離を十分にとって控えめな速度で走行し、減速時はブレーキペダルを通常より強く踏んでください。

警告

n 万一脱輪したとき

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

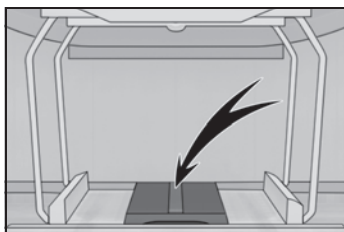
注意

n 運転しているとき

- l 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- l 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

n 駐車するとき

- l 必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
- l チタンマフラー装着車：立体駐車場のような段差がある場所に駐車するときは、マフラーが干渉して、損傷するおそれがあります。



n 部品の損傷を防ぐために

- l パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- l ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。
- l チタンマフラー装着車：最低地上高が低い場合、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。マフラーを損傷するおそれがあります。

n 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- l ハンドルがとられる
- l 異常な音や振動がある
- l 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.294を参照してください。

n 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- l エンストする
- l 電装品がショートする
- l 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

- l ブレーキの効き具合

⚠ 注意

- l エンジン・オートマチックトランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
 - l プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良
 - n CCB（カーボンセラミックブレーキ）
 - ★ディスクの取り扱いについて
- CCBディスクに強い衝撃をあたえないでください。
- 次のようなときは、明らかな損傷が見られない場合でもレクサス販売店で点検を受けてください。
- l サスペンション・ホイールに影響するような事故が起きたとき
 - l ブレーキパッドの磨耗により、パッドの金属板がCCBディスク表面に接触したとき
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

n 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

- l Rに切りかえたとき※
- l PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってくだ

さい。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

n 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにエンジン出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「速度抑制中」が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

□ 知識

n ドライブスタートコントロールについて

- l TRCの作動を停止（→P.209）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRCの作動を停止してください。（→P.209）
- l タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- l 後退速度の抑制制御のON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.326）
 - ・ エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたときは、後退速度の抑制制御は常にON（作動）になっています。
 - ・ 後退速度の抑制制御をOFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

n 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- | 燃料が入った容器
- | スプレー缶

n 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- | できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- | 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インstrumentパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ センターディスプレイの前
- | 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

n 荷物の重量・荷重のかけ方について

- | 荷物を積み過ぎないでください。


- | 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

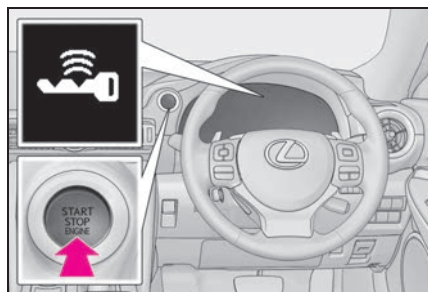
- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
マルチインフォメーションディスプレイにとメッセージが表示されます。表示されないと、エンジンはかかりません。
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



知識

n エンジンが始動しないとき

l エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→P.47)
レクサス販売店へご連絡ください。

l シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しエンジンを始動することができないことがあります。

n 電子キーの電池の消耗について

→P.80

n スマートエントリー&スタートシステムが正常に動かないおそれのある状況

→P.92

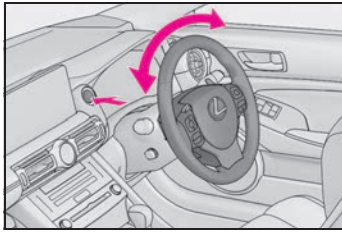
n ご留意いただきたいこと

→P.93

n ステアリングロック機能

l エンジンスイッチをOFFにしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

l ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに“ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください”が表示されます。シフトレバーがPの位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



- l 短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

n 電子キーの電池交換

→P.268

n エンジンスイッチの操作について

- l スイッチを短く確実に押していない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。
- l エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

n カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー & スタートシステムを非作動にしたときは、P.307 を参照してください。

⚠ 警告

n エンジンを開始するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしったりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

n エンジンを開始するとき

- l エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- l もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

n エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

エンジン停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.127)、シフトレバーを P の位置にする
- 3 エンジンスイッチを押す
- 4 ブレーキペダルから足を離してメーターの表示が消灯していることを確認する

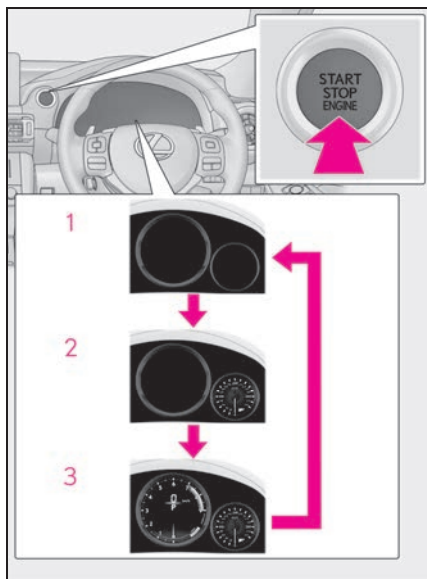
警告

n 緊急時のエンジン停止方法

- 1 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→P.276)
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 2 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 3 走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、エンジンスイッチを押してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



1 OFF※

非常点滅灯が使用できません。
アナログスピードメーターとタコメーターが消灯します。
ただし、ウェルカム演出時のみ、アナログスピードメーターが点灯します。(ウェルカム演出：→P.62)

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
アナログスピードメーターが点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
アナログスピードメーターとタコメーターが点灯します。

※シフトレバーがP以外のときはアクセサリモードになり、OFFになりません。

知識

n 自動電源 OFF 機能

シフトレバーがPにあるとき、20分以上アクセサリモードか1時間以上イグニッション ON モード(エンジンがか

かかっていない状態) にしたままにしておく、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

注意

n バッテリーあがりを防止するために

| エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

| エンジンがかかっていないときに、アナログスピードメーターが消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

ただし、ウェルカム演出により、エンジンスイッチが OFF でもアナログスピードメーターが点灯する場合があります。(ウェルカム演出: →P.62)

さい” が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す

- 4 マルチインフォメーションディスプレイの “電源を Off してください” の表示が消灯していることを確認する

注意

n バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに “電源を Off してくだ

オートマチックトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	M モード走行 ※2 (→P.125)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

知識

n リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

n オートマチックトランスミッションの保護制御

トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに“AT オイル高温 取扱書を確認してください”が表示され、自動的に保護モードに入ります。レクサス販売店で点検を受けてください。

n レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

l D ポジションでのレンジ選択走行中に 7、6、5 または 4 にレンジダウンしたとき (→P.124)

l D ポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき (→P.199)

n 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.116

n AI-SHIFT

l AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションにしているとき自動的に作動します（シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

l NAVI・AI-SHIFT：

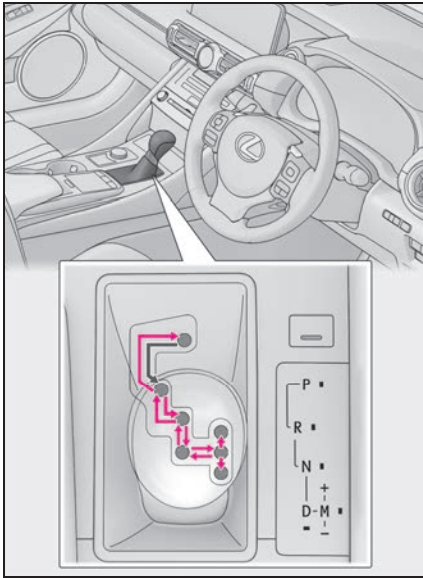
ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

警告

n すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



← エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

知識

n シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

n シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロッ

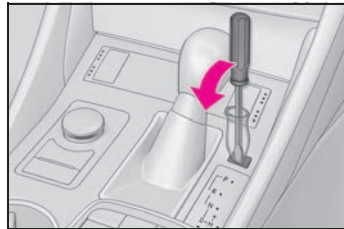
クシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

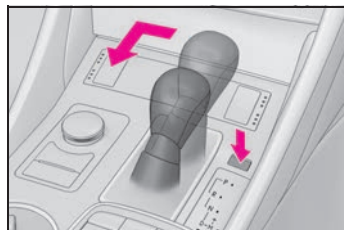
シフトロックの解除のしかた：

- 1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、パーキングブレーキがかかっていることを確認する (→P.120, 127)
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押すボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

n シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

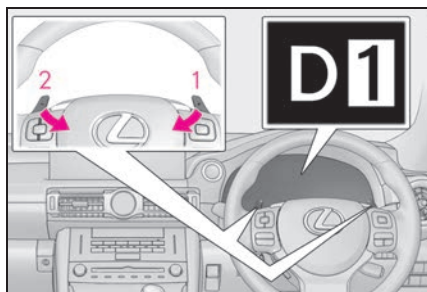
n ドライブモード

→P.199

D ポジションでレンジ選択するには

パドルシフトスイッチの“-”側または“+”側を操作すると、一時的にレンジを選択する走行へ切りかわります。

パドルシフトスイッチの“-”側を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンシフトします。パドルシフトスイッチの“+”側を操作したときは、現在のギヤ段より一つ上のレンジにシフトアップします。レンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D8 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上保持します。

メーター表示	機能
D2 ~ D8	スピードや走行条件に応じて、1速から選択したギヤまで自動的にかわります。
D1	ギヤが1速に固定されません。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

n Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的にDポジションでのレンジ選択が解除されます。

- l 停車したとき
- l アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- l シフトレバーをD以外にしたとき

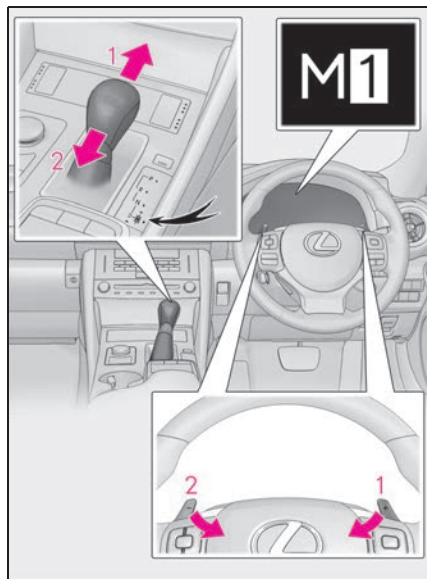
n シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンで

きない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

M モードでギヤ段選択するには

シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作するごとに1速ずつ変速します。M1 から M8 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。

M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

┆ 車速が低下した場合 (シフトダウンのみ)

┆ エンジン冷却水やオートマチックトランスミッションフルードが低温のときなど、エンジンまたはオートマチックトランスミッションの保護が必要な場合

次の場合はシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しても変速しません。

┆ マルチインフォメーションディスプレイに“滑りやすい路面のためダウンシフトできません”と表示されている場合

┆ 車速が低い場合 (シフトアップのみ)

知識

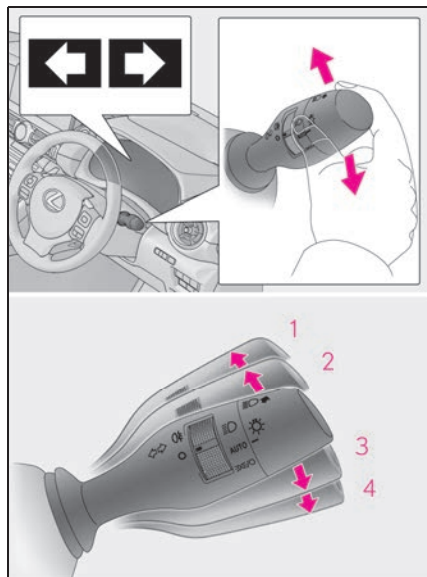
n シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

方向指示レバー

操作のしかた

レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。



1 左折

2 左側へ車線変更

(レバーを途中で保持※)

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

3 右側へ車線変更

(レバーを途中で保持※)

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

4 右折

※ **2** または **3** の位置にレバー操作し、すぐに離れたときは方向指示灯が5回点滅します。

n 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の **2** または **3** の位置に操作してください。レバーを **1** または **4** の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

知識

n 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

n 表示灯の点滅が異常に速くなったとき
すべての方向指示灯が点滅しているか、確認してください。(→P.272)

すべての方向指示灯が点滅しているのに点滅が異常に速いときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電動パーキングブレーキ

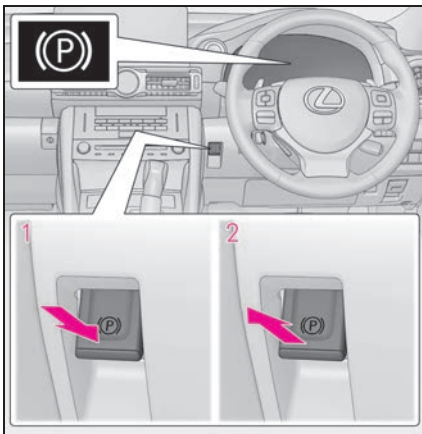
自動または手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

n マニュアルモード

手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



- 1 スイッチを押し、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

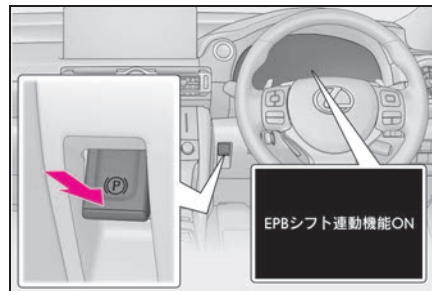
- 2 スイッチを引き、パーキングブレーキを解除する

- ・ ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- ・ パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

n オートモードを ON にする

停車中に、“EPB シフト連動機能 ON” がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるまでスイッチを押し続ける



オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

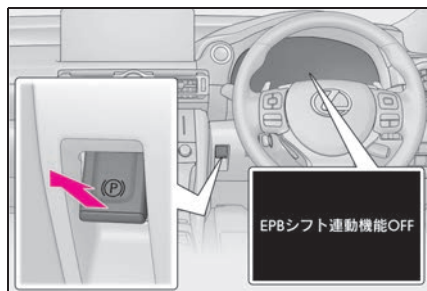
- 1 シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- 1 シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

n オートモードを OFF にする

停車中に、“EPB シフト連動機能 OFF” がマルチインフォメーション

ディスプレイに表示されるまでスイッチを引き続ける



□ 知識

n パーキングブレーキの作動

- l エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- l エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

n パーキングブレーキ自動解除機能について

アクセルペダルをゆっくりと踏むとパーキングブレーキが自動で解除されます。次の条件をすべて満たすと自動解除機能が作動します。

- l 運転席ドアが閉じている
- l 運転席シートベルトを着用している
- l シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある
- l エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合は、手動で解除してください。

n マルチインフォメーションディスプレイに“EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください”が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1分程度でもとの状態にもどります。

n マルチインフォメーションディスプレイに“EPB 動作が途中で停止しました”または“EPB 現在使用できません”が表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクス販売店で点検を受けてください。

n パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

n パーキングブレーキ表示灯について

- l パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
イグニッション ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
イグニッション ON モード以外：約 15 秒間点灯します。
- l パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

n 駐車するとき

→P.110

n **パーキングブレーキ未解除警告ブザー**
 パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“EPBがロックされています”が表示されます。

n **警告メッセージ・警告ブザーについて**
 操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

n **ブレーキ警告灯が点灯したとき**

→P.284

n **冬季のパーキングブレーキの使用について**

→P.212

n **故障などでかかったままになったとき**

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告

n **駐車するとき**

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

n **駐車するとき**

車から離れるときは、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

n **システムに異常が発生したら**

安全な場所に車を止め、警告表示を確認してください。

ブレーキホールド

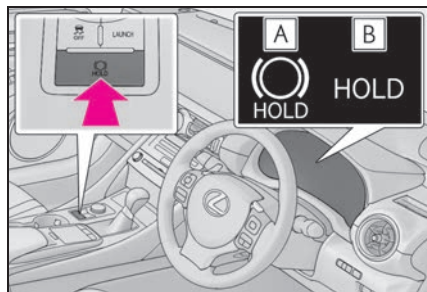
シフトレバーが D・M または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または M のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）

A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）**B** が点灯します。



知識

n システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

- ┆ 運転席ドアが閉まっていない
 - ┆ 運転席シートベルトを着用していない
 - ┆ パーキングブレーキがかかっている
- ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、シス

テムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

n ブレーキ保持について

┆ ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

┆ 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

┆ ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

┆ パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからエンジンスイッチを OFF にしてください。

n ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかけたとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- ┆ 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
 - ┆ ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する
- 操作したあとパーキングブレーキ表示灯

が消灯したことを確認してください。
(→P.127)

n レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

n マルチインフォメーションディスプレイに“BrakeHold 故障”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

n 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

n ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.286

注意

n 駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

警告

n 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

n すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

ASC (アクティブサウンド コントロール)

ASC は、アクセル操作やシフト操作に対する車からのレスポンスを音で強調し、ダイナミックなエンジンサウンドを実現します。特に M モード (→P.125) で走行するときは、車の挙動との一体感や走りの楽しさをさらに深めます。



n 作動条件

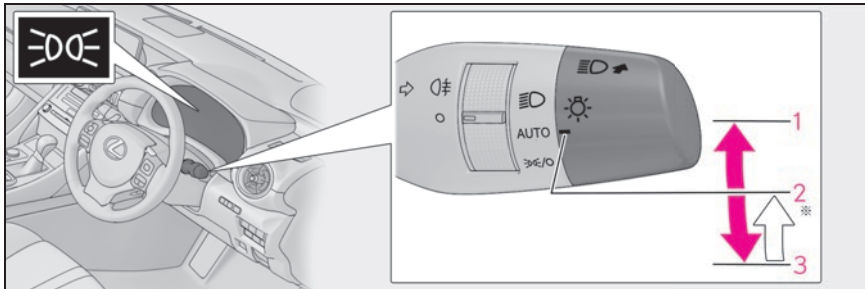
ドライブモードセレクトスイッチがスポーツ S+ モードのとき (→P.199)


ランプスイッチ

自動または手でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた


次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** **AUTO** の位置へ戻ります。



ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO ※1	LED デイライト (→P.134) が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3  / O ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

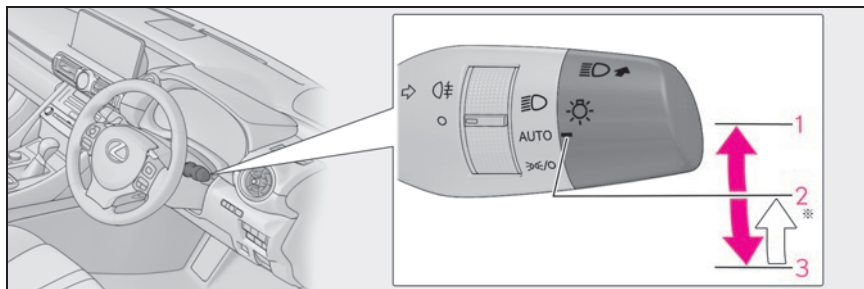
※1 操作するたびに、**2** **AUTO** による点灯状態と **3**  による点灯状態が切りかわります。



※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると **2** **AUTO** による点灯状態に切りかわります。


消灯のしかた

 スイッチを **3**  の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1**  か **3**  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2**  の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト (→P.134) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

n LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見えやすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します。)

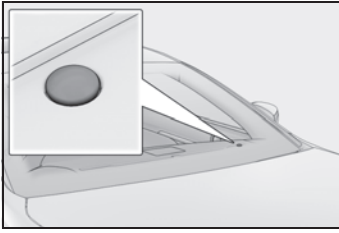
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

n 自動で点灯/消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯/消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

n ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



n ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO にし

てから  または  の位置にします。

n ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

n オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.322)

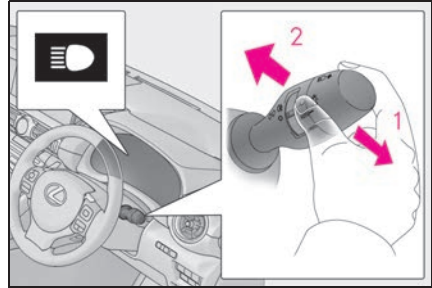


注意

n バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

n 安全にお使いいただくために

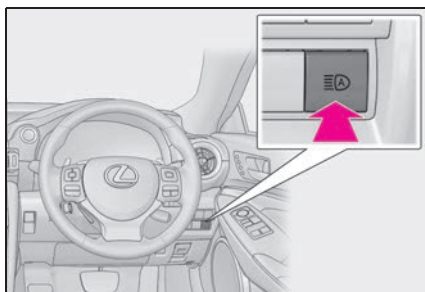
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切りかえてください。

n オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームを使うには

- 1 オートマチックハイビームスイッチを押す

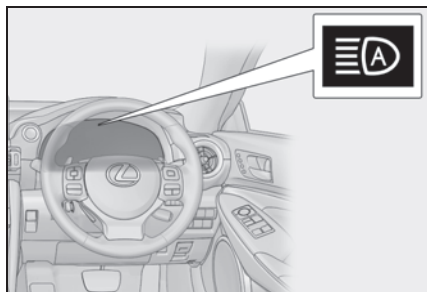


- 2 ランプスイッチをAUTOまたは

の位置にする

オートマチックハイビームが作動すると、

オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



知識

n ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

l 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- ・車速が約 30km/h 以上
- ・車両前方が暗い
- ・前方にランプを点灯した車両がない
- ・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

l 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- ・車速が約 25km/h 以下
- ・車両前方が明るい
- ・前方車両がランプを点灯している
- ・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

n カメラセンサーの検知について

l 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- ・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- ・他車が前方を横切ったとき
- ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・前方車両が無灯火のとき

l 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合

があります。

- | 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- | 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
 - ・前方車両のランプの明るさ
 - ・前方車両の動きや向き
 - ・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・前方車両が二輪車するとき
 - ・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・乗車人数や荷物の量
- | ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- | 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- | 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
 - ・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
 - ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
 - ・先行車から水・雪・土埃などの巻き上

げがあるとき

- ・急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・カーブが多い道路を走行しているとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
- ・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・バンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

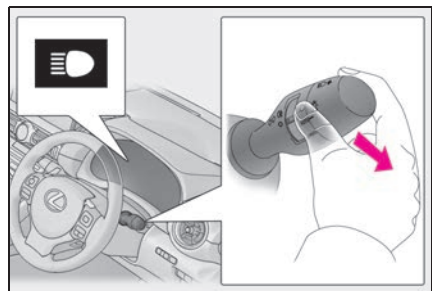
手動制御に切りかえるには

n ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

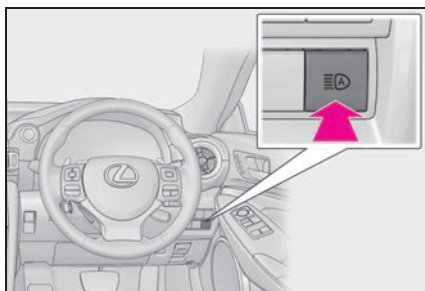


n ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

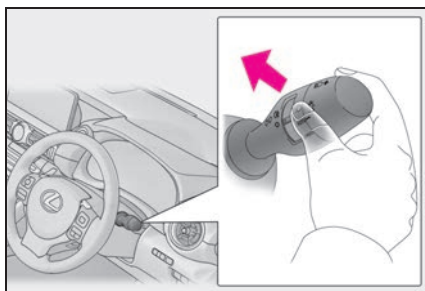
オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。



n 一時的なロービームへの切りかえ
レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



知識

n 一時的なロービームへの切りかえについて

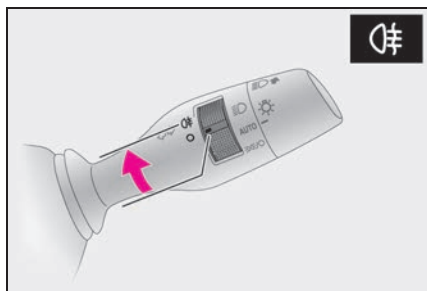
ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

フォグランプスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。

操作のしかた



点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。
再度操作すると消灯します。

知識

n 作動条件

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

n リヤフォグランプについて

l リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

l 視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー


レバー操作で、ワイパーの作動を自動/手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

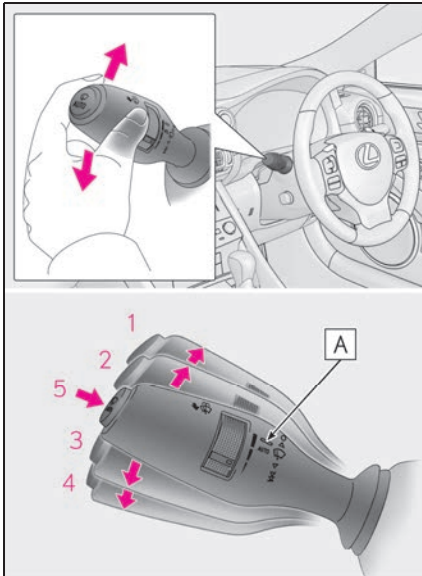
⚠ 注意

n フロントウインドウガラスが乾いているとき


ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。レバーは操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。



- 1 ○ レバーを 2 段階上げる
- 2 △ レバーを 1 段階上げる

- 3 ▽ レバーを 1 段階下げる
- 4 ☹ レバーを 2 段階下げる
- 5  AUTO モード ON/OFF スイッチ

雨滴量や車速に応じてワイパーが作動する AUTO モードの ON/OFF を切りかえます。

AUTO モードのときは、AUTO モード表示灯 **A** が点灯します。

操作前の状態によって、レバーを操作したときのワイパー作動は次のように切りかわります。

・ 操作前の状態：停止

操作する位置	作動
○	一時作動
△	一時作動
▽	低速作動
☹	高速作動

・ 操作前の状態：低速作動

操作する位置	作動
○	停止
△	停止
▽	高速作動
☹	高速作動

・ 操作前の状態：高速作動

操作する位置	作動
○	停止
△	低速作動

操作する位置	作動
▽	変化なし
≡	変化なし

- ・ 操作前の状態：AUTO モード（間欠作動）

操作する位置	作動
○	停止
△	一時作動 ※1
▽	低速作動 ※2
≡	高速作動 ※2

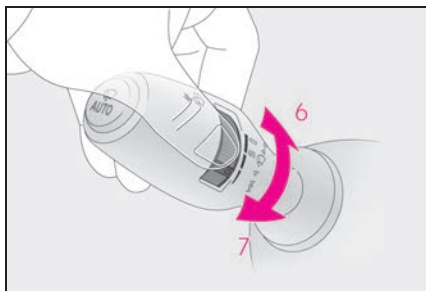
- ・ 操作前の状態：AUTO モード（連続作動）

操作する位置	作動
○	停止
△	変化なし
▽	低速作動 ※2
≡	高速作動 ※2

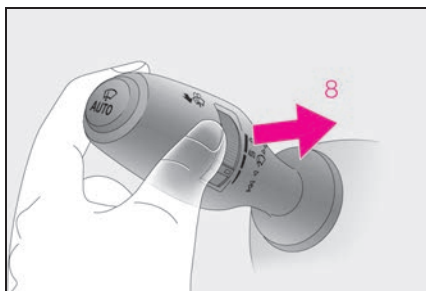
※1一時作動後、AUTO モードにもどりません。


※2AUTO モードは解除されます。

AUTO モードのときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



- 6 雨滴センサーの感度調整（高）
- 7 雨滴センサーの感度調整（低）



- 8  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：
エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態ではヘッドランプが点灯しているとき、5回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。

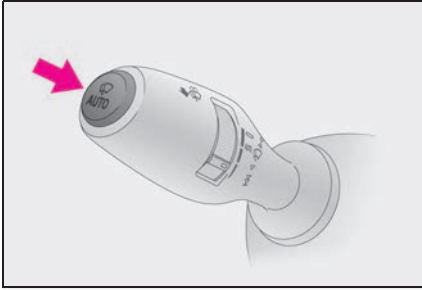
間欠時間調整式ワイパーへの切りかえ

雨滴量や車速に関係なく間欠作動する間欠時間調整式ワイパーとして使用することができます。停車中で、ワイパーが停止状態のときに切りかえることができます。AUTO モードのとき、または間欠作動中は切りかえることができません。

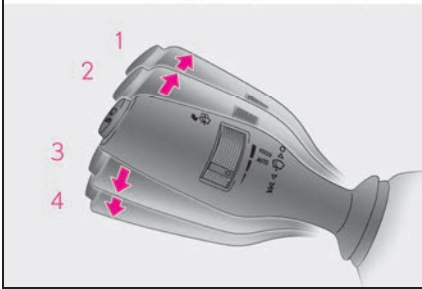
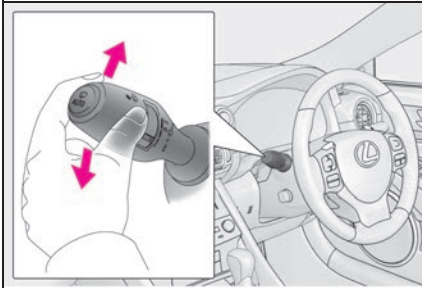
 ボタンを AUTO モード表示灯の

点滅が終わるまで押し続ける

もう一度 AUTO モード表示灯の点滅が終わるまで押し続けるとともにもどります。



n 間欠時間調整式ワイパーの作動



- 1 ○ レバーを 2 段階上げる
- 2 △ レバーを 1 段階上げる
- 3 ▽ レバーを 1 段階下げる
- 4 ≡ レバーを 2 段階下げる

操作前の状態によって、レバーを操作したときのワイパー作動は次のように切りかわります。

・ 操作前の状態：停止

操作する位置	作動
○	一時作動
△	一時作動
▽	間欠作動
≡	高速作動

・ 操作前の状態：間欠作動

操作する位置	作動
○	停止
△	停止
▽	低速作動
≡	高速作動

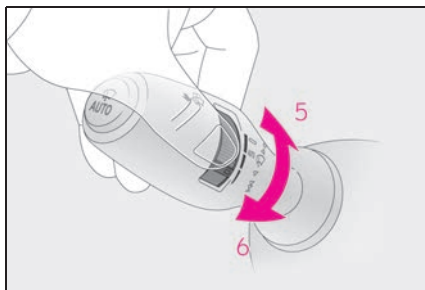
・ 操作前の状態：低速作動

操作する位置	作動
○	停止
△	間欠作動
▽	高速作動
≡	高速作動

・ 操作前の状態：高速作動

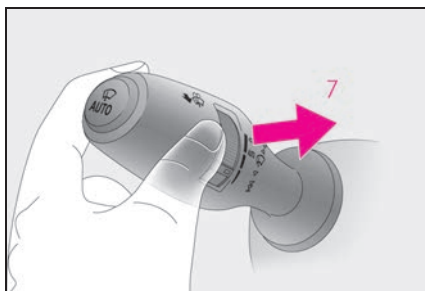
操作する位置	作動
○	停止
△	低速作動
▽	変化なし
≡	変化なし


間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



5 間欠ワイパーの作動頻度 (増)

6 間欠ワイパーの作動頻度 (減)



7  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：
エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態ヘッドランプが点灯しているとき、5回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。

知識

n 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

n 液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。

ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

n 車速による作動への影響

l 停車中は間欠時間調整式ワイパーの間欠時間がかわります。

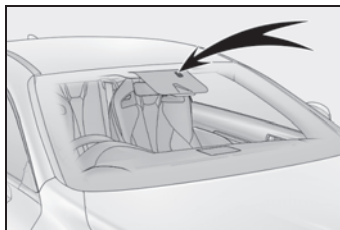
l 低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。

(雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます)

n 雨滴感知センサー

l 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。


光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



l エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときに AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

l 雨滴感知センサーの温度が 85℃ 以上または -30℃ 以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

n ワイパーが一時的に作動しているとき

 を押しても AUTO モードに切りかわりません。

n ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのに

ウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 **警告**

n AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

n ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意**

n ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

n ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- I ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- I 燃料の種類を確認してください。



知識

n 燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

n エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3% 以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3% 以下）も使用することができます。



警告

n 給油するときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- I 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がある場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

I 気化した燃料を吸わないようにしてください。

燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

I 喫煙しないでください。

I 給油口にノズルを確実に挿入してください。

I 継ぎ足し給油をしないでください。

I 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。



注意

n 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。次のような状態になるおそれがあります。

- I エンジンの始動性が悪くなる
- I エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- I エンジン出力が低下する
- I 排気制御システムが正常に機能しない
- I 燃料系部品が損傷する



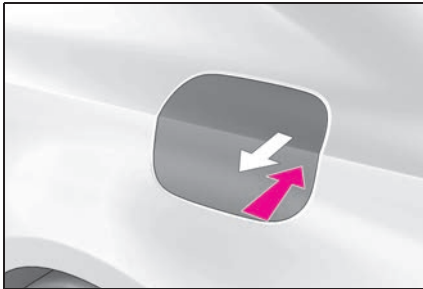
注意

I 塗装が損傷する

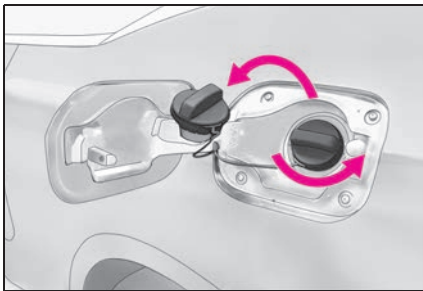
給油口を開けるには

1 ドアが解錠された状態で、給油扉の車両後端の中央部分を押し

“カチッ”と音がするまで押し、手を離すと給油扉が少し開きます。その後、手で全開にします。



2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



知識

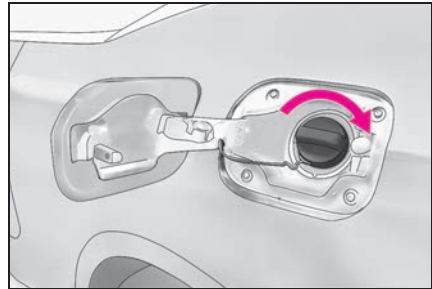
n 給油扉が開かないとき

→P.306

給油口の閉め方

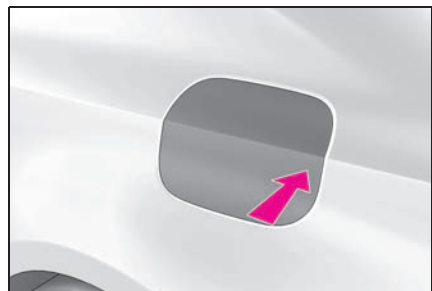
1 キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



2 給油扉を閉め、給油扉の車両後端の中央部分を“カチッ”と音がするまで押し

ドアを施錠すると給油扉も施錠されます。



知識

n 給油扉を閉めるとき

給油扉を閉める前にドアを施錠すると、給油扉を閉めることができません。ドアを解錠してから給油扉を閉めてください。

n 給油扉の施錠について

次の場合、ドアが施錠されても給油扉は施錠されません。

I 室内のドアロックスイッチで施錠したとき

I シフト操作連動ドアロックまたは車速感应オートドアロックで施錠されたとき

 **警告****n キャップが正常に閉まらないとき**

必ずレクサス販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま
使用したり、純正品以外のキャップを
使用すると、火災などを引き起こし、
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死
亡につながるおそれがあります。

Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

- n PCS（プリクラッシュセーフティ）
→P.152
- n LTA（レーントレーシングアシスト）
→P.162
- n AHB（オートマチックハイビーム）
→P.136
- n RSA（ロードサインアシスト）
→P.171
- n レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
→P.174
- n 先行車発進告知機能
→P.183

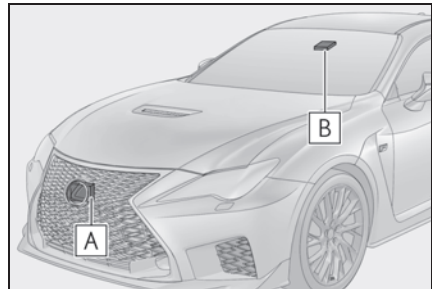
警告

n Lexus Safety System + について
Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある2種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

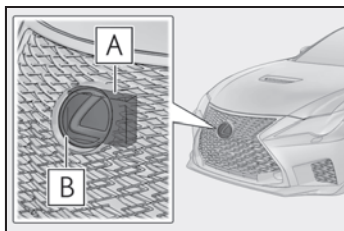
警告

n レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

- レーダーを分解しない
レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない
次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

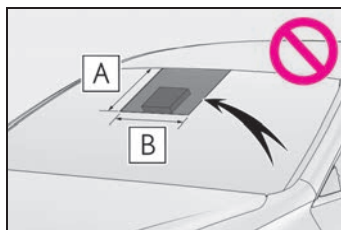
- ・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
- ・ フロントバンパーを交換したとき

前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
- ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

警告

- | 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.224）
 - | 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
 - | フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
 - | フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
 - | 前方カメラに液体をかけない
 - | 前方カメラに強い光を照射しない
 - | 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
- フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- | 前方カメラに強い衝撃を加えない
 - | 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
 - | 前方カメラを分解しない
 - | インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

- | ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

- | ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- | ヘッドランプなどのランプ類を改造しない



知識

n レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

n マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

↓ 次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く (フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.224)
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。 極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティ レーダー向き調整中 取扱書確認ください” が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

↓ 次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

- ・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外するとき
- ・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
- ・ 車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき

その場合には “ プリクラッシュセーフティ 現在使用できません 取扱書確認ください ” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.152）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティのON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.155）

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- ┆ 車両
- ┆ 自転車運転者
- ┆ 歩行者

機能一覧

n 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



n プリクラッシュブレーキアシスト

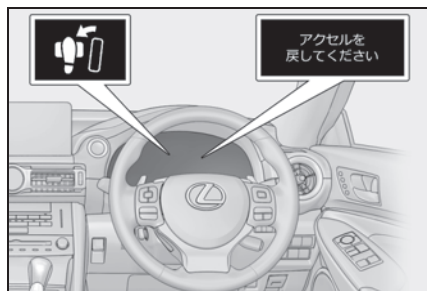
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

n プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

n 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



n 緊急時操舵支援

衝突する可能性が高く自車線内に回

避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合で、運転者の回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。作動時には、表示灯が緑色に点灯します。

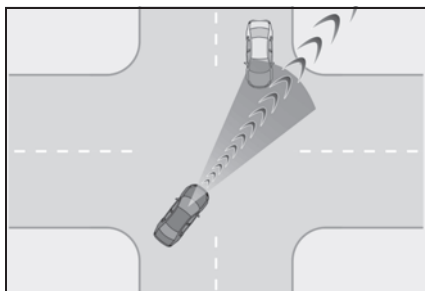


n 交差点右左折支援

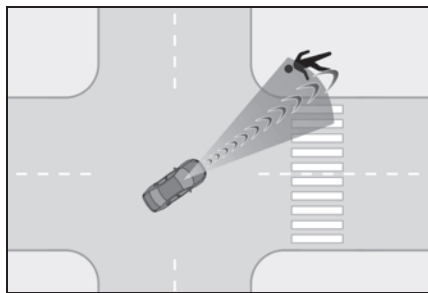
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

l 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



l 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）



n サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→P.208）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

▲ 警告

n 安全にお使いいただくために

l 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると、安全を委ねる事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.158
- ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.159

お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模した物など）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

n プリクラッシュブレーキについて

プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいた、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

n 低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

n 緊急時操舵支援について

緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

運転者がアクセルペダルを強く踏んでいた、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいた、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

警告

n プリクラッシュセーフティを OFF にするとき


次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- | けん引されるとき
- | けん引するとき
- | トラック・船舶・列車などに積載するとき
- | 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- | 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- | 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- | 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- | オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- | タイヤの空気圧が適正でないとき
- | 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- | メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- | タイヤチェーンを装着しているとき
- | 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- | 車両に前方センサーをささぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

n プリクラッシュセーフティの ON / OFF を変更する


マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.65) から、プリクラッシュセーフティの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



n 衝突警報の作動タイミングを変更する

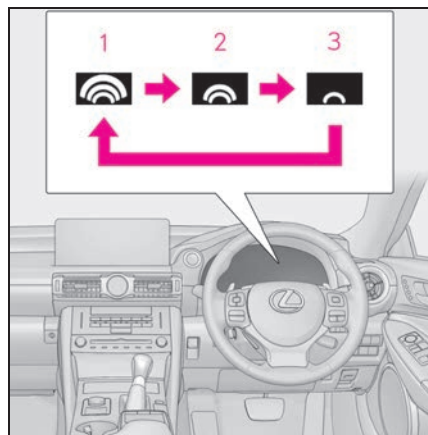
マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.65) から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると “中間” に戻ります。

衝突警報の作動タイミングを変更す

ると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

“遅い” を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。



各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

| 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

| プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

| プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h

1 早い

2 中間

初期設定

3 遅い

□ 知識

n プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティがONで、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- ・ バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- ・ シフトレバーがRのとき

作動対象	自車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

↓ 低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

↓ 緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

VSC OFF 表示灯が点灯しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む

↓ 交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 25km/h	約 30 ～ 55km/h	約 40 ～ 80km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

l 交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 25km/h	約 30 ～ 45km/h	約 45 ～ 70km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

n 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.159）

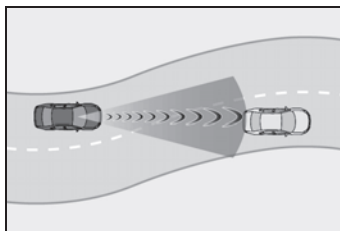
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



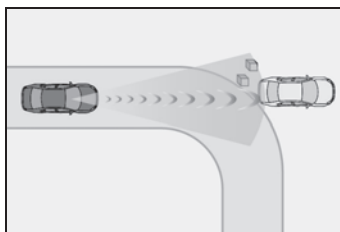
n 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

l 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

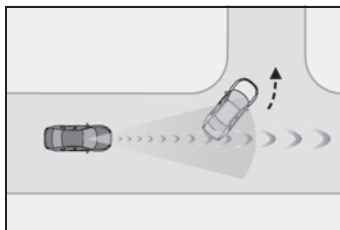
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



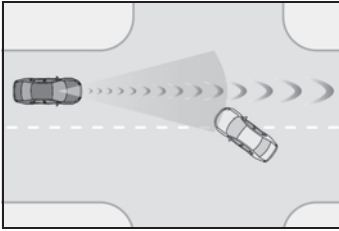
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



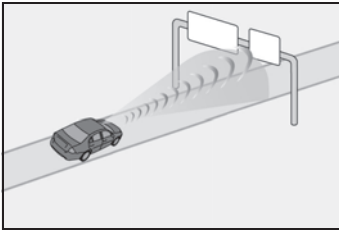
- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ほこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



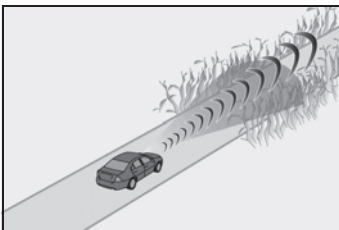
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

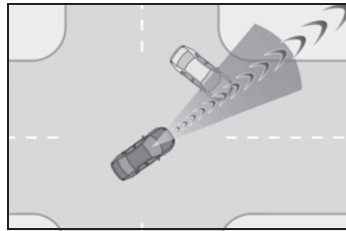


- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき

- ・ 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・ テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- ・ 右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
- ・ 右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右折中に、対向車が自車進路に入る手前で停止したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき

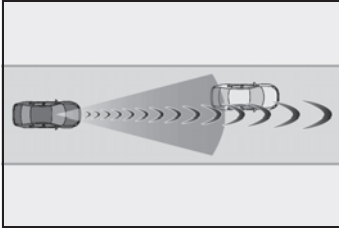


- ・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

n システムが正常に作動しないおそれがあるとき

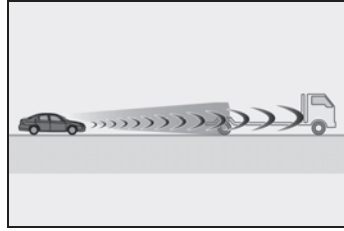
- l 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
 - ・ 自車や作動対象がふらついているとき
 - ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハ

- ・ シンドル・急加速・急減速など
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき

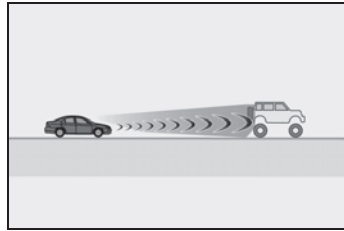


- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- ・ 他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ほこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両がオートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）

- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

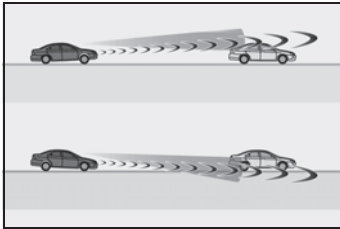


- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき

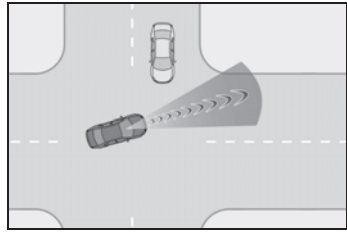


- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- ・ 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき

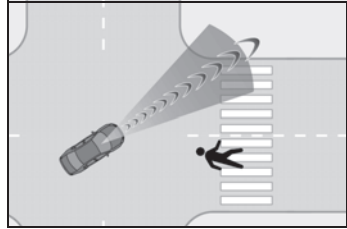
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの入り口など）
- ・ エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき
- ・ 右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも2つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



- | 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。

- ・ 車線を区切る白（黄）線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど）とき
- ・ 車線幅が狭いとき、または広いとき
- ・ 工事の補修跡などで、道路面に濃淡の模様があるとき
- ・ 対象に近づきすぎたとき
- ・ 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
- ・ 対向車がいるとき
- ・ VSC が作動しているとき

- | 例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

- ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
- ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
- ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
- ・ 道路面に深いわだちがあるとき

- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 左右に傾きのある道路を走行しているとき

n VSC を停止したとき

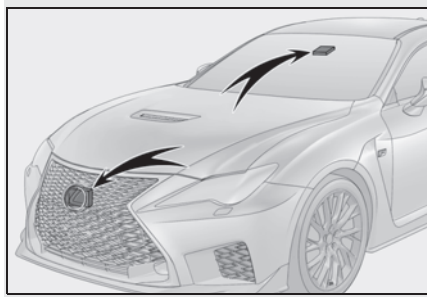
- l VSC の作動を停止 (→P.208) したときは、緊急時操舵支援を停止します。
- l PCS 警告灯が点灯します。

LTA (レーントレーシングアシスト)

白 (黄) 線が整備された道路を走行中、車線または走路[※]からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路[※]からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) (→P.174) の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します

白 (黄) 線または走路[※]を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



警告

n LTA をお使いになる前に

LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

n LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

雪道を走行しているとき

水たまりや雨・雪・霧・砂ほこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

工事区間を走行しているとき

応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき

タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき

車両けん引時

n LTA の故障、または誤作動を防ぐために

ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

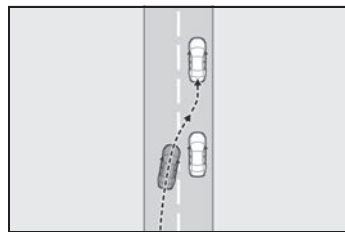
ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（プルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

n 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずハンドル操作で進路を修正してください。

先行車追従表示中（→P.167）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）

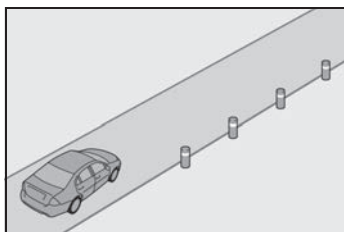


先行車追従表示中（→P.167）に、先行車がふらついたりするとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

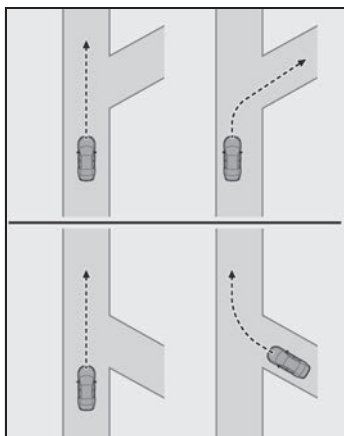
先行車追従表示中（→P.167）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

警告

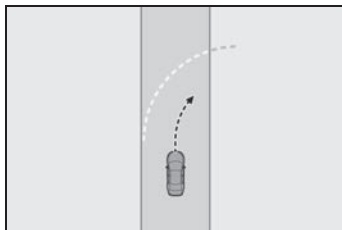
- | 先行車追従表示中（→P.167）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- | 急カーブを走行しているとき
- | 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



- | 分岐・合流路などを走行するとき



道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- | 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- | 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- | 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋸）や置き石などがあるとき
- | 白（黄）線が砂ほこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- | 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- | 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- | 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- | コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- | アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- | 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- | トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- | 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- | 坂道を走行しているとき

警告

- | 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- | 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- | 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- | 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- | 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- | 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- | 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- | 横風を受けているとき
- | 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- | 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- | 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- | メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- | 冬用タイヤなどを装着しているとき
- | 過度な高速走行をしているとき

LTAに含まれる機能

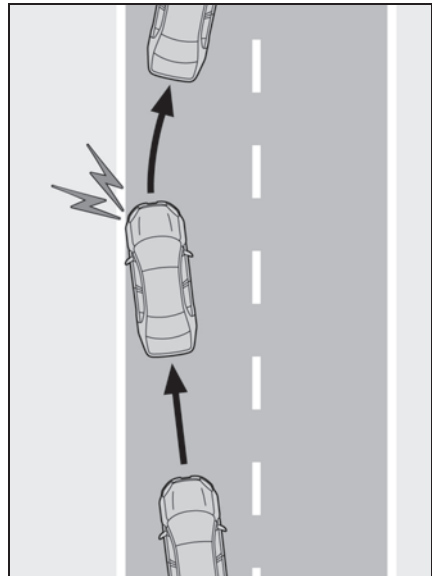
n 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、マルチイン

フォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったとき、またはハンドルに振動があったとき、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路[※]内の中央付近にもどってください。

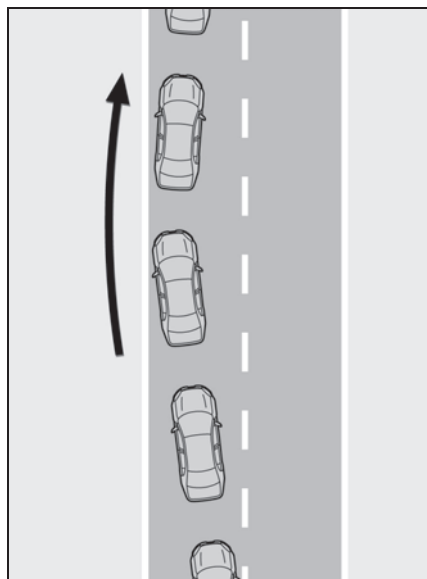
※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



n 車線逸脱抑制機能

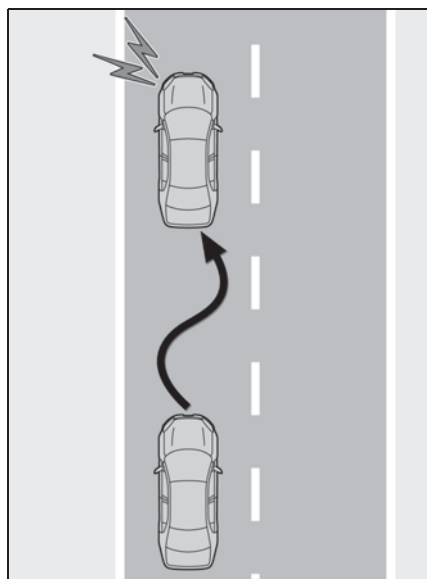
車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



n ぶらつき警報機能

車両がぶらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

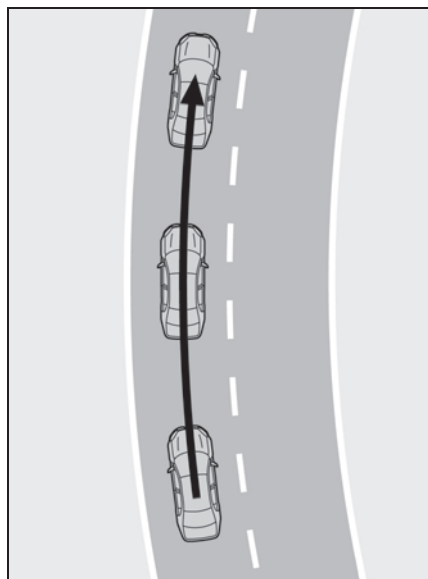


n 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。



設定のしかた

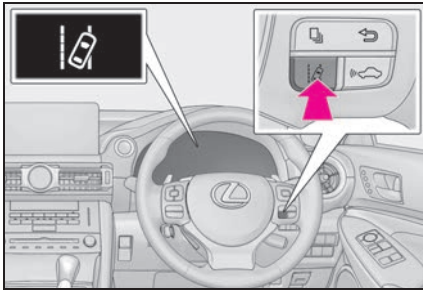
LTA を ON にするには LTA スイッチを押す

LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

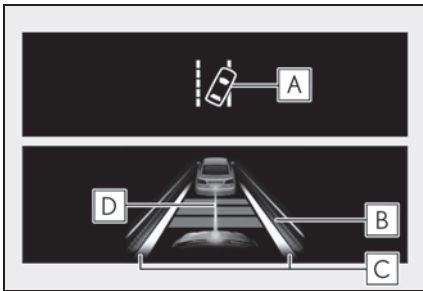
OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LTA を ON / OFF すると、次

回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示



[A] LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

[B] ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

[C] 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路[※]を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路[※]を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

[D] 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

知識

n 各機能の作動条件

l 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LTA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき※¹
- ・ システムが白（黄）線または走路※²を認識しているとき（白 [黄] 線または走路※²が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.170）

※¹車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※²アスファルトと草・土・縁石等の境界

l 車線逸脱抑制機能


車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を OFF にしていない

とき


l ぶらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイので“ぶらつき検知”を“On”に設定しているとき（→P.65）
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.170）


l 車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LTA を ON にしているとき
- ・ マルチインフォメーションディスプレイので“セントラートレース”を“On”に設定しているとき（→P.65）
- ・ システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
- ・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
- ・ 車線の幅が約 3～4m のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.170）
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を OFF にしていないとき
- ・ 手放し運転に対する注意喚起（→P.169）が行われていないとき
- ・ 車線中央付近を走行しているとき
- ・ 車線逸脱抑制機能が作動していないと

き

n 機能の一時解除

- l 作動条件（→P.168）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- l 車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.166）が満たされなくなった場合、ハンドル振動または“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。また、カスタマイズ設定で“警報手段”をに設定している場合は、ブザーの代わりにハンドル振動でお知らせします。

n 車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

- l 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。
- l これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- l 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

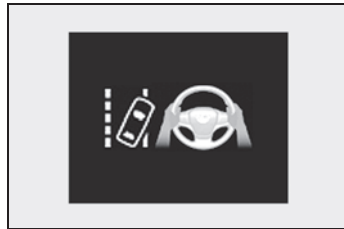
n 車線逸脱警報機能について

- l 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。
- l 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。
- l 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

n 手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- l 車線維持支援機能作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

また、警報手段をに選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

- l 車線維持支援機能作動中にカーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとしてシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

- l 車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

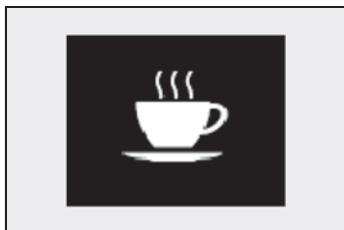
さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時

間が長くなります。

また、警報手段を  に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

n ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

n 警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

| “LTA 故障 販売店で点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

| “LTA 現在利用できません”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

| “LTA 現在の車速では 使用できません”

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

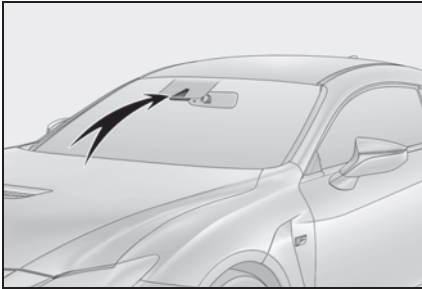
n カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。
(カスタマイズ一覧：→P.322)

RSA (ロードサインアシスト)

機能概要

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音もしくはハンドルの振動で運転者に告知します。

警告

n RSA をお使いになる前に

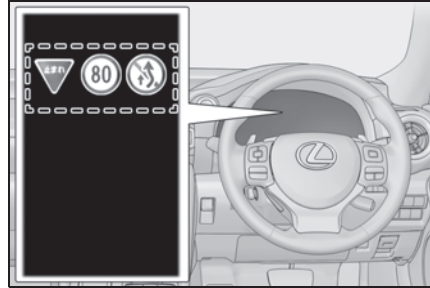
RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチイ

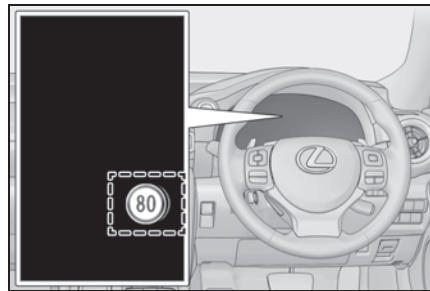
ンフォメーションディスプレイに表示します。

1 運転支援システム情報を選択したときは、最大3つの標識を表示できます。(→P.65)



1 運転支援システム情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。(→P.65)

- ・ 最高速度標識 ※
 - ・ 車両進入禁止標識（告知時のみ） ※
- ※ サーキットモードインジケーターが点灯しているときは表示されません。



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。



最高速度



車両進入禁止



一時停止



はみ出し通行禁止



終わり※

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- l 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- l システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- l はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やハンドル振動をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

n 設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチの または を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの または を押して を選択し、 を押す
- 3 メーター操作スイッチの または を押して “RSA” を選択し、 を押す

n RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- l 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- l 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- l 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- l 標識を通過したとシステムが判定したとき
- l 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

n 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- l 前方カメラやセンサー周辺への強い衝

- 撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼つてあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道（支線）の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差点）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき

- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

n 速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチをOFFにすると、次回エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

n マルチインフォメーションディスプレイに“RSA 故障 販売店で点検してください”が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

n カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.322）

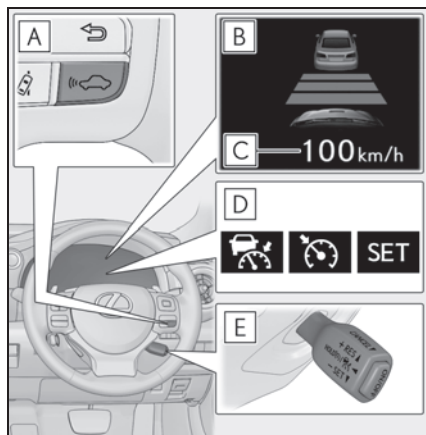
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- ┃ 車間制御モード（→P.176）
- ┃ 定速制御モード（→P.179）

システムの構成部品



- A** 車間距離切りかえスイッチ
- B** マルチインフォメーションディスプレイ
- C** 設定速度
- D** 表示灯
- E** クルーズコントロールスイッチ

警告

安全にお使いいただくために

- ┃ 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ┃ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.181
 - ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.182
- ┃ 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- ┃ システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ┃ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときは ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

警告

n システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

┃ 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

┃ 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

┃ 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

n レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

┃ 歩行者や自転車等が混在している道

┃ 交通量の多い道

┃ 急カーブのある道

┃ 曲がりくねった道

┃ 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

┃ 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

┃ 高速道路や自動車専用道路の出入り口

┃ センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

┃ レーダーセンサー前面または、カメラセンサー前面に雨滴や雪などが付着しているとき

┃ ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき

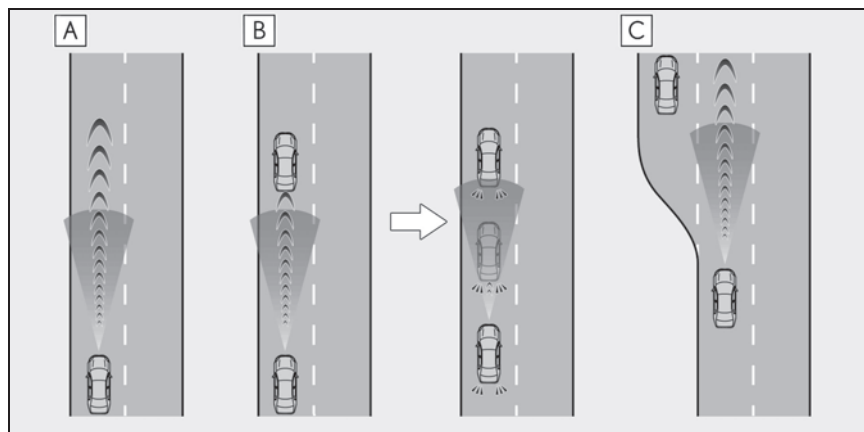
┃ 車両けん引時

┃ 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



A 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行—追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

- ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF するには再度スイッチを押します。

ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P.179）



- 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

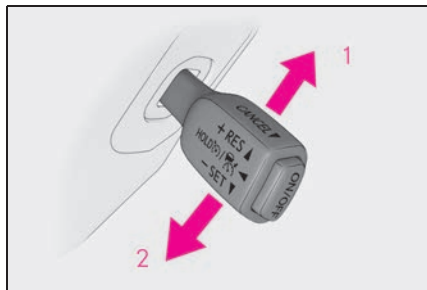
レバーを離れたときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

- レバーで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



- 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

- 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→P.179）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

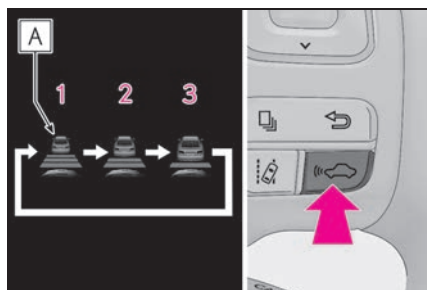
- アクセルペダルで設定速度を上げる

- 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

- レバーを下げる

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク **A** も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

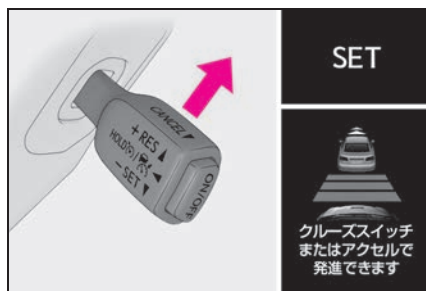
次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）
 なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

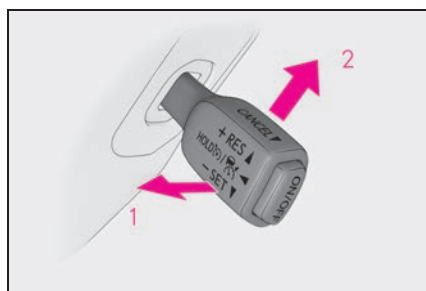
車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、レバーを上げる
 先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる

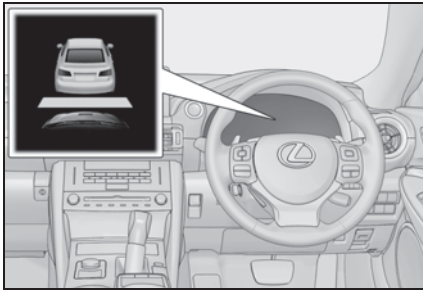


- 1 制御を解除するには、レバーを手前に引く
 ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）
- 2 制御を復帰させるには、レバーを上げる

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブ

ザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



n 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- l 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- l 先行車が極端な低速走行をしているとき
- l 速度を設定した直後
- l アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

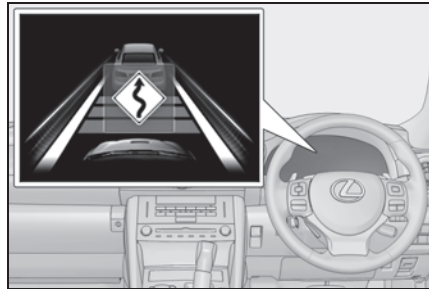
車間制御モードでの走行中、システムが必要と判断したときに車速を抑制します。

n システム作動について

ハンドルをまわし始めると、車速の抑制を開始します。その後、ハンドルを戻すと車速の抑制が終了します。状況に応じて車間制御モードの設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。


n システム作動時の表示



車速抑制中であることを示しています。

車速の抑制が終了すると、表示が消灯します。

n カーブ速度抑制機能の設定を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.65) から、カーブ速度抑制機能の速度抑制の強弱や、ON / OFF を切りかえることができます。

“OK” を押すごとに設定が切りかわります。

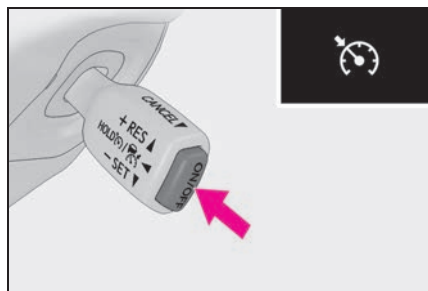
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON/OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムがOFFの状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離れたときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる
→P.177

制御を解除する・復帰させる
→P.178



知識

n 設定条件について

- l シフトレバーがDのとき設定できます。
- l 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、

設定速度が約 30km/h に設定されます）

n 速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

n 追従走行中の停車制御について

- l 制御停車中にレバーを上げた場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- l 先行車に続いて停車したあと約 3 秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

n 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- l VSC が作動したとき
- l TRC が一定時間作動したとき
- l TRC または VSC を OFF にしたとき
- l センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- l 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- l パーキングブレーキが作動したとき
- l 急坂路で制御停車したとき
- l 制御停車中に次を検出したとき
 - ・運転席シートベルトを着用していない
 - ・運転席ドアが開いた
 - ・車両が停止したあと約 3 分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

n 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解

除されます。

- ┆ 設定速度より車速が約16km/h以上低下したとき
- ┆ 車速が約30km/h未滿になったとき
- ┆ VSCが作動したとき
- ┆ TRCが一定時間作動したとき
- ┆ TRCまたはVSCをOFFにしたとき
- ┆ 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- ┆ パーキングブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

n カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- ┆ 緩やかなカーブを走行しているとき
- ┆ アクセルペダルを操作しているとき
- ┆ 極端に短いカーブを走行しているとき

n ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

n レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

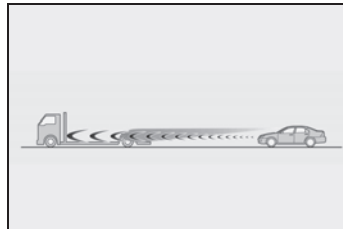
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.150, 291）

n センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

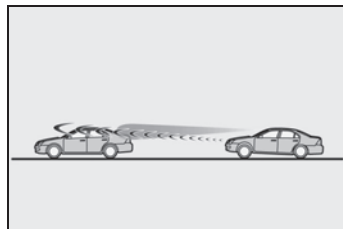
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.178）も作動しないおそれがあります。

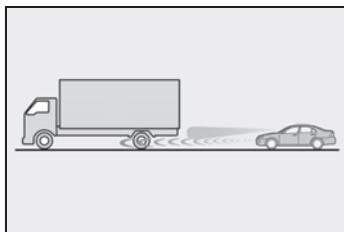
- ┆ 先行車が急に割り込んできたとき
- ┆ 先行車が低速で走行中のとき
- ┆ 同じ車線に停車中の車がいるとき
- ┆ 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



- ┆ 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- ┆ 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合
- ┆ 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- ┆ 先行車の車高が極端に高いとき

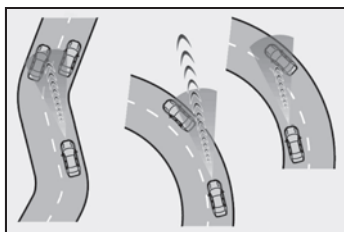


n 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

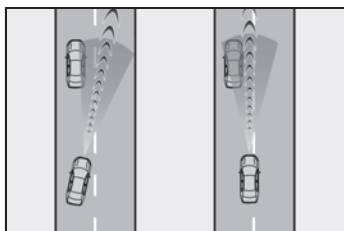
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- l カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- l ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



- l 先行車が急ブレーキをかけた場合
- l 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- l アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度に戻るとき

n カーブ速度抑制機能が正しく作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が正しく作動しない場合があります。

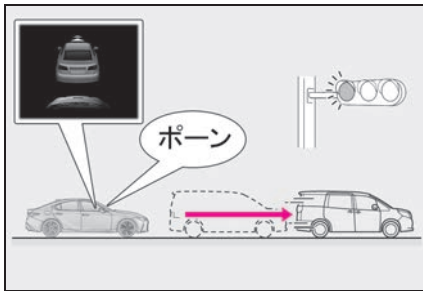
- l 上り坂、または下り坂のカーブを走行しているとき
- l カーブの形状とは異なる経路で走行しているとき
- l カーブへの進入速度が過度に高いとき
- l 急なハンドル操作を行ったとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

n 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- l シフトレバーがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき
- l ブレーキホールドが作動中のとき
- l レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

n 先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- l 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
 - l 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
 - l 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
 - l 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
 - l 先行車がオートバイ・自転車などのとき
 - l 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
 - l 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
 - l 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
 - l 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
 - l プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点灯しているとき
 - l 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- n 先行車が発進していても告知する場合があるとき**
- 例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。
- l 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
 - l 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき



先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自転車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき




自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき




n 先行車発進告知機能の設定を変更するには




先行車発進告知機能の ON / OFF

システムの ON / OFF を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する




2 メーター操作スイッチの  または  を押して “車両設定” を選択し、 を押す




3 メーター操作スイッチの  または  を押して “先行車発進告知” を選択し、 を押す




4 メーター操作スイッチの  または  を押して “先行車発進告知” を選択し、 を押す




先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する

2 メーター操作スイッチの  または  を押して “車両設定” を選択し、 を押す

3 メーター操作スイッチの  または  を押して “先行車発進告知” を選択し、 を押す

4 メーター操作スイッチの  または  を押して “告知タイミング” を選択し、 を押す

BSM（ブラインドスポットモニター）

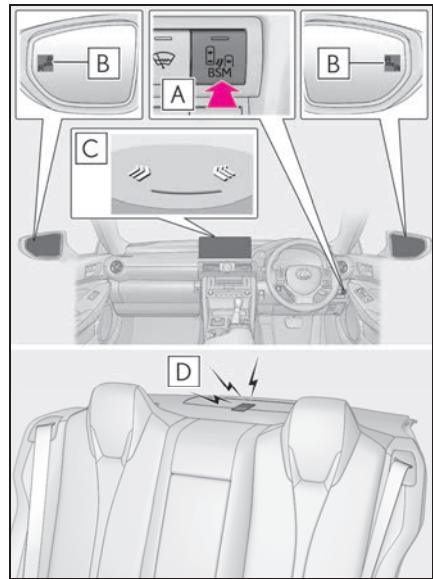
ブラインドスポットモニターは、リアバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

ブラインドスポットモニターの概要

ブラインドスポットモニターには2つの機能があります。

- I BSM（ブラインドスポットモニター）機能
運転者による車線変更時の判断を支援します。
- I RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能
後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。



A BSM メインスイッチ

BSM 機能および RCTA 機能の共用スイッチです。押すごとに ON / OFF が切りかわります。ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

B ドアミラーインジケーター

BSM 機能：ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能：自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C センターディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコン（→P.190）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近してい

る例です。

D RCTA ブザー (RCTA 機能のみ)

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

BSM メインスイッチを ON にした直後の約 1 秒間はブザーが鳴ります。

知識

n ドアミラーインジケータの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケータが見えづらことがあります。

n RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がある場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなることがあります。

n レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



R 202-LSC077

C3-001

警告

n レーダーセンサーの取り扱い

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

n マルチインフォメーションディスプレイに“BSM 現在使用できません”が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

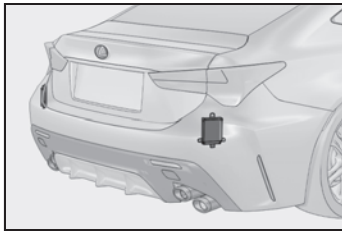
n システムに異常があるときは

次のような原因で異常が検知されたときは、警告表示でお知らせします。

- l センサーが故障しているとき
- l センサーが汚れているとき (着雪、ステッカー貼り付けなどを含む)
- l 極めて高温または低温の環境での使用
- l センサーの電圧異常
- l センサーの位置や向きがずれているとき

警告

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、BSM 機能の作動条件（→P.189）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。
- ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼らない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

n 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではありません。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

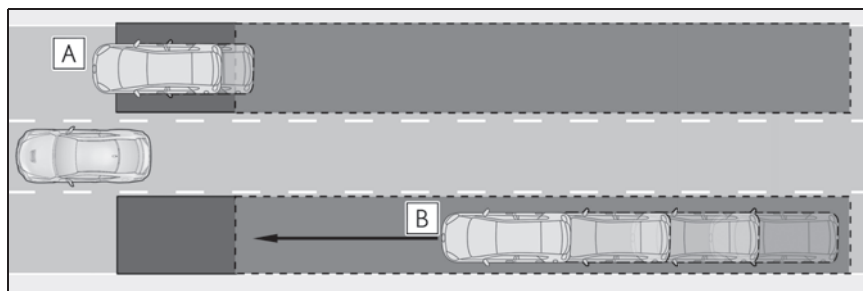
RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

BSM 機能

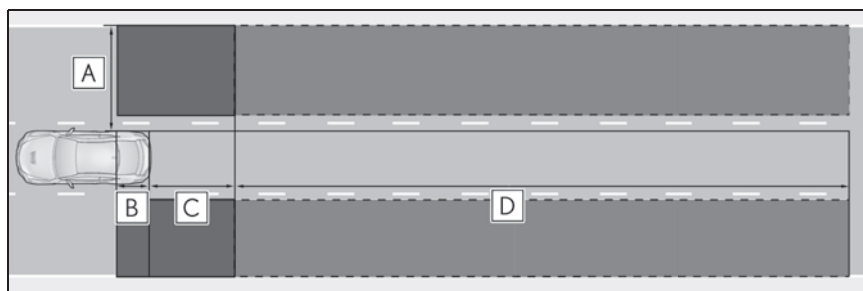
BSM 機能はレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- A** ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両
- B** 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

- A** 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域
※1
- B** リヤバンパーから約 1m 前方の領域
- C** リヤバンパーから約 3m 後方の領域
- D** リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くに
いる状況で点灯、点滅します。

 知識

n BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- l BSM メインスイッチが ON のとき
- l シフトレバーが R 以外の位置のとき
- l 車速が約 16 km/h 以上のとき

n BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- l 隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
- l 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- l 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

n BSM 機能が車両を検知しない状況

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- l 小型の二輪車・自転車・歩行者など ※
- l 対向車
- l ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- l 同じ車線を走行する後続車 ※
- l 2 つ隣の車線を走行する他車 ※
- l 大きい速度差で自車が追いこす他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

n BSM 機能が有効に作動しないおそれがある状況

- l BSM 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きが

ずれているとき

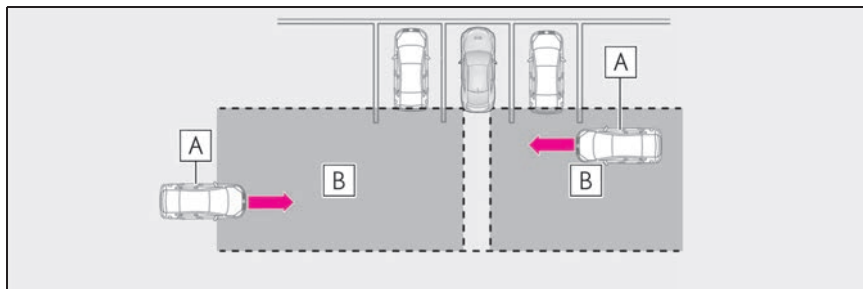
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
- ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ・ BSM メインスイッチを ON にした直後
- l BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ タイヤがスリップ（空転）していると

- き
- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

RCTA 機能

n RCTA 機能の作動

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。

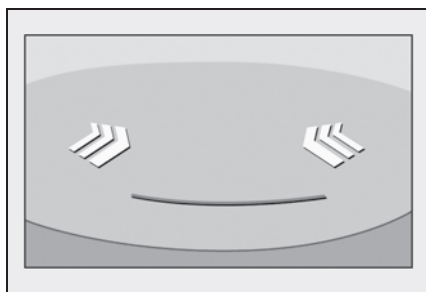



A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

n RCTA アイコンの表示

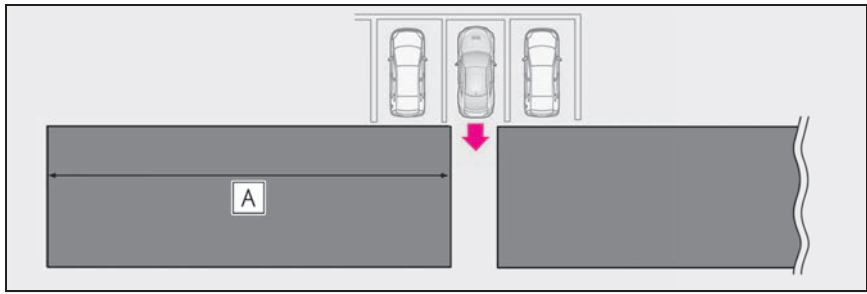
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、車両が接近している側のアイコンがセンターディスプレイ上に表示されます。
イラストは両方向から車両が接近している例です。



: RCTA 機能に異常があるとき
(→P.186)

RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	30m
8km/h（遅い）	4m

知識

n RCTA 機能の作動条件

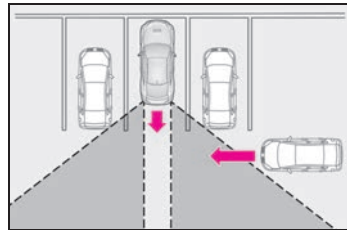
RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- l BSM メインスイッチが ON のとき
- l シフトレバーが R のとき
- l 自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- l 接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h の間のとき

n RCTA 機能が車両を検知しない状況

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- l 真後ろから接近する車両
- l 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- l 障害物のためにセンサーが検知できない車両



l ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

l 小型の二輪車・自転車・歩行者など※

l 自車から遠ざかる車両

l 自車の隣の駐車スペースから接近する車両※

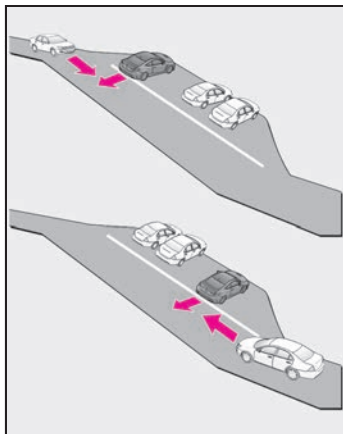
※ 状況によっては検知をすることがあります。

n RCTA機能が有効に作動しないおそれがある状況

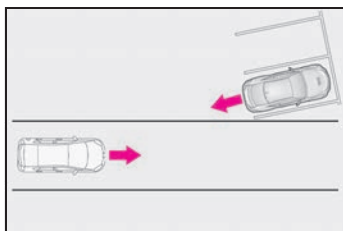
l RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- ・ 高速で接近する車両
- ・ 勾配の変化が激しい坂で後退している

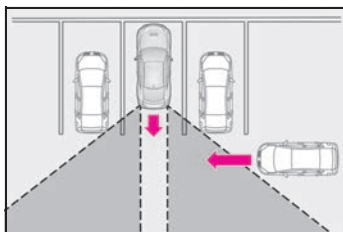
とき



- ・ 浅い角度での駐車時

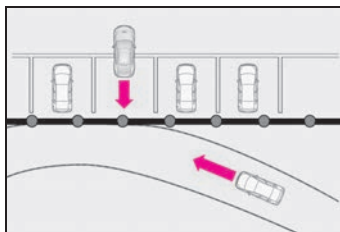


- ・ BSM メインスイッチを ON にした直後
- ・ BSM メインスイッチを ON にした状態で、エンジンを始動した直後
- ・ 障害物のためにセンサーが検知できない車両



┆ RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- ・ 自車の横を通過する車両
- ・ 駐車場に面した道を走行する車両

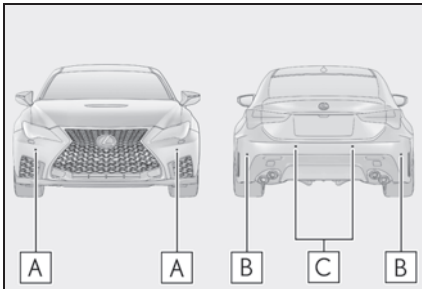


- ・ 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、低速（約10km/h以下）で運転しているときに、車両と静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびセンターディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

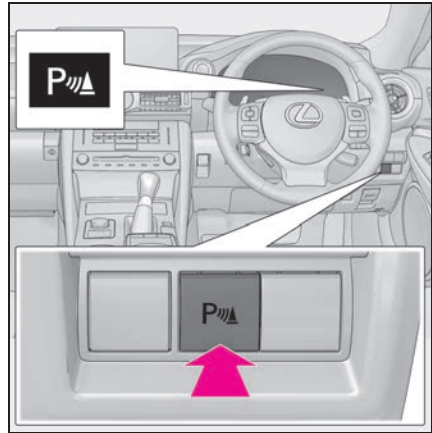
センサーの位置・種類



- A** フロントコーナーセンサー
- B** リヤコーナーセンサー
- C** バックセンサー

クリアランスソナーの切りかえ

スイッチを押すとクリアランスソナーはONになり、表示灯が点灯します。



クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイまたはセンターディスプレイに表示されます。

- n マルチインフォメーションディスプレイの表示

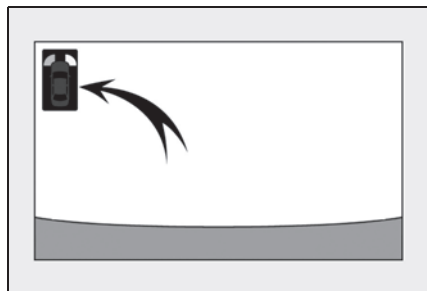


- A** フロントコーナーセンサー作動表示
- B** リヤコーナーセンサー作動表示
- C** バックセンサー作動表示

- n センターディスプレイの表示

バックガイドモニター使用時に表示されます。

静止物を感知すると自動的に表示されます。



警告

n クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- l 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- l センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するとき、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- l センサーの検知範囲であるバンパー周辺にはアクセサリ用品などを取り付けしないでください。
- l バンパー真下付近は検知しません。センサーより低いものや細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。

n クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

市販のフェンダーポール・無線機アンテナ・フォグランプを車に付けたとき

l バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき

l レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

l けん引フックを取り付けたとき

l 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

n クリアランスソナー使用時の注意

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

l 静止物を検知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点灯もしくは点滅し、ブザーが鳴ったとき

l センサー部付近にものをぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき

l バンパーをぶつけたとき

l ブザー音がしないのに表示が点灯もしくは点滅したままのとき（ミュート選択時は除く）

l 異常表示が出ている場合、まずセンサーの状態を確認してください。氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますのでレクサス販売店で点検を受けてください。

警告

n 洗車時の注意

- l 高圧洗車機を使用して洗車するとき、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- l スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

n クリアランスソナーの作動条件

- l フロントコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが P 以外にあるとき
 - ・ 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- l リヤコーナーセンサー、バックセンサー：
 - ・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが R にあるとき

n ブザー音のミュート（消音）について

- l ミュート（消音）させるとき：マルチインフォメーションディスプレイに感知した画面が表示されているときに、メーター操作スイッチの“OK”を押すと、一時的にブザー音を消すことができます。
- l ミュート（消音）が解除されるとき：次のとき、自動的にミュート（消音）が解除されます。
 - ・ シフトポジションを切りかえたとき（D から N、および N から D への切りかえを除く）
 - ・ シフトポジションが D で、車速が約 10km/h 以上になったとき

- ・ クリアランスソナーを OFF にし、再度 ON にしたとき
- ・ エンジンスイッチを OFF にし、再度イグニッション ON モードにしたとき

n マルチインフォメーションディスプレイに“ソナーの汚れを除去してください”が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

n センサーの検知について

- l センサーの検知範囲は車両前方コーナー部と後部のバンパー周辺に限られます。
- l 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- l 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 35cm 以内に接近するおそれがあります。
- l オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- l 他システムのブザーの音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

n システムが正常に作動しないおそれがあるとき

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- l センサーに氷・雪・泥などが付着した


- とき（取り除けば、正常に復帰します）
- l センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
 - l センサーを手などで覆ったとき
 - l 炎天下や寒冷時
 - l 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
 - l 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが付近に存在するとき
 - l どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
 - l 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
 - l 車両姿勢が大きく傾いたとき
 - l 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
 - l センサーに静止物が近付きすぎたとき
- n 正しく検知できないことがある静止物**
静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。
- l 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
 - l 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
 - l 鋭角的な形のもの
 - l 背の低いもの
 - l 背が高く上部が張り出しているもの
- 特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。
- n カスタマイズ機能**
お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→P.198, 322)

距離表示の見方


n 画面表示

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイおよびセンターディスプレイの作動表示が点灯します。イラストは説明のための例であり、表示により異なります。

- l 静止物までのおおよその距離：約 150cm ～ 60cm（バックセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ
 (点灯)	 (点滅：遅い)

- l 静止物までのおおよその距離：約 70cm ～ 50cm（フロントコーナーセンサー）、約 60cm ～ 45cm（リヤコーナーセンサー、バックセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ
 (点灯)	 (点滅)

- l 静止物までのおおよその距離：約 50cm ~ 30cm (フロントコーナーセンサー)、約 45cm ~ 30cm (リヤコーナーセンサー)、約 45cm ~ 35cm (バックセンサー)

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ
 (点灯)	 (点滅：速い)

- l 静止物までのおおよその距離：約 30cm 以下 (コーナーセンサー)、約 35cm 以下 (バックセンサー)

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ
 (点滅)	 (点灯)

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザー音と同時に音声案内を行います。

n フロント側またはリヤ側のみで静止物を検知しているとき

- l 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。

・コーナーセンサーが感知した静止物との距離が約 30cm 以下

・バックセンサーが感知した静止物との距離が約 35cm 以下

- l 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

n 静止物を車両の前後で同時に検知したとき

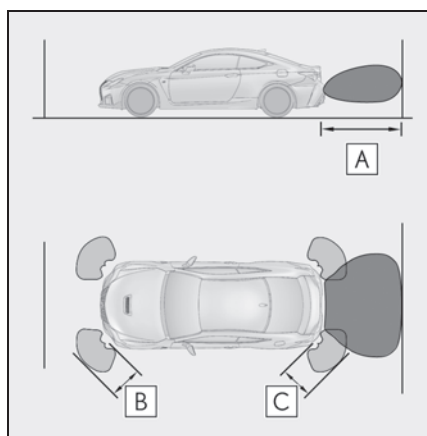
- l フロント側、またはリヤ側で静止物を検知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側(フロントまたはリヤ)で新たに静止物を検知すると、ブザー音は「ピピピピピ

「ピピ ピー」をくり返します。

- l フロント側、またはリア側で静止物を検知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリア）でもブザーが連続で鳴る範囲内に静止物を検知すると、ブザー音は「ピピピ ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。（→P.198）

静止物を検知できる範囲



A 約 150cm（約 1.5m）

B 約 70cm（約 0.7m）

C 約 60cm（約 0.6m）

- l 検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。
- l 静止物の形状・条件によっては検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

静止物を検知できる範囲を変更することができます。（→P.198）

音声案内とブザーの設定

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

- 1 リモートタッチの“MENU”スイッチを押し、“設定・編集”を選択する
- 2 “車両”を選択する
- 3 “クリアランスソナー設定”を選択する

n ブザー音量設定

設定したい音量を選択する

ブザー音量を調整することができます。

n 画面表示・ブザータイミング

“切替え”を選択する

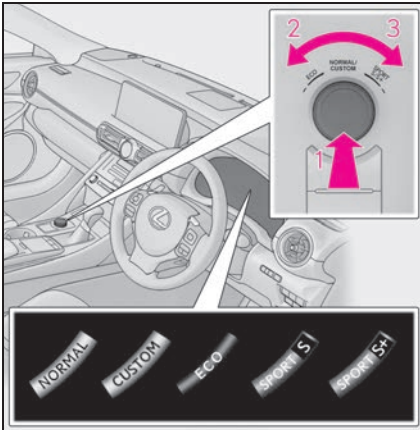
選択するごとに、検知範囲が“遠”（緑色）と“近”（黄色）に切りかわります。

センサーの割り込み表示が表示される検知範囲と、ブザーが出力される検知範囲を調整することができます。

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには



1 ノーマルモード／カスタムモード
ノーマルモード／カスタムモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押すごとに、ノーマルモード／カスタムモードが切りかわります。カスタムモードのとき、カスタム表示灯が点灯します。

エコドライブモードまたはスポーツモードのときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

- ・ ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

- ・ カスタムモード

以下の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、ナビゲーション画面で設定します。

(ドライブモード設定画面を表示させ

る：→P.218)

機能	設定
パワートレーン制御	Normal
	Power
	Eco
シャシー制御	Normal
	Sport
エアコン作動	Normal
	Eco

2 エコドライブモード

スロットル特性を穏やかに設計することで、エコ運転中のドライバーのアクセル操作をアシストします。またエアコン(暖房/冷房)の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

3 スポーツモード

- ・ スポーツSモード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツSモード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツSモードに切りかわり、SPORT S表示灯が点灯します。

- ・ スポーツS+モード

スポーツSモードよりも早いタイミングのシフトダウンにより、高いエンジン回転を保持するほか、素早い変速を行います。さらに、ステアリングのフィーリング、サスペンションコントロール、VDIMの制御が変化することで、本格的なスポーツ走行にも対応します。

スポーツSモードのときにスイッチを右

へまわすとスポーツ S + モードに切りかわり、SPORT S + 表示灯が点灯します。

知識

n エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

n スポーツモード／カスタムモードの自動解除

スポーツモード／カスタムモードは、エンジンスイッチを OFF にするとノーマルモードにもどります。

n サイド画面の割り込み表示

モードを切り替えるごとに、選択したモードがサイド画面に表示されます。

ローンチコントロール


発進時にエンジンのトルクを制御することで、タイヤがスリップするのを抑制し、最適な発進加速を実現します。(公道では使用しないでください。)

操作のしかた

n ローンチコントロールを設定するには

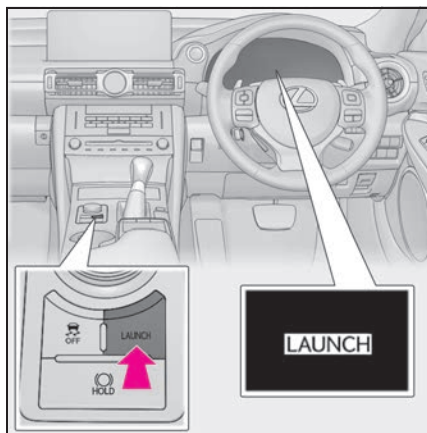
- 1 車両を停止する
- 2 左足でブレーキペダルをしっかりと奥まで踏み込む

ブレーキペダルを踏み続けてください。

- 3 シフトレバーを D にする
- 4 スポーツ S+ モードを選択する
- 5  スイッチを押す

EXPERT 表示灯が点灯し、同時に TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯も点灯します。

- 6 “LAUNCH” スイッチを押す
LAUNCH インジケータが点灯します。



7 アクセルペダルをしっかりと奥まで踏み込む

エンジン回転数が自動的に 1500r/min ~ 2000r/min の間で保持され、発進待機状態となります。

LAUNCH インジケータが消灯した場合は、アクセルペダルを離して 6 からやり直してください。

8 アクセルペダルを踏み込んだら、3 秒以内にブレーキペダルを離し、発進する


アクセルペダルを踏み込んでから 3 秒経過すると、LAUNCH インジケータは消灯します。

LAUNCH インジケータが消灯するまでに、ブレーキペダルを離して発進しなかった場合は、アクセルペダルを離して 6 からやり直してください。

発進後アクセルペダルを離すと、ローンチコントロールは終了します。

n ローンチコントロールを解除するには

次のいずれかの操作を行ってください

- l シフトレバーを D 以外にする
- l スポーツS+モード以外のドライブモードを選択する
- l  スイッチを押す
- l “LAUNCH” スイッチを押す

知識

n 作動条件

次の条件がすべて満たされたとき、ローンチコントロールが作動可能状態になります。

- l エンジンやトランスミッションが十分に暖まっているとき

- l エンジンやトランスミッション、走行制御システムなどの関連機能に異常が検知されていないとき

n ローンチコントロールがうまく作動しないとき

次の状況では、ローンチコントロールがうまく作動しない場合があります。

- l ブレーキペダルをしっかりと奥まで踏み込んでおらず、後輪が回転してしまったとき
- l 雨天・雨上がりなど、濡れた路面で発進するとき
- l すべりやすい路面で発進するとき
- l 車両の整備状態（タイヤの磨耗や空気圧など）が良好でないとき

警告

n ローンチコントロールの使用について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- l 公道では使用しないでください。
- l 路面状況や周囲の状況から十分に安全が確保できるときのみ使用してください。
- l 周囲に人やさまたげになるものがないか十分に安全確認してから使用してください。
- l 高度な運転技術を必要とする場合があります。路面状況や周囲の状況を確認しながら運転してください。
- l 後輪が空転している状態で発進しないでください。

⚠ 注意

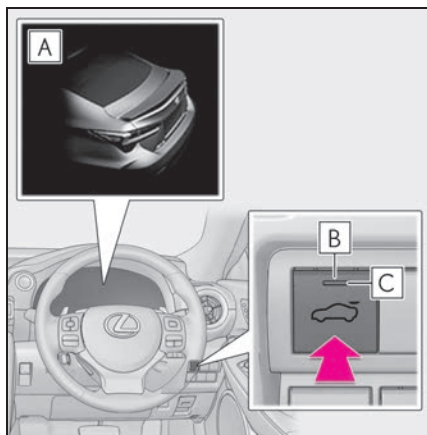
n 車両の損傷を防ぐために

- l 車両に負荷がかかるため、過度な使用は避けてください。
- l 必ず正しい手順に従って操作してください。
- l すべりやすい路面では、車両を損傷するおそれがあります。必ず乾燥した舗装路面で使用してください。
- l ローチコントロールを連続で使用するときは、10分程度時間をあけてから使用してください。

アクティブリヤウイング

走行時に自動で作動するアクティブリヤウイングを装備しています。特に高速走行時に空力性能を高めることで、走行安定性の向上に貢献します。スイッチ操作でも作動させることができます。

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ表示 (→P.65)

アクティブリヤウイングの状態を表示することができます。

B アクティブリヤウイングスイッチ
アクティブリヤウイングをマニュアル作動させることができます。

C インジケーター

アクティブリヤウイングが上昇すると点灯し、完全に格納すると消灯します。

 知識

n 作動条件

- l エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- l トランクが開まっているとき
- l カスタマイズ機能でアクティブリヤウイング作動の設定がありになっているとき

n 作動停止

次のときは、作動が途中で停止します。

- l 作動中にエンジンスイッチが OFF にされたとき
- l 作動中にトランクが開けられたとき
- l 上昇作動中に異物などで作動をさまたげられたとき
- l その他特殊な動作により、アクティブリヤウイングの位置が不定になったとき

この場合、次回アクティブリヤウイングスイッチを操作するとアクティブリヤウイングが上昇作動します。また、スイッチ操作をしなくても、走行を開始して車速が 25km/h 以上になると自動的に上昇作動します。

n システムに異常があるときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。
(→P.291)

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.322)

 注意

n システムの損傷・故障を防ぐために

- l 車両を押ししたり引いたりするときは、アクティブリヤウイングに力をかけないようにしてください。

l アクティブリヤウイングにもたれたりしないでください。

l アクティブリヤウイングにアクセサリなどを取り付けしないでください。

l 分解・改造しないでください。

l 強い衝撃をあたえないでください。

オート作動

走行モード (→P.199) にあわせて、次の速度でアクティブリヤウイングが自動的に作動します。(公道では制限速度をお守りください。)

l エコドライブモード以外

上昇：約 80km/h

格納：約 40km/h

l エコドライブモードのとき

上昇：約 130km/h

格納：約 40km/h

マニュアル作動

アクティブリヤウイングスイッチ操作により、現在のアクティブリヤウイングの位置と反対の位置へ作動させます。(上昇時は格納作動、格納時は上昇作動します。)

n スイッチ操作

車速	上昇作動／格納作動
0km/h (停車時)	短押し／長押し※
約 0 ~ 20km/h	作動不可
約 20 ~ 130km/h	短押し／短押し
約 130km/h 以上	作動不可

※ スイッチのインジケーターが消えるまで押ししてください。作動途中でスイ

手を離すと、上昇位置まで自動で戻ります。

知識

n マニュアル作動について

アクティブリヤウイングスイッチ操作でマニュアル作動に切りかえても、マニュアル作動状態を維持できません。エンジンスイッチを OFF、または車速に応じてオート作動に復帰します。

警告

n マニュアル操作するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 1 操作する前にアクティブリヤウイング付近の安全を確かめ、障害物がないか、異物が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 1 アクティブリヤウイング付近に人がいるときは、手や指など体の一部を挟んだり、着衣や荷物を巻き込んだりする危険がないか確認してください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 1 操作中に異物が挟み込まれるおそれのある場合は、ただちに操作を中止してください。

注意

n バッテリーあがりを防止するためにエンジン停止中に、長時間マニュアル操作をしないでください。

サーキットモード

サーキットモードにすると、サーキットにおいて特殊な走行を可能にすることができます。

知識

n サーキットモードの設定について

- l サーキットモードはエンジンをかけた状態で、自車が完全に停止しているときに設定できます。
- l 以下のようなときは、サーキットモードを設定することはできません。
 - ・ 自車位置が利用可能エリア外の場合
 - ・ 利用可能エリア内であっても、ピット内やトンネル内など GPS の受信状態が悪いとき
 - ・ 自車が完全に停止していないとき
 - ・ ナビゲーションシステム、エンジンシステムに異常があるとき

n サーキットモード利用可能エリアについて

サーキットモード利用可能エリアについては、レクサス販売店にお問い合わせください。

警告

n サーキットモード使用時の警告

- l サーキットモードを使用する場合、高度な運転技能を必要とする場合があります。路面・周囲の状況を確認しながら、慎重に運転してください。
- l 一般公道では、サーキットモードを使用しないでください。

設定のしかた

n サーキットモードを ON にする

- 1 リモートタッチの“MENU” ボタンを押す。
 - 2 “設定・編集” を選択。
 - 3 サブメニューの“車両” を選択。
 - 4 “サーキットモード” を選択。
- 利用可能エリア内で“サーキットモード”が選択できるようになります。
- 5 “サーキットモード ON” を選択。
 - 6 画面内容をよく確認し、承諾できる場合は“承諾する”を選択。

画面に表示される「サーキット走行」とは、保証書に記載する「仕様の限度を超える過酷な使用（レース、ラリー等による走行、エンジン過回転等）」を意味します。

“承諾しない”を選択すると、手順 5 に戻ります。

サーキットモード

サーキット走行に起因する不具合は保証修理の対象外となります
また一般公道ではサーキットモードを使用しないでください
本内容についてご承諾いただけますか？

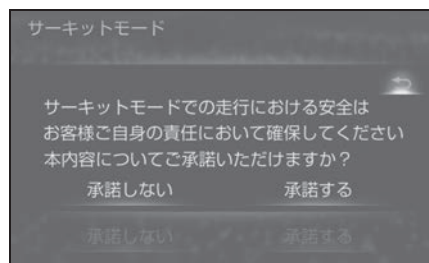
承諾しない

承諾する

- 7 画面内容をよく確認し、承諾できる場合は“承諾する”を選択。

“承諾しない”を選択すると、手順 5

に戻ります。



設定変更が正常に行われたときは、「ポーン、サーキットモードを ON にしました」と音声が出力され、サーキットモードインジケータ点灯します。

設定変更が正常に行われなかったときは、「ポーン、サーキットモードを OFF にできませんでした 再度操作してください」と音声が出力されます。

サーキットモードを ON するには、手順 5 からやり直してください。

n サーキットモードを OFF にする

- 1 リモートタッチの“MENU”ボタンを選択。
- 2 “設定・編集”を選択。
- 3 サブメニューの“車両”を選択。
- 4 “サーキットモード”を選択。
- 5 “サーキットモード OFF”を選択。

設定変更が正常に行われたときは、「ポーン、サーキットモードを OFF にしました」と音声が出力され、サーキットモードインジケータ消灯します。

設定変更が正常に行われなかったときは、「ポーン、サーキットモードを OFF にできませんでした 再度操作

してください」と音声が出力されません。

サーキットモードを OFF するには、手順 5 からやり直してください。

知識

n サーキットモードの自動解除について

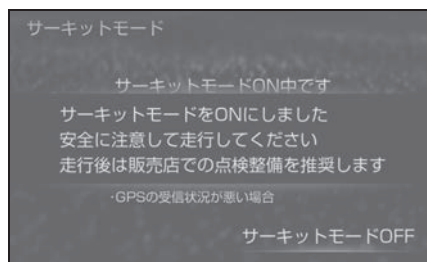
次の場合、サーキットモードが自動的に解除されます。

- ┆ 自車位置が利用可能エリア外に移動したとき
- ┆ エンジンを停止したとき
- ┆ GPS の受信状態が悪いとき
- ┆ 地図画面の“地図更新”を選択して更新が完了したとき※
- ┆ ナビゲーションシステム、エンジンシステムに異常が発生したとき

※ 詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

走行後の点検整備について

サーキットモードが設定されると、点検整備をおすすめするメッセージが表示されます。



- ┆ サーキットモードが正常に設定された後、モード ON 情報を整備提案の参考として販売店に送付するかどうかの画面が出てきた場合

は、お好みに合わせて“送付する”または“送付しない”を選択してください。

- l 以下の場合、上記画面は表示されません。
- ・ G-Link 契約がない場合
 - ・ G-Link センターとの通信が行えない場合

知識

n 点検手続きについて

点検手続きについては担当レクサス販売店にご相談ください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

n ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

n ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

n VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

n S-VSC（ステアリングアシストドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などでの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

n TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を

確保します。

n ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

n EPS (エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

n NAVI・AI-AVS (AVS: アダプティブリアリアルサスペンションシステム)

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。

また、ドライブモードセレクトスイッチでスポーツS+モードを選択したときには、スポーツ走行に適した減衰力に切りかわります。
(→P.199)

n VDIM (ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント)

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPSを総合的に制御します。

すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

n 緊急ブレーキシグナル

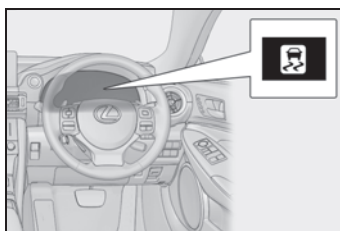
急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意

をうながし、追突される可能性を低減させます。

知識


n TRC・VSCが作動しているとき


TRC・VSCが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。




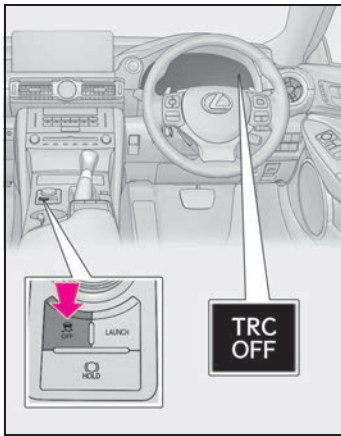
n TRCを停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRCが作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。


このようなときに  スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRCを停止するには  スイッチを押す
TRC OFF表示灯が点灯します。


もう一度  スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



n TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、 スイッチを押して 3 秒以上保持してください。


TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。*

もう一度  スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。


* PCS (プリクラッシュセーフティ) 装着車は、緊急時操舵支援も停止します。PCS 警告灯が点灯します。(→P.162)

n エキスパートモード

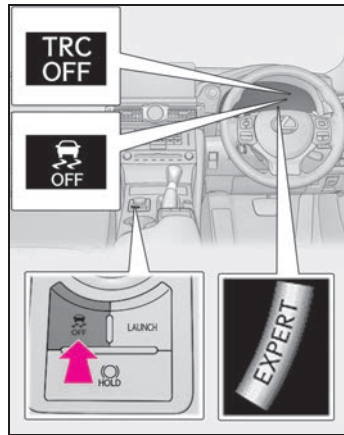
エキスパートモードを選択すると、他のドライブモードに比べてよりスポーティーな走行が可能となります。TRC と VSC は停止しますが、車両の挙動によってはエンジンおよびブレーキの制御が介入する場合があります。

スポーツ S+ モードのとき、 スイッチを押す。

EXPERT 表示灯が点灯し、同時に TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯も点灯します。

もう一度  スイッチを押す、またはドライブモードをスポーツ S+ モード以外

に切りかえることでエキスパートモードは解除されます。



n スイッチを押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示灯が消灯しない場合はレクサス販売店にご相談ください。

n ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

l シフトレバーの位置が P または N 以外 (前進または後退での上り坂発進時)

l 車両停止状態

l アクセルペダルを踏んでいない

l パーキングブレーキがかかっていない

n ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

l シフトレバーを P または N の位置にした

l アクセルペダルを踏んだ

l パーキングブレーキをかけた

l ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

n ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- l エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- l 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABSの作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABSの作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

n EPSの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

n TRCやVSCの自動復帰について

TRCやVSCを作動停止にした場合でも、エンジン停止後に再始動すると、自動的にTRCとVSCは作動可能状態にもどります。

n TRC OFFの作動制限

TRCのみ作動を停止している場合は、車速が高くなるとTRCは作動を再開します。

ただし、TRCとVSCの作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

n EPSの効果が下がる時

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPSシステムのオーバーヒートを避けるため、EPSの効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、

停車し、エンジンを停止してください。10分程度でもとの状態にもどります。

n NAVI・AI-AVSのNAVI協調機能

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

n 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- l 非常点滅灯が点滅していないこと
- l 車速 55km/h 以上
- l ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

n 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- l 非常点滅灯を点滅させた
- l ブレーキペダルを離れた
- l 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

⚠ 警告

n ABSの効果を発揮できないとき

- l タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- l 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロブレーキング現象が発生したとき

n ABSが作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABSは制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

⚠ 警告

- Ⅰ 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- Ⅰ 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- Ⅰ 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

n TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

n ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- Ⅰ ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- Ⅰ ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

n スリップ表示灯が点滅しているとき

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

n TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

n エキスパートモードを選択するとき

- Ⅰ 公道では使用しないでください。
- Ⅰ 路面状況や周囲の状況から、十分に安全が確保できるときのみ選択してください。
- Ⅰ エキスパートモード選択時の運転には、高度な運転技能を必要とします。路面状況や周囲の安全を常に確認し、通常以上の慎重な運転を心がけてください。

n タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

n タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- Ⅰ 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- Ⅰ バッテリーの点検を受けてください。
- Ⅰ 冬用タイヤ（4 輪）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを使用してください。（タイヤについて：→P.253）

知識

n タイヤチェーンについて

タイヤとボデーの隙間が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。

警告

n 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- Ⅰ 指定サイズのタイヤを使用する
- Ⅰ 空気圧を推奨値に調整する

Ⅰ 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

Ⅰ 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

注意

n タイヤチェーンの使用について

タイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

n タイヤを修理・交換するとき

レクサス販売店へご依頼ください。タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。（タイヤについての詳しい説明は P.253 を参照してください）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- Ⅰ ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- Ⅰ フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- Ⅰ 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いて

いるときは、取り除いてください。

- l 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

n 寒冷地用ワイパーブレードについて

- l 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- l 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

注意

n ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- l パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め^{※1}をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

パーキングブレーキがオートモードのと

きは、シフトレバーをPに入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。(→P.127)

- l パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{※2}を確認してください。

^{※1} 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

^{※2} ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

5-1. リモートタッチ	
リモートタッチ.....	216
センターディスプレイ.....	218
5-2. エアコンの使い方	
オートエアコン.....	220
シートヒーター/シートベンチレーター.....	228
5-3. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧.....	230
5-4. 収納装備	
収納装備一覧.....	232
トランク内装備.....	234
5-5. その他の室内装備の使い方	
その他の室内装備.....	236

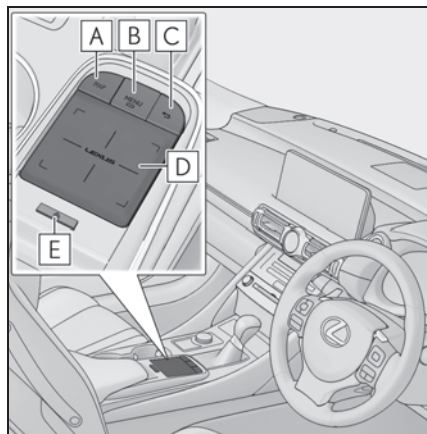
リモートタッチ

リモートタッチを使って、センターディスプレイの操作・設定ができます。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

リモートタッチの操作について

n 操作スイッチ



A “MAP” ボタン

センターディスプレイで現在地を表示します。

B “MENU” ボタン

メニュー画面を表示します。

C 戻るボタン


1つ前の画面に戻ります。

D タッチパッド

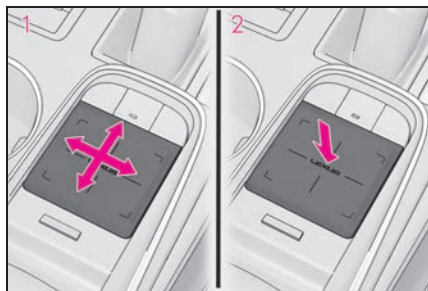
画面上のスイッチを選択または決定します。

また、リスト画面のスクロールや地図の拡大/縮尺などもできます。

E サブファンクションボタン

画面に  が表示されているときに、各画面ごとに割り当てられた機能画面を呼び出します。

n タッチパッドの使い方



1 選択する：タッチパッドを操作して、ポインタ※をスイッチに合わせる

2 決定する：タッチパッドを押す、またはダブルタップする

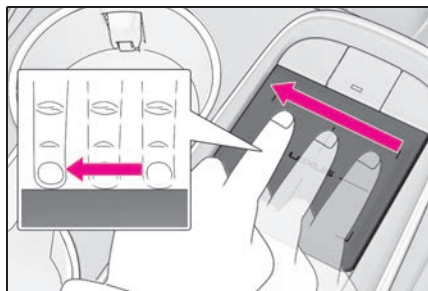
※ポインタとはタッチパッドの操作に合わせて画面上を動くマークです。

n タッチ操作

タッチパッドで次の操作が可能です。

l なぞり操作

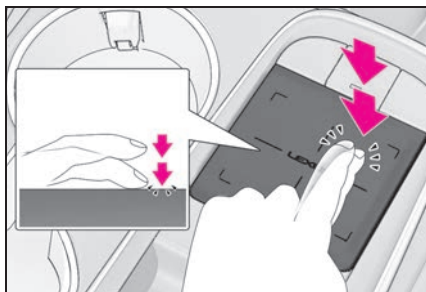
タッチパッドにふれた状態でパッド面をなぞります。カーソルやポインタを動かすことができます。



l ダブルタップ

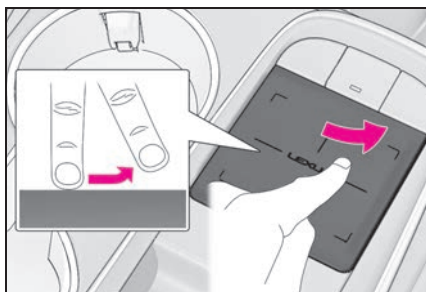
タッチパッドを指先で素早く軽く2回叩きます。タッチパッドを押したときと同

様に、ポインタで選んだ画面スイッチを決定することができます。



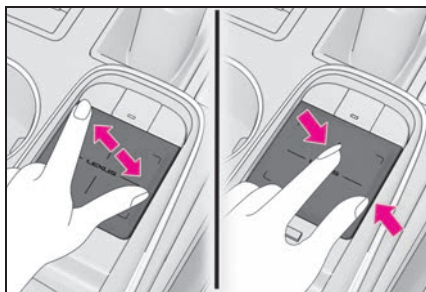
1 フリック

タッチパッドにふれた指先を素早く大きく払います。リスト画面を動かすことができます。



1 ピンチアウト／ピンチイン

タッチパッドにふれた2本の指を広げたり近付けたりします。地図の拡大や縮小を行うことができます。



⚠ 注意

- n リモートタッチの故障を防ぐために
- l リモートタッチに飲料水や雨水などをかけないでください。変色や漏電の原因になります。
- l リモートタッチの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。
- l タッチパッドを強く押ししたり、先のとがったもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

センターディスプレイ

ディスプレイの見方

n メニュー画面

リモートタッチの“MENU” ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。

画面に直接タッチして選択することもできます。

次の画面イラストは一例で、実際の画面とは異なります。



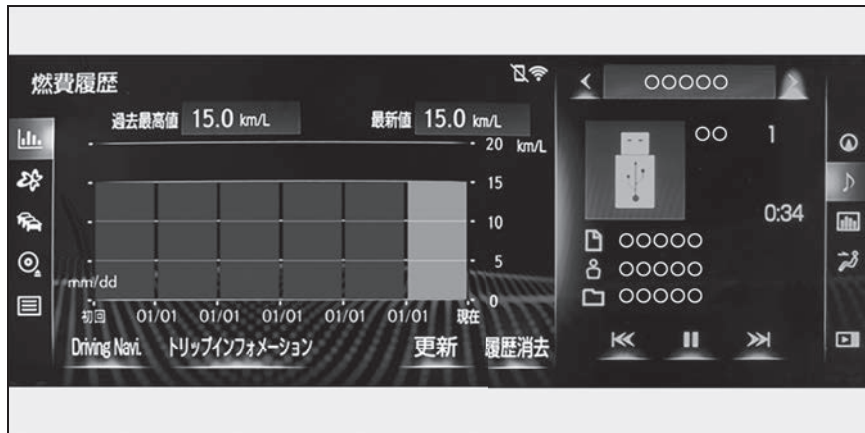
スイッチ	機能
	目的地を設定する ※
	オーディオ操作画面を表示する ※
 /  / 	デジタルテレビ操作画面を表示する ※ Apple CarPlay/Android Auto を接続すると、TV の代わりに Apple CarPlay/Android Auto が表示されます。 ※
	ハンズフリー操作画面を表示する ※

スイッチ	機能
	G-Link 画面を表示する ※ SmartDeviceLink™ Apps 画面を表示する。 ※
	情報画面を表示する (→P.73)
	設定・編集画面を表示する ※
	エアコン操作画面を表示する (→P.222)

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

n 分割画面表示

異なる情報を左右に並べて表示します。例えば燃費情報画面を表示したまま、エアコンやオーディオなどの画面を並べて表示したり操作したりすることができます。画面左側の広い表示エリアをメイン画面、右側の狭い表示エリアをサイド画面と呼びます。



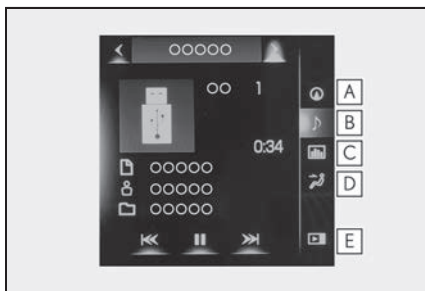
n メイン画面

メイン画面の表示や操作、および各機能の詳細については、それぞれの項目および、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

n サイド画面

次の各画面をサイド画面に表示し操作することができます。

◀ または ▶ を選択してお好みの画面を表示する



A ナビゲーションシステム ※

B オーディオ ※

C 車両情報 (→P.76)

D エアコン (→P.223)

E サイド画面の表示/非表示を切りかえる ※

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。


知識

n 低温時の画面表示について

外気温が極めて低いときは、リモートタッチを操作しても画面の反応が遅れることがあります。

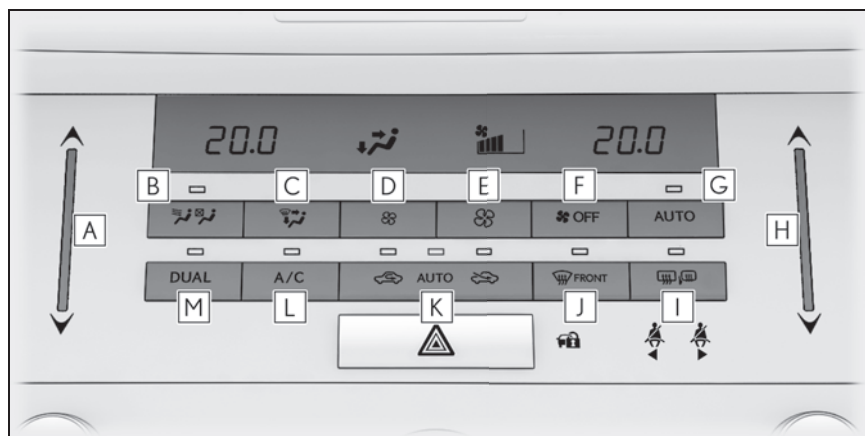
オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチの“MENU” ボタンを押して、を選択するとエアコン操作画面が表示されます。

リモートタッチについては、P.216 を参照してください。

エアコン操作スイッチについて

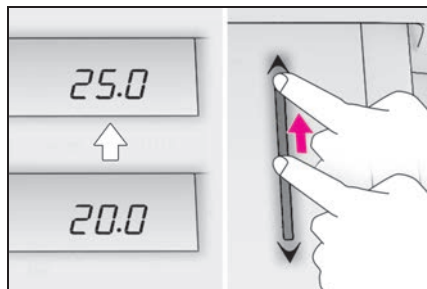


- A** 助手席側温度調整スイッチ
- B** S-FLOW スイッチ
- C** 吹き出し口切りかえスイッチ
- D** 風量減スイッチ
- E** 風量増スイッチ
- F** OFF スイッチ
- G** AUTO スイッチ
- H** 運転席側温度調整スイッチ
- I** リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチ
- J** フロントデフロスタースイッチ
- K** 内外気切りかえスイッチ
- L** A/C スイッチ

M DUAL スイッチ

n 温度を調整する

センサーにタッチしながら、指を上または下にスライドする



センサーにタッチしても温度を調整することができます。

設定温度が変わるとブザーが鳴ります。

A/C (“A/C”) が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

n 風量を切りかえる

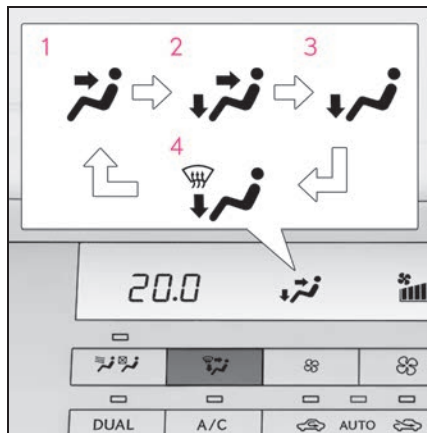
風量を増やすには：**風量増** を押す

風量を減らすには：**風量減** を押す

n 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切替 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。



1 上半身に送風

2 上半身と足元に送風

3 足元に送風

4 足元に送風・ガラスの曇りを取る

n S-FLOW モードの設定

リヤ席に乗員がないとき、フロント席のみの送風に切りかえて、リヤ席の空調の効きを抑えます。

室温や外気温などの条件により、室内の快適性を保つため、リヤ席に送風されることがあります。

S-FLOW を押す、またはオプション

操作画面で **S-FLOW** を選択すると、

S-FLOW モードが ON/OFF します。

S-FLOW モードが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

n その他の機能

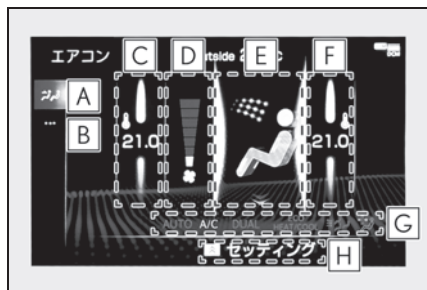
l 内気循環／外気導入を切りかえる (→P.223)

l フロントウインドウガラスの曇りを取る (→P.224)

l リヤウインドウガラスの曇りやミ

ラーの霜をとる (→P.224)

エアコン操作画面について



- A** エアコン操作画面を表示する
- B** オプション操作画面を表示する (→P.222)
- C** 助手席側の温度を調整する
- D** 風量を切りかえる
- E** 吹き出し口を切りかえる
- F** 運転席側の温度を調整する
- G** 各機能 ON/OFF 表示灯
機能が ON のとき、表示灯が点灯します。
- H** サブファンクションメニューを表示する (→P.222)

リモートタッチを操作して画面上のスイッチを選択し、タッチパッドを押すまたは、ダブルタップ (軽く2回たたく) で決定します。

n オプション操作画面

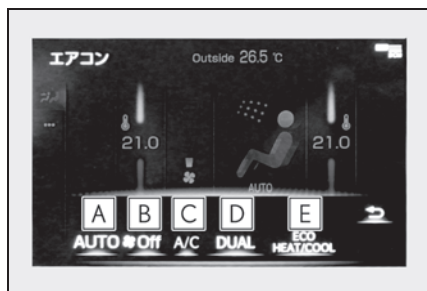
各機能の ON/OFF を切りかえることができます。



- A** 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する (→P.223)
- B** 冷房・除湿する
“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できません。
- C** 花粉を除去する (→P.224)
- D** エコモードに設定する (→P.225)
- E** S-FLOW モードを設定する (→P.221)

n サブファンクションメニュー

リモートタッチのサブファンクションボタンを押すと、各機能の ON/OFF を切りかえることができます。



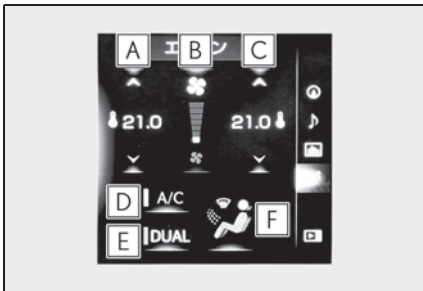
- A** 吹き出し口と風量が自動的に調整される
- B** ファンを停止する

C 冷房・除湿する

“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。



D 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する (→P.223)**E** エコモードに設定する (→P.225)

n サイド画面

**A** 助手席側の温度を調整する**B** 風量を切りかえる**C** 運転席側の温度を調整する**D** 冷房・除湿する

“A/C” のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

E 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する (→P.223)**F** 吹き出し口を切りかえる**オート設定で使用する**

- 1 エアコン操作スイッチの AUTO を押す、またはエアコン操作画面で“AUTO”を選択する
- 2 AUTO モードになるまでエアコン操作スイッチの  AUTO  を繰り返し押す。

排ガスセンサーにより外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

3 温度を設定する

- 4 ファンをとめたいときは、OFF スイッチを押す、またはサブファンクションメニューで“Off”を選択する

n オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

n 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する (左右独立モード)

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

1 エアコン操作スイッチの DUAL を押す

1 オプション操作画面で“DUAL”を選択する

1 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。


左右独立モードのとき、リヤ吹き出し口の設定温度は、運転席側の設定温度になります。

その他の機能


n 内気循環／外気導入を切りかえるには


 AUTO  を押す。

押すごとに内気循環→AUTO→外気導入に切りかわり、選択されているスイッチの作動表示灯が点灯します。

AUTO を選択すると、 (“A/C”) が自動で ON になります。

n 花粉除去機能を使用するには

オプション操作画面で、 を選択する。

花粉除去モードが ON のとき、エアコン操作画面の  が点灯します。

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。


外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

n フロントウインドウガラスの曇りをとるには

 を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

n リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

 を押す

リヤウインドウデフォグガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

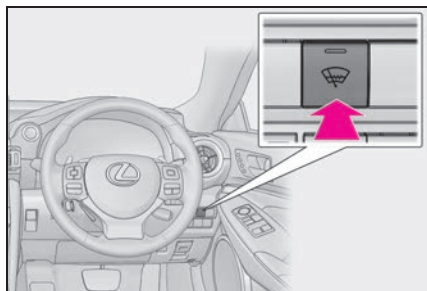
n ウインドシールドデアイサー★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



知識

n 電子キーによるエアコン設定の記憶について

- l 電子キーでドアを解錠してエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると、その電子キーに対応して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。
- l エンジンスイッチを OFF にすると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。
- l 複数の電子キーを持ってスマートエントリー&スタートシステムでドアを解錠したり、運転席以外のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。
- l スマートエントリー&スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、解錠ドアの設定※を変更できます。詳

しくはレクサス販売店にご相談ください。

- ※ 運転席ポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

n オート設定の作動について


風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

n ガラスの曇りについて

l 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、

 ("A/C") を ON にすると、

吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができま

l  ("A/C") を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

l 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

n フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能について

オート設定時、湿度センサー (→P.227) でフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

n 外気導入・内気循環について

l トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。


l 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

n 内外気切りかえの AUTO モードについて

AUTO モードでは排出ガスなどの有害成

分を検知し、自動で外気導入と内気循環を切りかえます。

 ("A/C") が OFF で送風が作動

中に AUTO モードにすると、 ("A/C") が ON になります。

n エコドライブモードのエアコン作動について

l エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

- ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
- ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

l 空調の効きをより良くしたいときは、次の操作をおこなってください。

- ・ 風量を調整する。
- ・ エコドライブモードを解除する。

n 外気温度が0℃近くまで下がったとき

 を押す、または "A/C" を選択

しても除湿機能が働かない場合があります。

n 換気とエアコンの臭いについて

l 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

l エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

l エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

l エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

n エアコンフィルターについて

→P.267

n 設定可能な機能

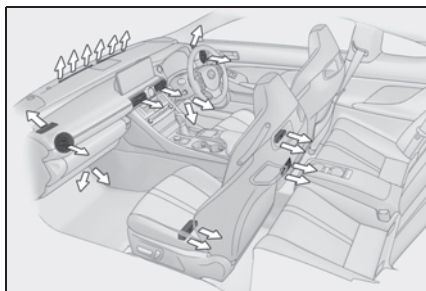
AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。

(カスタマイズ一覧 →P.329)

吹き出し口について

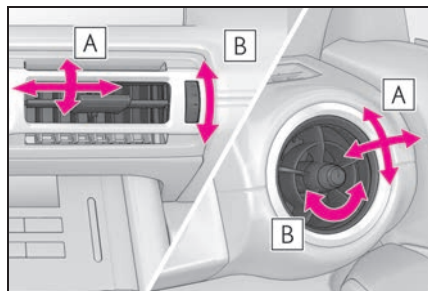
n 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



n 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント

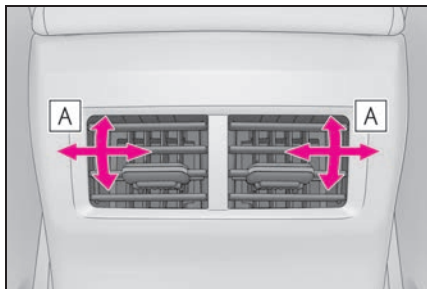


A 風向きの調整

風向きを外側いっぱい調整すると、吹き出し口を閉じることができます。

B 吹き出し口の開閉

▶ リヤ




A 風向きの調整

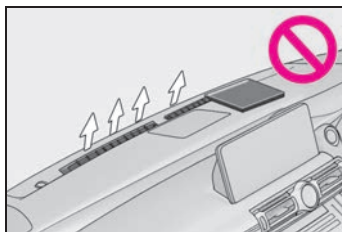
風向きを外側いっぱい調整すると、吹き出し口を閉じることができます。

▲ 警告

n フロントウィンドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

フロントウィンドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなる場合があります。



警告**n リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター/ウインドシールドデアイサー★作動中の警告**

- | ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
 - | フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- ★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

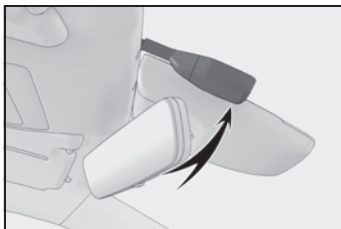
n バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

注意**n 湿度センサーについて**

フロントウインドウガラスの曇り検知(→P.225)のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。



- | 湿度センサーを分解しない
- | ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
- | 湿度センサーにシールなどを貼らない

シートヒーター／シートベンチレーター

シートを暖めたり、シート内部に装備されたファンで送風することにより、シート表面の通気をよくします。

⚠ 警告

n 低温やけどについて

次の方がシートヒーターにふれないようご注意ください。

- l 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- l 皮膚の弱い方
- l 疲労の激しい方
- l 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

n シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

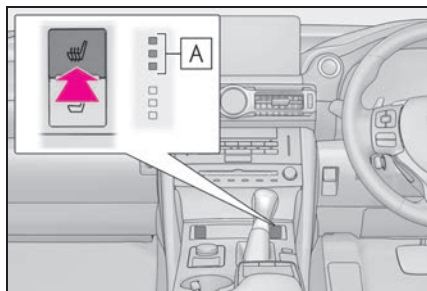
n バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で使用しないでください。

シートヒーター

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわり、レベルインジケータ（橙）**A**が点灯します。

強（3個点灯）→中（2個点灯）→弱（1個点灯）→OFF



📖 知識

n 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

n タイマー制御について

停車中に運転席と助手席のシートヒータースイッチを同時に押し続けると、ブザーが“ピッ”と鳴りタイマー制御が ON になります。

タイマー制御が ON になると、シートヒーターの作動状態が自動で次のように切りかわります。

選択した作動状態	作動状態の切りかわり
強	強 → 中 → 弱
中	中 → 弱
弱	弱

切りかわるまでの時間は、シートヒーターを作動させたときの室内温度などにより異なります。

もう一度上記の操作を行うと、ブザーが“ピッピッ”と鳴りタイマー制御が OFF になります。

⚠ 警告

n 異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

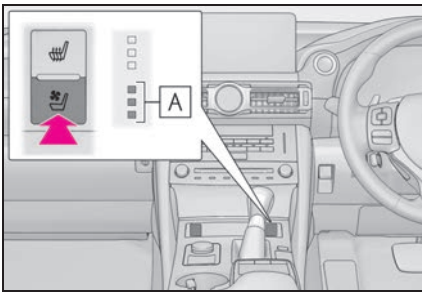
警告

- | 長時間連続使用しないでください。
- | 毛布・クッションなどを使用しないでください。

シートベンチレーター

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわり、レベルインジケーター（緑）**A**が点灯します。

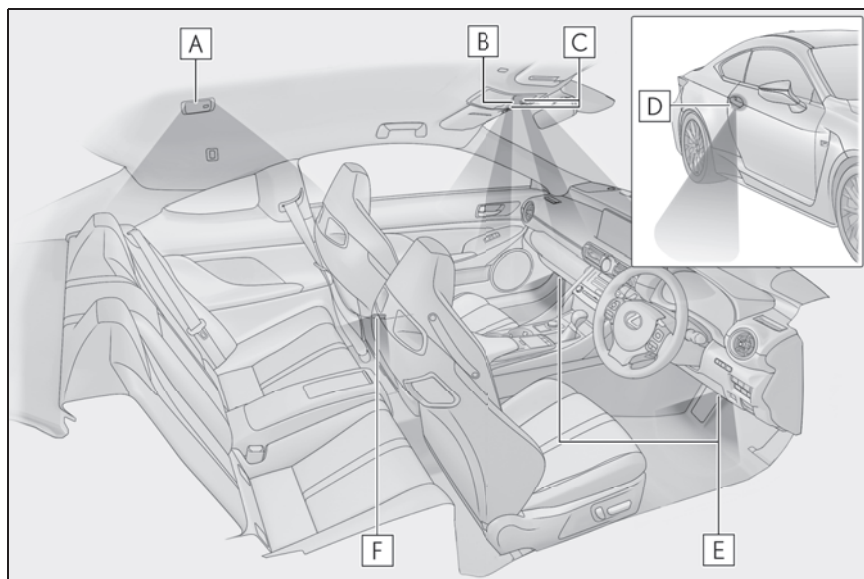
強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→
弱（1 個点灯）→OFF

**知識****n 作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON
モードのとき

室内灯一覧

室内灯の位置



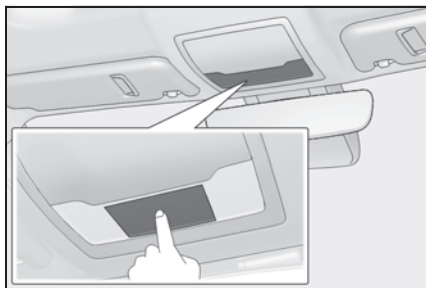
- A** リヤインテリアランプ (→P.230)
- B** フロントインテリアランプ (→P.230)
- C** パーソナルランプ (→P.231)
- D** 室外足元照明
- E** 室内足元照明
- F** ドアカーテシランプ

インテリアランプを操作するには

n フロント

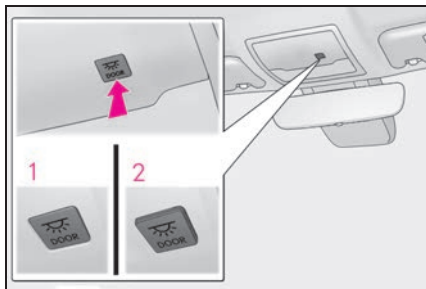
ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

リヤインテリアランプはフロントインテリアランプに連動して点灯・消灯します。



ドアの開閉に連動してランプの点

灯・消灯を切りかえる

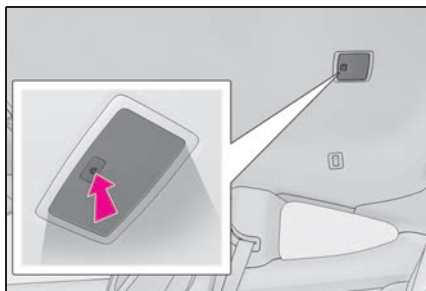


- 1 ドア連動 ON
- 2 ドア連動 OFF

n リヤ

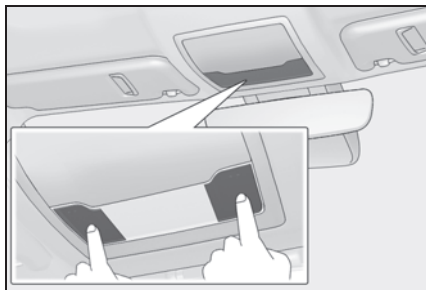
ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプが消灯している場合に点灯・消灯ができます。



パーソナルランプを操作するには

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



知識

n イルミネーテッドエントリーシステム
電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

n バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

n フロントインテリアランプとパーソナルランプが正常に反応しないおそれのある状況

l レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき

l 濡れた手で操作したとき

l 手袋などを装着しているとき

n カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.322）

⚠ 注意

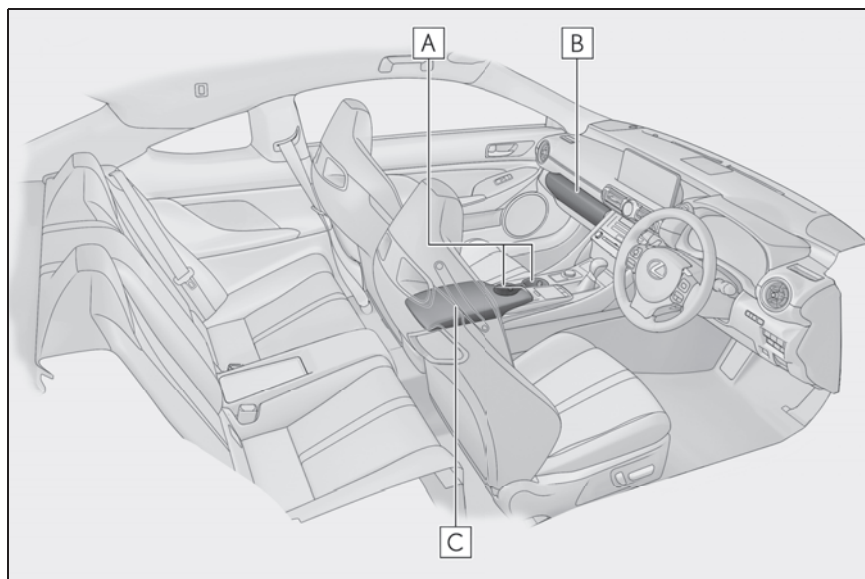
n バッテリーあがりを防止するために
エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

n ランプのレンズの取りはずしについて

フロントインテリアランプとフロントパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

収納装備一覧

収納装備の位置



A フロントカップホルダー (→P.233)

B グローブボックス (→P.233)

C コンソールボックス (→P.233)

⚠ 警告

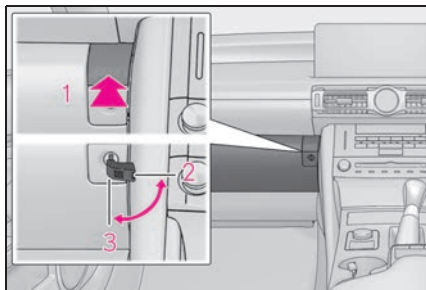
n 収納装備に放置してはいけないもの
メガネ、ライターやスプレー缶を収納
装備内に放置したままにしないでくだ
さい。

放置したまましていると、次のようなこ
とが起こるおそれがあり危険です。

I 室温が高くなったときの熱や、他の
収納物との接触などにより、メガネ
が変形やひび割れを起こす

I 室温が高くなったときにライターや
スプレー缶が爆発したり、他の収納
物との接触でライターが着火したり
スプレー缶のガスがもれるなどして
火災につながる

グローブボックス



- 1 開ける（ボタンを押す）
- 2 メカニカルキーで解錠
- 3 メカニカルキーで施錠

知識

n グローブボックスランプ

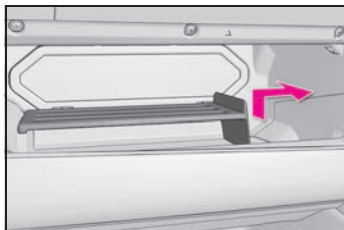
エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき、グローブボックス内のランプが点灯します。

n トランクオープナーメインスイッチ

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。
(→P.90)

n 仕切り板の取りはずし

グローブボックス内の仕切り板を取りはずして使用することができます。



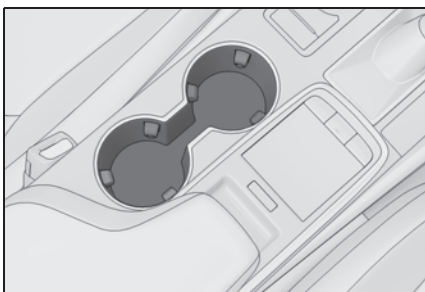
警告

n 走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フロントカップホルダー



警告

n 収納してはいけないもの

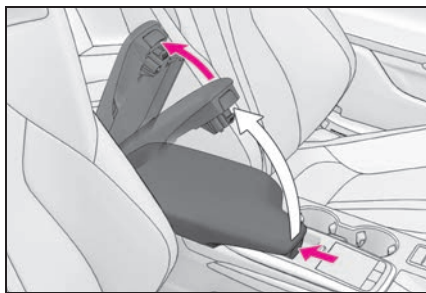
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

コンソールボックス

ノブを押す

手動でさらに開くと、全開にすることができます。



⚠ 警告

n 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。

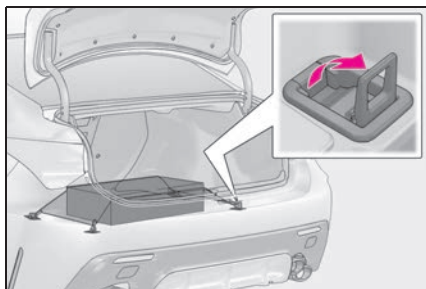
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

トランク内装備

荷物固定用フックを使うには

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



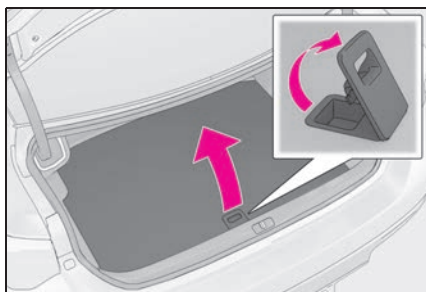
⚠ 警告

n 荷物固定用フックを使用しないときは

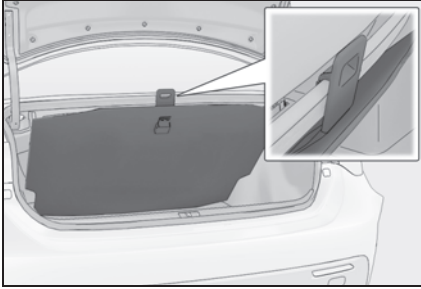
けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

ラゲージマット

- 1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる



2 フックを使ってラゲージマットを固定する



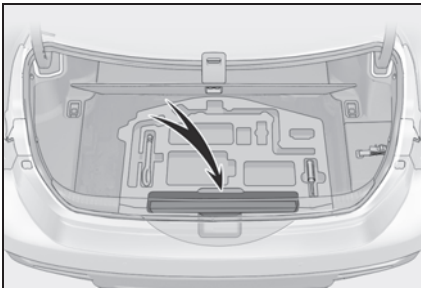
⚠ 注意

n ラゲージマットの損傷を防ぐために
トランクを閉めるとき、ラゲージマッ
トのフックをトランクの端にかけたま
まにしないでください。

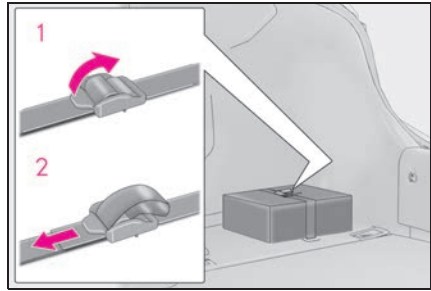
三角表示板収納スペース

三角表示板を収納することができる
スペースです。

(大きさ、形によっては収納できないこと
があります。)



救急箱等固定用バンドを使うには



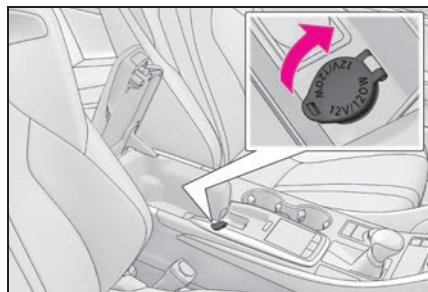
- 1 ベルトをゆるめる
- 2 ベルトを締める

その他の室内装備

アクセサリソケットを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

n 作動条件

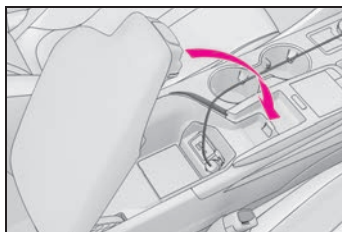
エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

n エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

n アクセサリソケットを使用するとき

コンソールボックスの縁に配線を通すことで、コンソールボックスを閉じた状態でも配線を外へ引き出すことができます。



⚠ 注意

n ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

n バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリソケットを長時間使用しないでください。

アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

n アシストグリップについて

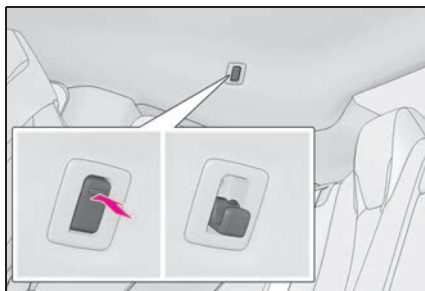
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意**n 破損を防ぐために**

アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

使用するときには、コートフックを押します。

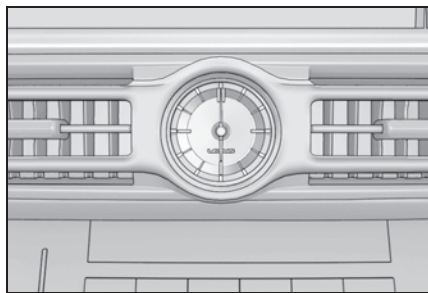
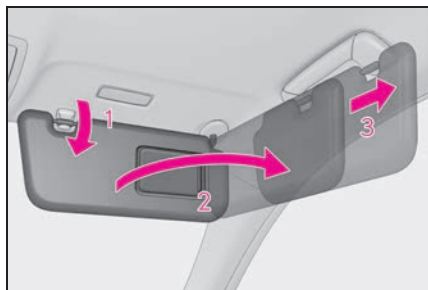
**⚠ 警告****n コートフックへかけてはいけないもの**

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

時計

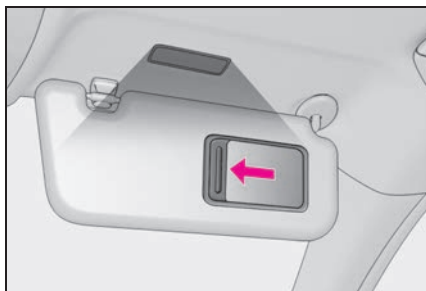
GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

**サンバイザーを使うには**

- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
- 3 エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける
カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



 知識

n バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチがOFFの場合、パニ
ティミラーランプが点灯したままのとき
は約 20 分後に自動消灯します。

 注意

n バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で長時間ラン
プを点灯しないでください。

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	240
内装の手入れ	245
ウルトラスエード®の手入れ	247

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	249
ガレージジャッキ.....	251
ウォッシュ液の補充.....	253
タイヤについて.....	253
タイヤの交換	260
タイヤ空気圧について	266
エアコンフィルターの交換	267
電子キーの電池交換.....	268
ヒューズの点検・交換.....	270
電球（バルブ）の交換.....	272

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- l 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- l 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- l 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- l 水をふき取る
- l 水のはじきが悪くなったときは、ワックスかけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

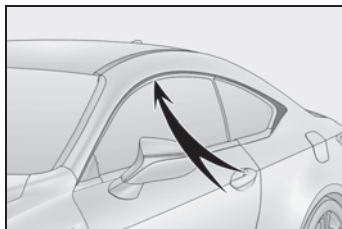
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

n カーボン部品について

- l 長期にわたって紫外線を浴び続けると変色することがありますので、直射日光のあたらない場所で車を保管されることをおすすめします。
- l 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

n 黒色ステンレスモールについて



図で示す部品には、黒色ステンレスの表面処理を施しています。

塗装の損傷を防ぐため、研磨剤などで表面を強くこすらないでください。塗装がムラになることがあります。

n セルフリストアリングコート※について

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- l 新車時から5～8年のあいだ、効果が持続します。
- l 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。

なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。

- l 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- l 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

※カーボン部品には、セルフリストアリングコートが塗装されていません。

n 自動洗車機について

カーボン部品に傷が付き塗装を損なったり、固定リヤウィングが破損したりするおそれがあるため、自動洗車機は使用しないでください。

n 高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズ

ルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

n 洗車などで車に水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- l 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- l 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.91）

n ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール非装着車）

- l 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- l 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- l 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・硬いブラシを使用しない
 - ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

n ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール装着車）

マット塗装のホイール・ホイールキャップの場合はお手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

- l 水洗いで早めに汚れを落としてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めて使用してください。
- l 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流し、柔らかい布で水滴をふ

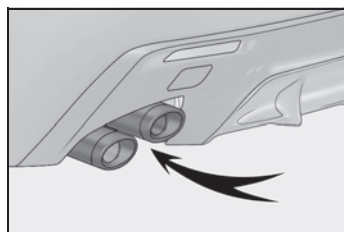
き取ってください。

- l スポンジまたは柔らかい布を用いて手洗いで汚れを落としてください。
- l マット塗装の損傷や艶が出ることを防ぐために、次のことをお守りください。
 - ・コーティング剤やワックスは使用しない
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・タイヤクリーナーやタイヤワックスを付着させない
 - ・乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない
 - ・自動洗車機を使用する際は、ホイール専用ブラシでの洗浄は行わない
 - ・高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しない
 - ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

n ディフューザー（チタンマフラー装着車）

チタンマフラー装着車のディフューザーは通常のディフューザーとお手入れ方法が異なります。

- l 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流し、柔らかい布で水滴をふき取ってください。
- l ディフューザーの損傷を防ぐために、次のことをお守りください。
 - ・乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない
 - ・コーティング剤や研磨剤入りの洗剤は使用しない



n ブレーキキャリパーの塗装について

- l 洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- l ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- l 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

n ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

n バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

n ドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- l ドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
- l 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- l コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
- l 金属製の道具で霜取りをしない

n メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- l 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- l 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- l 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせ

てからふき取る

警告

n 洗車をするとき

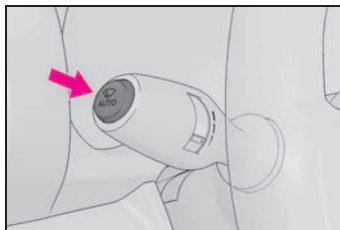
エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

n フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパーのAUTOモードをOFFにし、ワイパーが自動で作動しないようにしてください。（→P.139）

ワイパーがAUTOモードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- l 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- l 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- l フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- l 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

警告**n 排気管について**

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジンがかかっているときや、停止直後などにふれないでください。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

n ブラインドスポットモニターについて

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

注意**n ボデーコートについて**

塗装が損傷したり耐久性を損なうおそれがあるため、レクサスケミカル商品または同等の商品以外のボデーコートは施工しないでください。

n 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

↓ 次のような場合は、ただちに洗車してください。

- ・ 海岸地帯を走行したあと
- ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

↓ 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

↓ ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

n ランプの清掃

↓ 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。

↓ ランプを損傷させるおそれがあります。

↓ ランプにワックスがけを行わないでください。

↓ レンズを損傷するおそれがあります。

n ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

n 自動洗車機を使用するとき

ワイパーのAUTOモードをOFFにし、ワイパーが自動で作動しないようにしてください。(→P.139)

ワイパーがAUTOモードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

n 高圧洗浄機を使用するとき

↓ 洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。

↓ 高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

↓ エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

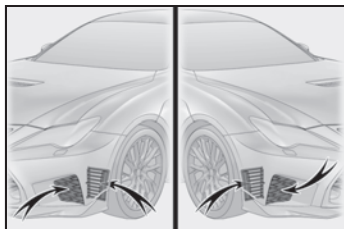
- ・ 駆動系部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ステアリング部品
- ・ ブレーキ部品

モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

フロントガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

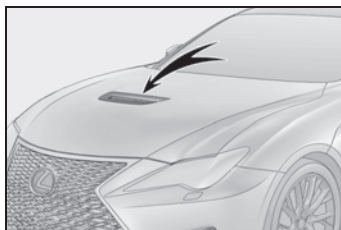
ノズルの先端を図の示す場所に直接向けないでください。高い水圧がかかることによりオイルクーラーが損傷するおそれがあります。



ⓘ エアアウトレットについて

洗車時にボンネットのエアアウトレットにバケツなどで一度に大量の水をかけたり、高圧洗浄機で直接水を当てたりしないでください。

エンジンルーム内に水がかかり、エンジンなどに悪影響をおよぼすおそれがあります。



内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- I 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- I 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

n カーベットの洗浄について

カーベットの常には乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーベットの広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

n シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

n グローブボックス・コンソールボックスなどの植毛部分を掃除する場合

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

n カーボン部品★について

手入れをするときは、湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取った後、乾いたやわらかい布で表面に

残った水分をふき取ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

n 車両への水の浸入

I 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。

電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

I SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。

(→P.28) 電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまざまに妨げる事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

n 清掃するとき使用する溶剤について

I 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

- ・ ナビゲーション画面：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤やアルカリ性の溶剤・アルコール

- ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

⚠ 注意

・ その他の部品：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

Ⅰ 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

n 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

n フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。

また、レンズにはふれないでください。(→P.147)

n リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

Ⅰ 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

Ⅰ 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

本革部分の手入れをするには

- Ⅰ 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- Ⅰ 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約5%に薄めて使用してください。

Ⅰ 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

Ⅰ 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

📖 知識

n 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

⚠ 注意

n 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

Ⅰ 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

Ⅰ 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

Ⅰ ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

- Ⅰ 掃除機などでほこりを取り除く
- Ⅰ 中性洗剤を水で約1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- Ⅰ 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ウルtrasエード®★※の手入れ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ウルtrasエード®は東レ株式会社の登録商標です。

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

⚠ 注意

n 運転するときは

ふれる頻度が高い部分は汚れが移りやすいため、手が汚れていないことを確認してからふれてください。

n ウルtrasエード®の傷みを避けるために

ウルtrasエード®の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- l 強い力を加えない
- l 爪を立てない
- l 手でこすらない
- l 汚れた手でふれない

日常のお手入れをするには

月1回程度の定期的なお手入れを行うことをおすすめします。

1 布などに40℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り全体をふく

毛羽が強くとれないようにふき取ってください。また、布はきれいなものを用意し、一度ふき取った布の汚れはすすいで充分に取り除いてからご使用ください。

2 乾いたらやわらかいブラシなどで毛並みを整える

📖 知識

n 毛羽の付着汚れを取り除くときは

ほこりなどの付着汚れはやわらかいブラシなどで軽くブラッシングして取り除いてください。それでも取れない場合は粘着テープを使用して取り除いてください。

⚠ 注意

n ウルtrasエード®表面の手入れをするときは

ウルtrasエード®はスエード調製品のため強いブラッシングはしないでください。毛羽立ち、毛羽落ちの原因になります。

n 粘着テープを使うときは

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

液体汚れについて

- l 液体がこぼれた場合は、ティッシュペーパーなどを軽くあてて吸い取る
- l 乾燥して固着してしまった泥やコーヒーなどの汚れは、やわらかいブラシなどで汚れ部分を軽くブラッシングして取り除く

その後、掃除機で乾燥汚れを吸い取ることをおすすめします。

これらの方法で汚れが取れない場合は、次の手順で汚れを取り除いてください。

1 布などに40℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り、汚れ部分を外側から内側に各方向から軽くふく

毛羽が強くとれないようにふき取ってください。また、布はきれいなものを用意

し、常にきれいな部分を使用してください。

- 2 表面の毛羽が乱れた場合は、やわらかいブラシなどで軽くブラッシングする
- 3 表面を完全に乾燥させる

 注意

n 液体汚れを吸い取るときは

ティッシュペーパーなどを強く押さえすぎないでください。汚れがしみ込み取りにくくなるおそれがあります。

油性の汚れについて

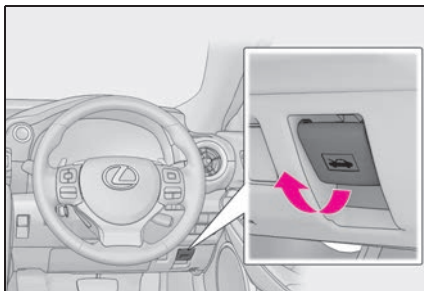
用意するもの

- I ベンジン、ぬるま湯または純正エチルアルコール（果実酒用）をしみ込ませた布
- I 乾いた布
- 1 乾いた布やティッシュペーパーで汚れが広がらないようにできるだけふき取る
- 2 ベンジン、ぬるま湯または純正エチルアルコール（果実酒用）をしみ込ませた布で汚れ部分を外側から内側にたたいた後、乾いた布で浮いた汚れをたたきながら吸い取る
- 3 表面の毛羽が乱れた場合は、やわらかいブラシなどで軽くブラッシングする

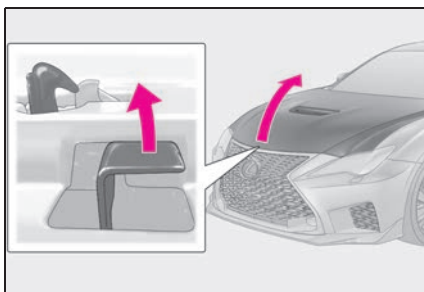
ボンネット

ボンネットを開けるには

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



知識

- n マルチインフォメーションディスプレイにボンネットが開いているメッセージが表示されたときは

→P.87

- n バッテリーを交換するときは

この車は欧州規格のバッテリーを搭載しています。欧州車規格以外のバッテリーを使用すると、バッテリークランプが正しく取り付けられず、使用できません。バッテリー交換を行うときは、純正品と同等の欧州規格バッテリーを使用してください。

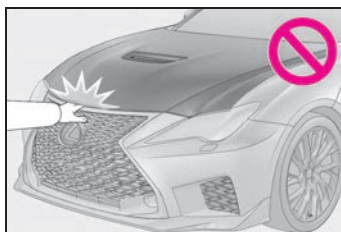
警告

- n 走行前の確認

ボンネットがしっかりとロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- n ボンネットを閉めるとき



手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- n エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

- n バッテリーを交換するときは

必ず純正品と同等の欧州規格バッテリーを使用してください。規格の異なるバッテリーを使用すると、エンジンルームでバッテリーとボンネットとのすき間が確保できず、事故が発生したときの安全性能が低下して、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

 注意**n** ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

| ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

ボンネットがへこむおそれがあります。

| ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

- ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ・ ロッド部を軍手などでふれない
- ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

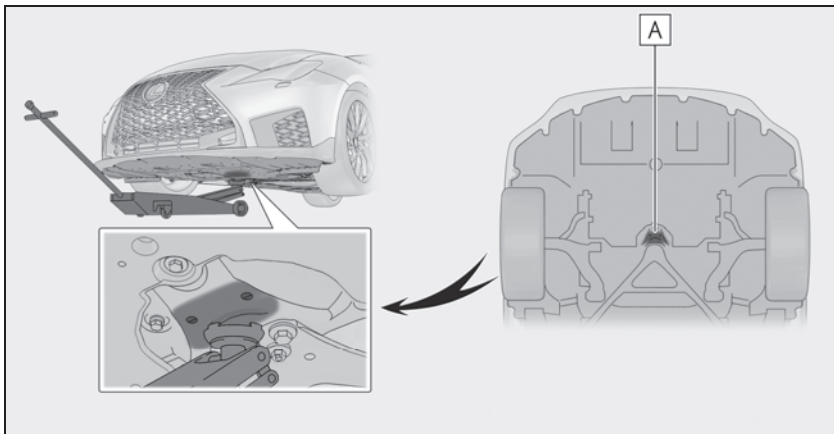
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

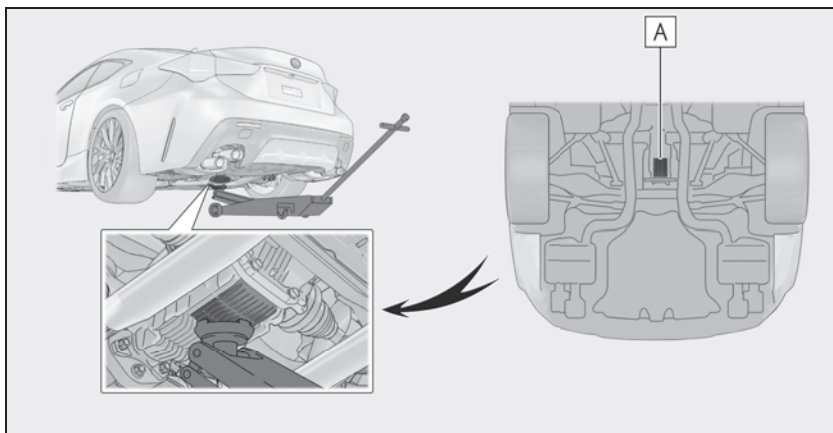
ジャッキポイントの位置を確認する

n フロント側



A ジャッキポイント

n リヤ側

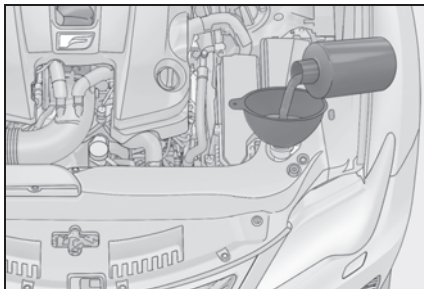


A ジャッキポイント

ウォッシャー液の補充

補充するには

ウォッシャー液が出なかつたり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する



警告

n ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

n ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せつけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

n ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を10,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

l タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

l タイヤの亀裂・損傷の有無

l タイヤの溝の深さ

l タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

n タイヤ空気圧の数値

空気圧※ kPa (kg/cm ²)	
前輪	後輪
250 (2.5)	250 (2.5)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



n タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイールボルトを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

n 低扁平タイヤについて

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

n 低扁平タイヤの空気圧点検

低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも1ヶ月に1回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

⚠ 警告

n 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- l タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- l メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- l ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

l サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

l 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

n 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- l 破裂などの修理できない損傷を与える
- l 車両が横すべりする
- l 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

n 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

n 低扁平タイヤについて

低扁平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

- l 適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

⚠ 注意

Ⅰ 段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

Ⅱ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

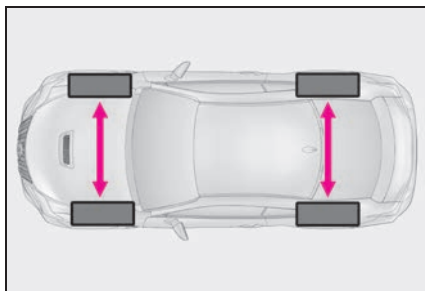
Ⅲ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

📖 知識

Ⅳ タイヤローテーションを行うとき

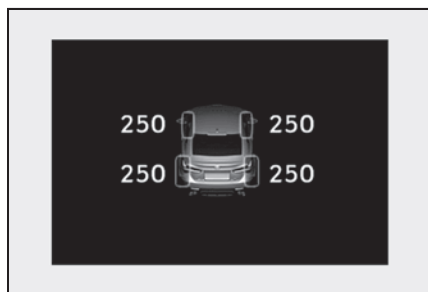
必ずエンジンスイッチがOFFの状態で行ってください。イグニッションONモードのままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、エンジンスイッチをいったんOFFにしてから再度イグニッションONモードにするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

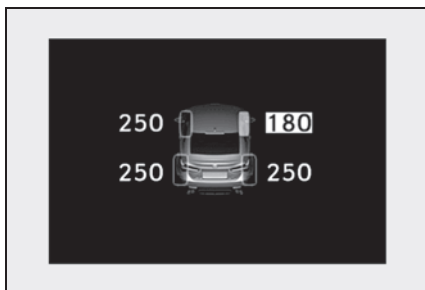
Ⅰ タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。(→P.65)



上図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

Ⅱ 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警

報します。(→P.289)



知識

n タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

n タイヤ空気圧表示について

l エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで約3分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約3分かかります。

l タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

n タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

- l 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
 - ・純正ホイール以外を使用したとき
 - ・純正装着タイヤ以外に交換したとき
 - ・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
 - ・中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
 - ・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき

- ・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
- ・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
- ・タイヤ空気圧警報バルブ/送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
- ・タイヤ空気圧警報バルブ/送信機のIDがタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

l 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。

- ・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ・無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況が変わることで正しく表示されることがあります。

- l 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
- l タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

n タイヤ空気圧警報システムの警報精度について

タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、システムを初期化したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、初期化したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

空気圧バルブ/送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、

付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。(→P.259)



知識

n ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。



注意

n タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

1 タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

1 レクサス指定の純正ホイールを使用してください。レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

1 ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

1 バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。

1 バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

n バルク補修液を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤ空気圧警報システムを初期化するには

n 初期化が必要なとき

1 タイヤローテーションを実施したとき

1 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき

1 ID コードの登録を実施したとき
システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

n 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、20 分以上エンジンを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

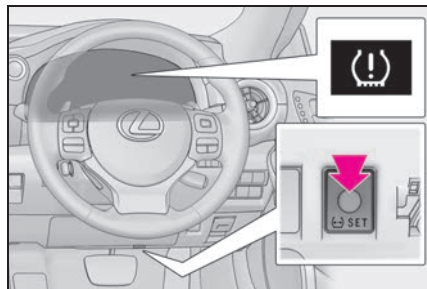
タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 エンジンを始動する (→P.118)

4 タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける

タイヤ空気圧警報システム設定中のメッ

セージが表示され、初期化を開始します。



- 5 約 40km/h 以上で適度に左右折や直進をしながら約 10 ~ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。

知識

n 初期化するときは

- l 通常は約 30 分以内の走行で初期化が完了します。
- l 車速が約 40km/h 以上のときに行われまず。
- l 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- l タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に左右折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

n 初期化操作について

- l 初期化中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回イグニッション ON モードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あら

ためてリセットスイッチを押し直す必要はありません。

- l 初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押ししてしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。
 - l タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。
- n **タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき**

- l 次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
 - ・ 約 40km/h 以上で走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した

1 時間以上走行しても初期化できない場合は、エンジンをかけたまま安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

- l 初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- l 初期化操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。
- l 上記の方法でも初期化できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

警告

n **タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき**

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押ししてください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

n ID コード登録が必要なとき

- l 新しいバルブ/送信機を装着したとき
- l すでにIDコードの登録がされているバルブ/送信機を装着したとき (例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など)

タイヤ空気圧バルブ/送信機には固有のIDコードが設定されているため、車両のコンピューターにIDコードを登録する必要があります。

n ID コード登録のしかた

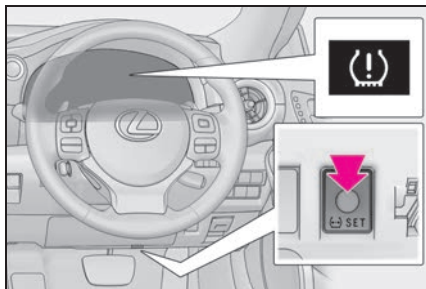
- 1 車を安全な場所に15分以上駐車する (タイヤ交換作業を含む)
- 2 エンジンを始動する (→P.118)
- 3 リセットスイッチを素早く3回連続で押す

タイヤ空気圧警告灯が3回ゆっくり点滅します。

センサー登録モードになり、IDコードの登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、タイヤ空気圧が"--"になります。

その後、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅後点灯します。



- 4 約2分間待つ

すでにIDコードの登録がされている場合、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

- ▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯した場合
- 5 タイヤ空気圧警報システムを初期化する (→P.257)
- ▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯していない場合
- 5 約40km/h以上でタイヤ空気圧警告灯が消灯するまで走行する
- 6 タイヤ空気圧警報システムを初期化する (→P.257)

知識

n IDコードの登録をするときは

- l 通常は約30分以内の走行で登録が完了します。すでにIDコードの登録がされている場合は、通常より短い時間で完了します。
- l IDコードの登録は、車速が約40km/h以上のときに行われます。
- l 登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ/送信機を装着したホイールがないことを確認してください。
- l IDコードの登録をしたあとに初期化を行ってください。IDコードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。
- l IDコードの登録が完了したあとは、走行によりタイヤが熱くなっているためタイヤが十分に冷えたあとで初期化操作を行ってください。
- l IDコードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

n ID コード登録の中止について

- l ID コードの登録を中止するには、リセットスイッチを素早く3回連続で押してください。
- l ID コードの登録を中止すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。
- l タイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていません。正しく中止するためには、再度、リセットスイッチを素早く3回連続で押して、警告灯が消灯することを確認してください。

n ID コードの登録がうまくいかないとき

- l 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
 - ・ 走行前に約15分以上駐車していない
 - ・ 約40km/h以上で走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
 - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
 - ・ タイヤ空気圧バルブ/送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある
- 1時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- l 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- l 登録操作時に警告灯がゆっくり3回点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。
- l 上記の方法でもID コードを登録できない場合はレクサス販売店にご依頼ください。

タイヤの交換

ご自身でタイヤを交換するときは、工具とジャッキをご準備ください。

この車両はホイールボルトを使用しています。

工場出荷時に装着されたホイールを使用する場合は、専用のレクサス純正ホイールボルトを使用する必要があります。

ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- l 地面が固く平らな場所に移動する
- l パーキングブレーキをかける
- l シフトレバーをPに入れる
- l エンジンを停止する

知識

n 工具とジャッキについて

お客様の車には、タイヤ交換に使用する以下の工具とジャッキは搭載されていません。工具とジャッキはレクサス販売店で購入することができます。

- l 輪止め
- l ジャッキ
- l ジャッキハンドル
- l ホイールボルトソケット
- l ガイドピン
- l ホイールボルトレンチ

n 工具とジャッキの搭載位置について

→P.295

警告

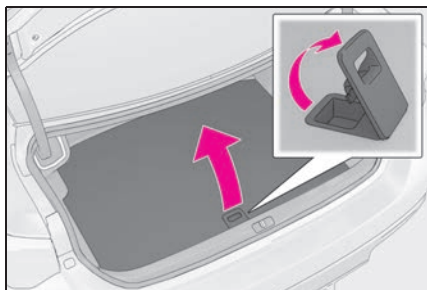
n ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車両が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。以下のことをお守りください。

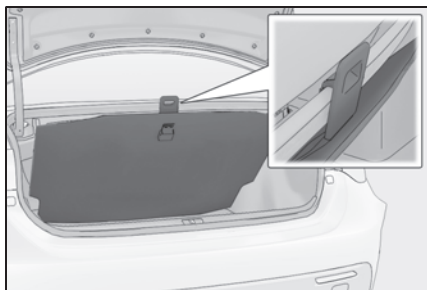
- ❶ ジャッキはタイヤ交換以外の目的で使用しない
- ❷ 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ❸ ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ❹ ジャッキで支えられている車両の下に体を入れない
- ❺ 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- ❻ 車内に人を乗せたまま車両を持ち上げない
- ❼ 車両を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものをのせない
- ❽ 車両を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ❾ 車両の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する
- ❿ 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

工具とジャッキの取り出し方

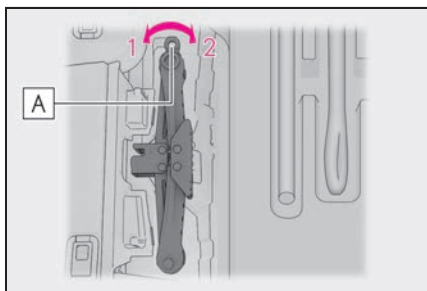
- 1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる



- 2 フックを使ってラゲージマットを固定する



- 3 ジャッキをゆるめて取りはずす



- 1 締まる
- 2 ゆるむ

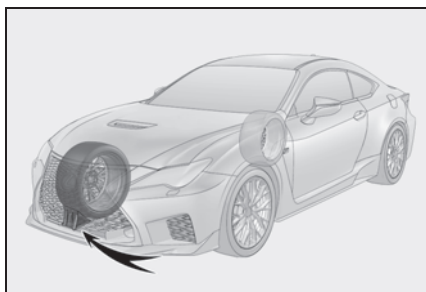
ジャッキの締め付けが固く、ゆるめることができないときは、ジャッキの[A]部の穴に車載のドライバーなどを挿入してゆるめてください。

 注意

n ラゲージマットの損傷を防ぐためにトランクを閉めるとき、ラゲージマットのフックをトランクの端にかけたままにしないでください。

タイヤの交換

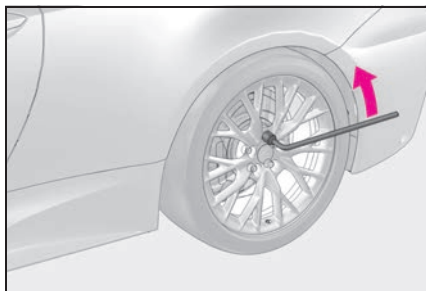
1 輪止め[※]をする。



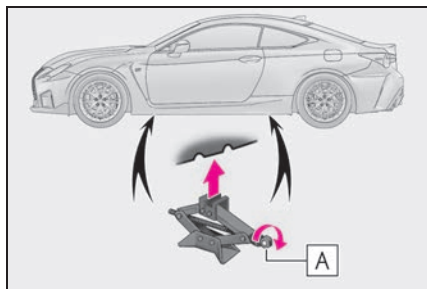
パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

[※] 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

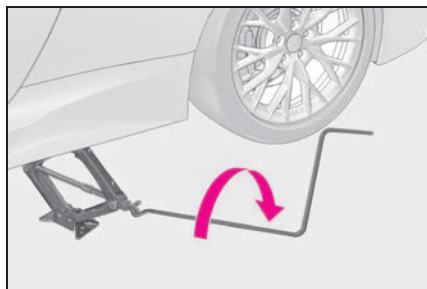
2 ホイールボルトレンチを使用し、すべてのホイールボルトを少し(約1回転)ゆるめる



3 ジャッキの[A]部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。

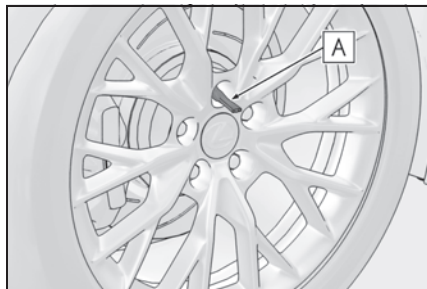


4 タイヤが地面から少しはなれるまで、車体を上げる。



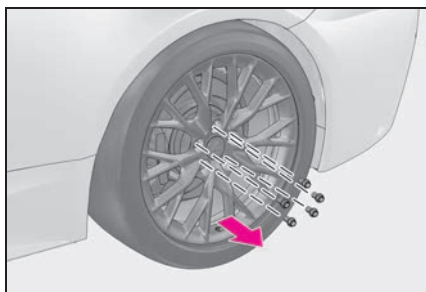
5 最上部にあるホイールボルト1本を取りはずし、ガイドピン[A]を手で締め付ける

時計回りに回らなくなるまで締め付けます。



6 残りのホイールボルトをすべて取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

n タイヤ交換について

走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

注意

n CCB（カーボンセラミックブレーキ）

★ディスクの取り扱いについて

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

CCB ディスクに強い衝撃をあたえないでください。

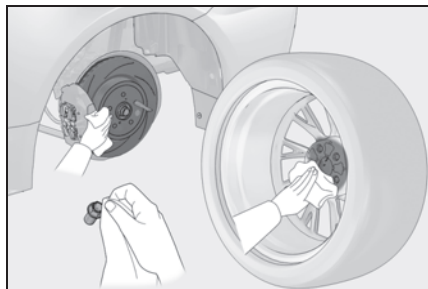
CCB ディスクへ衝撃をあたえてしまったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、レクサス販売店で点検を受けてください。

タイヤの取り付け

1 ホイール接触面とホイールボルトの汚れをふき取る

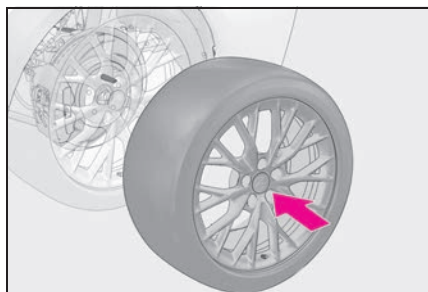
汚れていると、走行中にホイールボルトがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

ります。



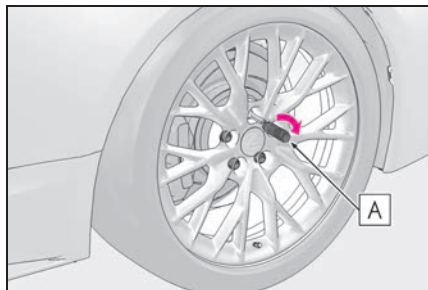
2 ホイールの穴にガイドピンを通し、タイヤを取り付ける

ホイールセンタ穴とハブセンタが嵌合し、ホイールが接触面に当たるまで、しっかり取り付けてください。

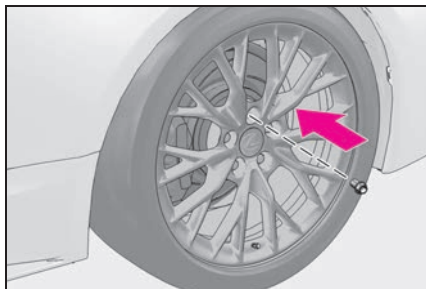


3 手または、ホイールボルトソケット[A]を使用し、ホイールボルトを軽く締め付ける

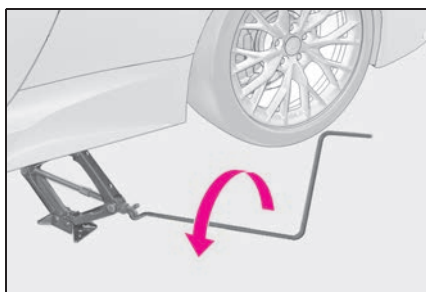
ホイールボルトソケットは手による仮締め以外に使用しないでください。



- 4 ガイドピンを取り外し、ホイールボルトを手順3同様に軽く締め付ける



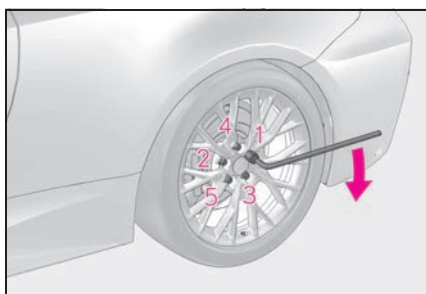
- 5 車体を下げる



- 6 ホイールボルトレンチを使用し、図の番号順でホイールボルトを2、3度しっかりと締め付ける

締め付けトルク：

140N・m (1428kgf・cm)



- 7 すべての工具・ジャッキを収納する

警告

n タイヤを取り付けるときは

次のことをお守りいただかないとホイールボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

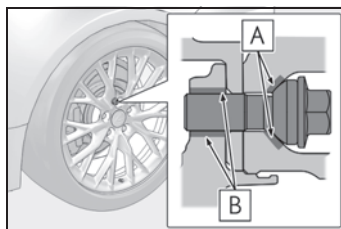
ホイールとホイールボルトの接触面は、嵌合するように設計されています。工場出荷時に装着されたホイールを使用する場合は、専用のレクサス純正ホイールボルトを使用してください。

なおレクサス純正品であっても、他車種および異なる年式・型式のホイールボルトは使用しないでください。また、工場出荷時に装着されたホイールボルトがすべてのホイールに適合するわけではありません。工場出荷時に装着されたホイール以外を取り付けるときは、ホイールの購入先にお問い合わせください。

ホイールボルトとホイールの球面座部 **A** にオイルやグリースを塗らないでください。

ホイールボルトを締めるときに必要以上に締め付けられ、ホイールボルトやホイールハブのめねじ **B** が破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。

ホイールボルトを取り付けるときに、オイルやグリースが付いている場合はふき取ってください。



警告

I タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

I ホイールボルトのねじ部やホイールハブのめねじ、ホイールのボルト穴につぶれ、亀裂や錆びなどの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

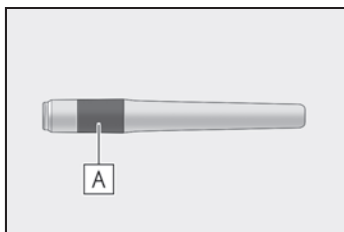
n ホイールボルトを締め付けるときは

ホイールボルトは過度に締め付けすぎないでください。ホイールボルトやホイールハブのめねじが破損したり、ディスクホイールが損傷する恐れがあります。

n ガイドピンについて

タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。

また、ガイドピンは樹脂製のため **A** 部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。

**n タイヤ・ホイール・バルブ/送信機・バルブキャップの修理・交換**

→P.253

注意**n CCB (カーボンセラミックブレーキ)****★ディスクの取り扱いについて**

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

→P.263

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を2週間に1回、または長距離ドライブの前には必ず実施してください。

知識

n タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- ┆ 燃費の悪化
- ┆ 乗り心地や操縦安定性の低下
- ┆ 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- ┆ 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

n タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- ┆ タイヤが冷えているときに点検する
- ┆ タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- ┆ 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- ┆ 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

n タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ┆ 過度の摩耗
- ┆ 偏摩耗
- ┆ 操縦安定性の低下
- ┆ タイヤの過熱による破裂
- ┆ タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ┆ ホイールの変形、タイヤの損傷
- ┆ 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

注意

n タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

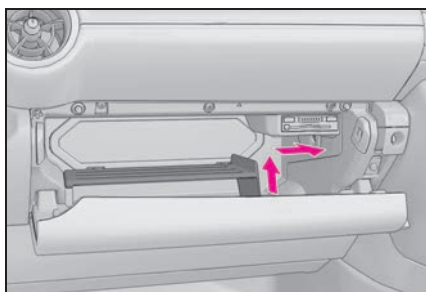
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤがパンクした状態になるおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

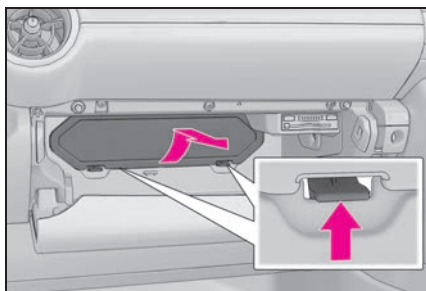
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

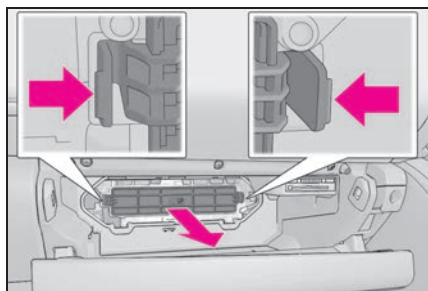
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、仕切り板をはずす



- 3 ツメ (2ヶ所) を押してロックをはずし、フィルターカバーを取りはずす

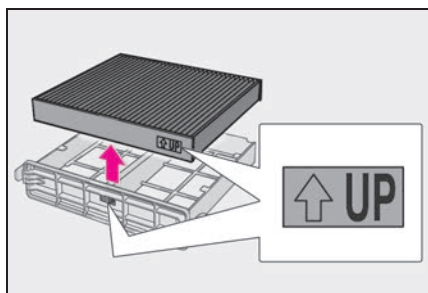


- 4 ツメ (2ヶ所) を押してロックをはずし、フィルターケースを取りはずす



- 5 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“↑ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

n エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。15000km [7500km^{※1}] ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと^{※2}

^{※1} 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

^{※2} 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

n エアコンの風量が減少したときは
フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

 注意

n エアコンを使用するときの注意

- l フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- l フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

 知識

n 電子キーの電池が消耗していると
次のような状態になります。

- l スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- l 作動距離が短くなる

n カードキーの電池交換が必要なときは
カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

事前に準備するもの

- l マイナスドライバー
- l 小さいマイナスドライバー
- l リチウム電池 CR2032

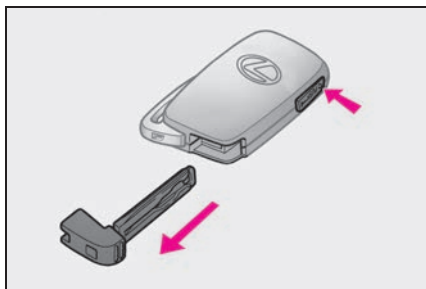
 知識

n リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

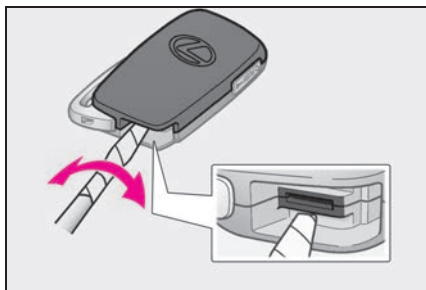
電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く



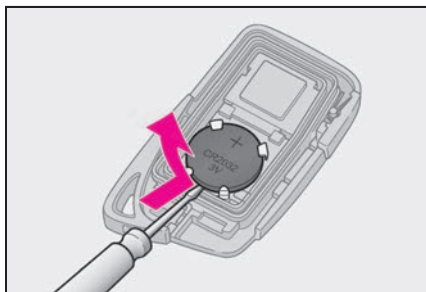
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



⚠ 警告

n 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- l 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
 - l 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - l 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
 - l カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
 - l 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- ### n 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために
- l 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
 - l 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
 - l 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

n 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

n 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- l めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- l 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- l 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

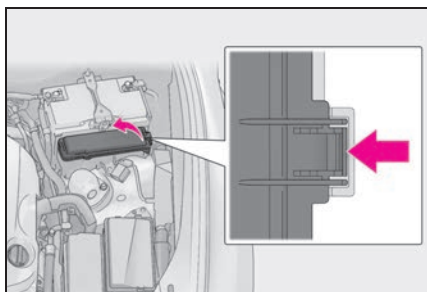
ヒューズの点検・交換するには

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

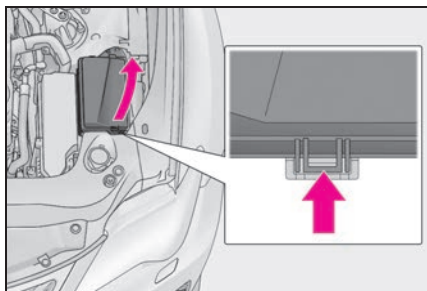
▶ エンジンルーム (1)

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



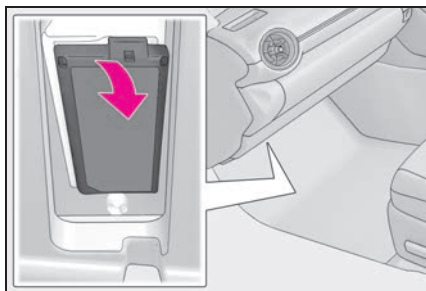
▶ エンジンルーム (2)

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



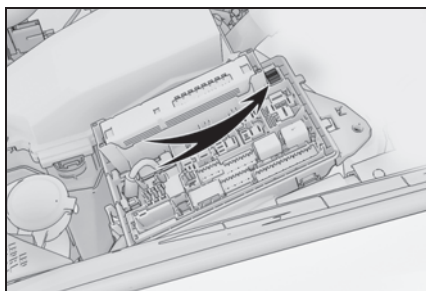
▶ 助手席足元

カバーを取りはずす

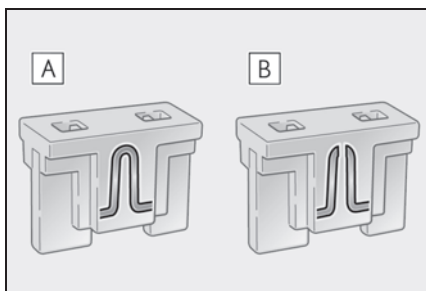


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしてヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

n ヒューズを交換したあとは

- l カバーを取り付けるときは、ツメをしっかりと取り付けてください。
- l 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P.272)
- l 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

n バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

n 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

警告

n 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- l 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- l 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- l ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

n ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

ランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

 知識

n LED ランプについて

すべてのランプは、数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

n レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- l レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- l ランプ内に水がたまっている

7-1. まず初めに

故障したときは.....	274
非常点滅灯（ハザードランプ）	275
発炎筒	275
車両を緊急停止するには	276
水没・冠水したときは.....	277
車中泊が必要なときは.....	278

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....	279
フューエルポンプシャットオフシス テム	283
警告灯がついたときは.....	284
警告メッセージが表示されたときは	291
パンクしたときは.....	294
エンジンがかからないときは ..	304
キーをなくしたときは.....	306
給油扉が開かないときは	306
電子キーが正常に働かないときは	307
バッテリーがあがったときは ..	309
オーバーヒートしたときは.....	312
スタックしたときは.....	314

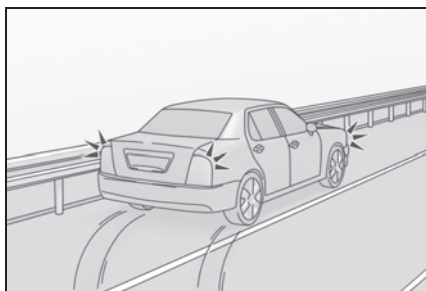
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

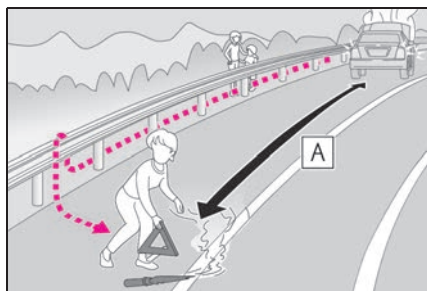
- 1 非常点滅灯 (→P.275) を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 1 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
 - 1 同乗者を避難させる
 - 2 車両の50m以上後方 (A) に発炎筒 (→P.275) と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用
- 1 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
- 1 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

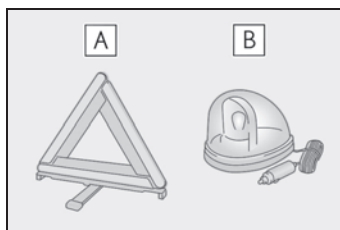
- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

n 停止表示板・停止表示灯について

- 1 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

- 1 停止表示板のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

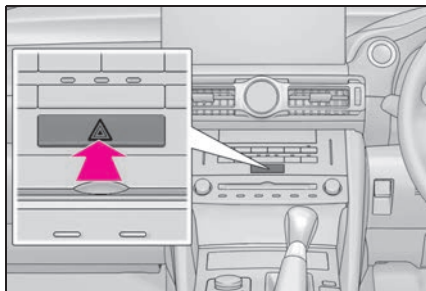
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

n 非常点滅灯について

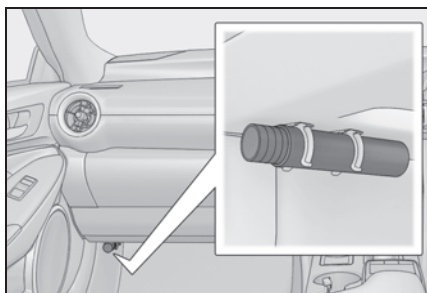
エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

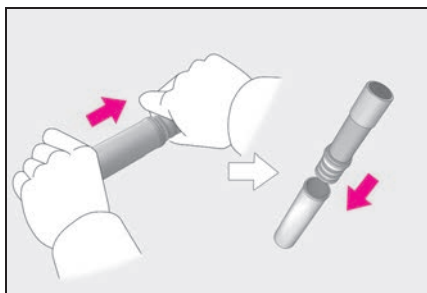
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



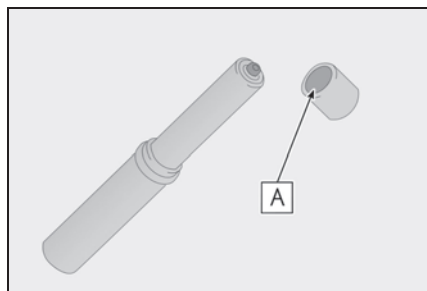
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

n 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店で求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

n 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- | トンネル内
- | ガソリンなど可燃物の近く

n 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- | 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- | 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

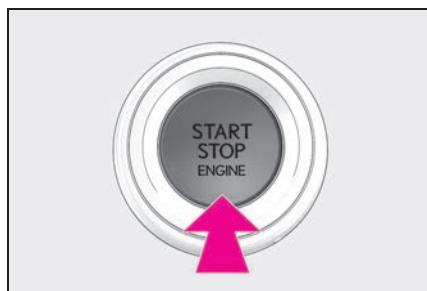
万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを N に入れる
 - ▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 エンジンを停止する
 - ▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

n 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- l ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- l ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- l ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- l 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

📖 知識

n 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

n 緊急脱出用ハンマー[※]の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで

割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告

n 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

⚠ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

! 詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://lexus.jp/news/bousai/#help_book



けん引について

けん引は、できるだけレックス販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

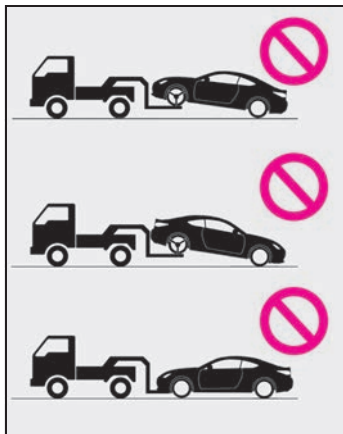
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n レッカー車でけん引するとき

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。



n 他車にけん引してもらうときの運転について

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などをお避けください。

けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

エンジンスイッチをOFFにしないでください。

ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

n けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

n 車両の損傷を防ぐために

他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

- ・ワイヤーロープは使用しない
- ・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
- ・前進方向でけん引する
- ・サスペンション部などにロープをかけない

この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

⚠ 注意

n 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で4輪とも持ち上げた状態でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

n リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

l やむを得ない場合以外は使用しないでください。

l 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

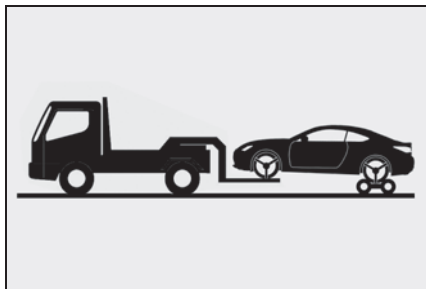
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- l エンジンがかかるが車が動かない
- l 異常な音がする

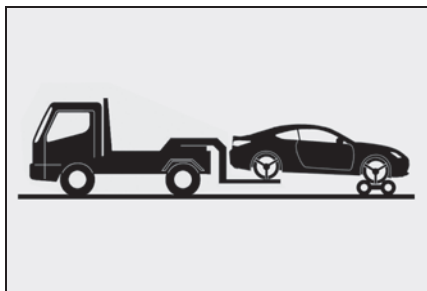
レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

- ▶ うしろ向きにけん引するときは

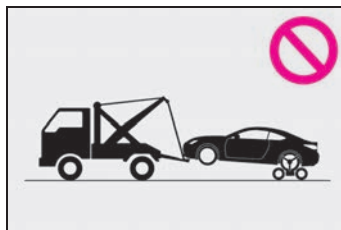


台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

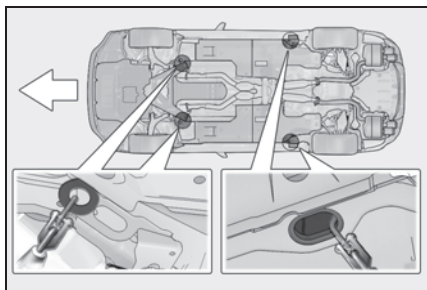
n レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



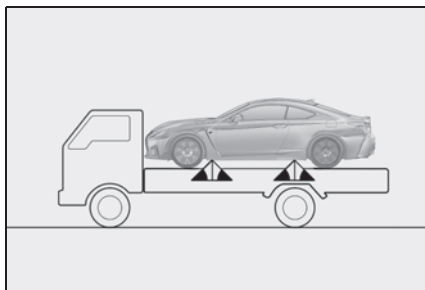
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を

固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



⚠ 注意

n 車両運搬車に車を固縛するとき

l ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

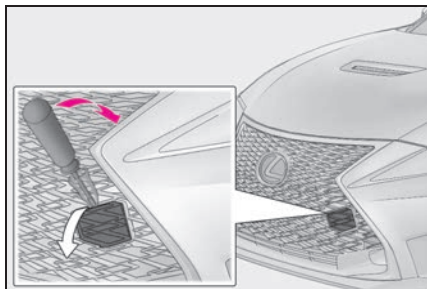
他車にけん引してもらおうとき

他車にけん引してもらおうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

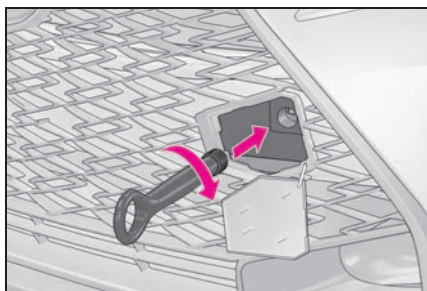
- 1 トランク内のホイールボルトレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す (→P.295)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してく

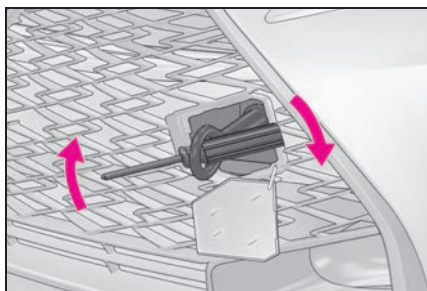
ださい。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールボルトレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

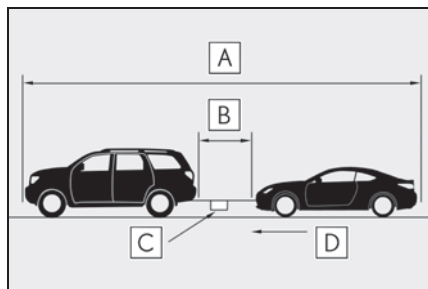


- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6 ロープの中央に白い布を付ける
布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください (→P.127)

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P.123

知識

n けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

n 他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効が悪くなったり、ハンドル操作が通常

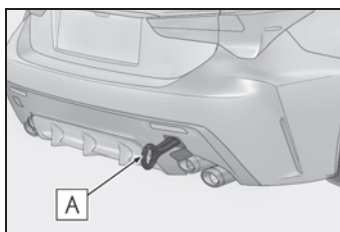
より重くなったりします。

n ホイールボルトレンチについて

トランクに搭載されています。(→P.295)

n リヤ側けん引フックについて (輸送用フック/緊急用フック)

このフック **A** は船舶固縛で車両を輸送するときに固定するために、または雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

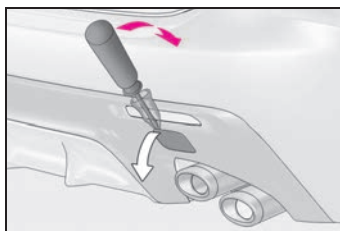


n リヤ側けん引フックを取り付けるには輸送用フック、緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

1 トランク内のホイールボルトレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す (→P.295)

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める (→P.281)
- 4 ホイールボルトレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける (→P.281)

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にする
- 2 エンジンを再始動する

注意

n エンジンを始動する前に


車両下をよく確認してください。地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは


警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応


n ブレーキ警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ液の不足 ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

n ブレーキ警告灯


警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

n 高水温警告灯※ (警告ブザー)


警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、対処方法 (→P.312) に従ってください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

n 充電警告灯


警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

n 油圧警告灯※（警告ブザー）


警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。


n エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> エンジンの異常 エンジン電子制御システムの異常 電子制御スロットルの異常 オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。


n SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> SRS エアバッグシステムの異常 プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

n ABS & ブレーキアシスト警告灯


警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ABS の異常 ブレーキアシストの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

n ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）


警告灯	警告内容・対処方法
	<p>ブザーが鳴った場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ブレーキオーバーライドシステムの異常 ドライブスタートコントロールの異常 ドライブスタートコントロール作動時 <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。</p> <p>ブザーが鳴らなかった場合：</p> <p>ブレーキオーバーライドシステム作動時</p> <p>→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。


n パーキングブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	<p>パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。</p> <p>→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。</p> <p>パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。</p>


n ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	<p>ブレーキホールドシステムの異常</p> <p>→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p>


n パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常</p> <p>→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p>


n LTA（レーントレーシングアシスト）表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (橙色)	<p>LTA（レーントレーシングアシスト）の異常</p> <p>→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.170）</p>


n PCS 警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	<p>警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p> <p>警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.150, 293)</p> <p>プリクラッシュセーフティがOFF、またはVSC（ピークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 → P.162</p>


n スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p> VSC（ピークルスタビリティコントロール）システムの異常 TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常</p> <p>VSC/TRC システム作動時は点滅します。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p>

n ヘッドランプオートレベリング警告灯


警告灯	警告内容・対処方法
	<p>自動光軸調整システムの異常 → レクサス販売店で点検を受けてください。</p>

n 半ドア警告灯（警告ブザー ※）


警告灯	警告内容・対処方法
	<p>いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない → 両ドアおよびトランクを閉める</p>

※ 半ドア走行時警告ブザー：→P.87

n 燃料残量警告灯


警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 10L 以下になった → 燃料を補給する

n 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。


n リヤ席シートベルト非着用警告灯※¹（警告ブザー※²）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する


※¹センターパネルに表示されます。

※²リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

n マスターウォーニング（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P.291

n タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>警告灯が点灯した場合：</p> <p>次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然要因 (→P.289) タイヤのパンク (→P.294) <p>→ 指定された空気圧に調整してください。調整して数分後に警告灯が消灯します。数分経過しても警告灯が消灯しない場合は、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。(→P.257)</p> <p>初期化を行っても警告灯が消灯しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。</p> <p>警告灯が1分間点滅したあとに点灯した場合：</p> <p>タイヤ空気圧警報システムに異常があります。</p> <p>→ レクサス販売店で点検を受けてください。</p>

 知識

n 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

n シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

| 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

| 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

n パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

n タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合
タイヤが十分に冷えてから次の操作を

行ってください。

| 空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

| 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行ってください。

タイヤが十分に冷えていない状態で上記の操作を行うと、警告灯が再度点灯する場合があります。

n 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

n タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.256

警告

n ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

n パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドル操作が非常に重くなる場合があります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

n タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

l できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

l タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合はタイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合はタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。

l 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。

タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

n タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

n タイヤ空気圧警報システムについての注意

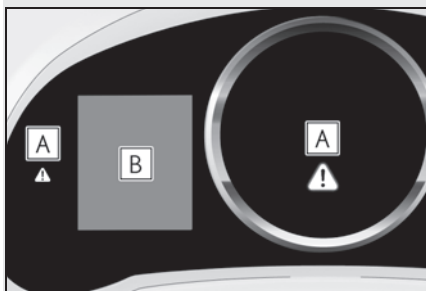
l 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ/送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

l 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

l タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作(→P.257)では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



A マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。


B マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	警告ブザー※	警告内容
点灯	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
点滅	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

- ↑ 上記の点灯・点滅状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。
- ↑ メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.284）に従ってください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

n 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

n 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

n “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認し

てください。

n “エンジン停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは

走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

n “バッテリー保護のため自動で電源をOffしました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにして約 5 分間その回転数を保持し、バッテリーを充電してください。

n “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を

受けてください。

- l LED ヘッドランプ
- l ヘッドランプオートレベリングシステム
- l オートマチックハイビーム
- n “クルーズコントロール 一時使用不可 取扱書を確認ください” が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法 →P.150）

- n “クルーズコントロール 現在使用できません” が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

- n 前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.150,284）

- l PCS（プリクラッシュセーフティ）
- l LTA（レーントレーシングアシスト）
- l オートマチックハイビーム
- l RSA（ロードサインアシスト）
- l レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- l 先行車発進告知機能

- n レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.150,284）

- l PCS（プリクラッシュセーフティ）

- l LTA（レーントレーシングアシスト）
- l レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- l 先行車発進告知機能
- n “リヤウイング作動にはウイング設定を On にしてください” が表示されたときは

アクティブリヤウイングの作動を OFF にした状態でアクティブリヤウイングを押したときにメッセージが表示されます。アクティブリヤウイングの作動を ON に切りかえてから、アクティブリヤウイングスイッチを押してください。（→P.202）

- n 販売店で点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

- n “取扱書を確認” の警告メッセージが表示されたときは

- l 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
 - ・ “エンジン冷却水高温” （→P.312）
 - ・ “AT オイル高温” （→P.122）
- l 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
 - ・ “スマートエントリー&スタートシステム故障”

- l 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 - ・ “故障のためブレーキ力が低下”
 - ・ “充電システム故障”
 - ・ “エンジン油圧不足”

 注意

n “電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です” がひんばんに表示されるときは

充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です)

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

 警告

n パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

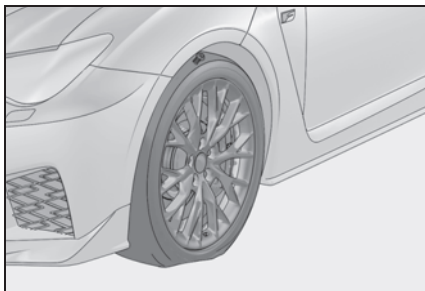
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- l 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- l パーキングブレーキをかける
- l シフトレバーを P にする
- l エンジンを停止する
- l 非常点滅灯を点滅させる
(→P.275)
- l タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



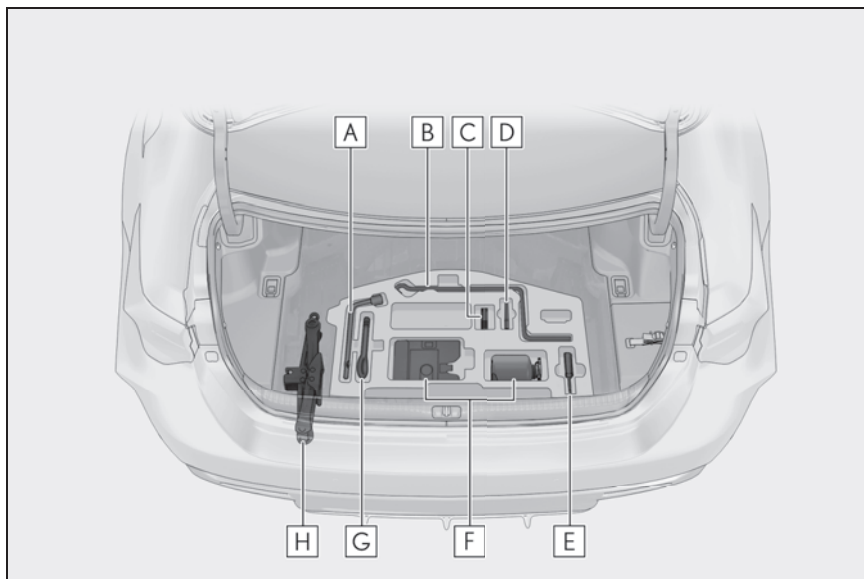
知識

n 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- l タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- l タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- l タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- l タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
- l ホイールが破損しているとき
- l 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- l 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- l 補修液の有効期限がきれているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



- A** ホイールボルトレンチ★
- B** ジャッキハンドル★
- C** ホイールボルトソケット★
- D** ガイドピン★
- E** ドライバー
- F** タイヤパンク応急修理キット
- G** けん引フック
- H** ジャッキ★※

★：レクサス販売店で購入することができます。

※ ジャッキの使い方 (→P.262)

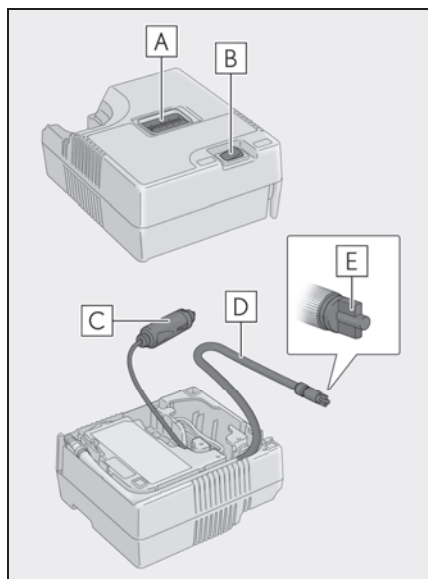
タイヤパンク応急修理キットの内容/各部の名称

▶ ボトル



A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー



- A** 空気圧計
- B** 電源スイッチ
- C** 電源プラグ
- D** ホース
- E** 空気逃がしキャップ

 知識

n 応急修理キットについて

- | パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。
- | 応急修理キットのパンク補修液は、1本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- | 外気温度が-40℃~60℃のときに使用できます。
- | 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- | パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- | パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- | 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- | タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

n 応急修理キットの点検について

- | パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
- | 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- | 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

 警告

n 応急修理キットについて

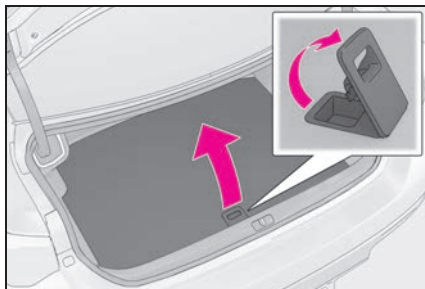
- | 応急修理キットは指定の位置に収納してください。急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- | 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- | 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。応急修理が完全に行われぬおそれがあります。

n パンク補修液について

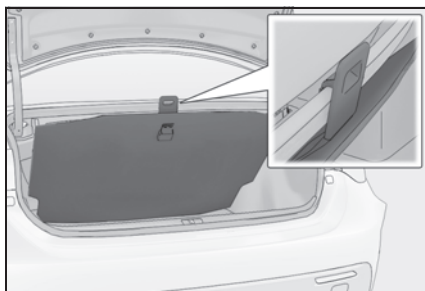
- | 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- | もし目に入った、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの 取り出し方

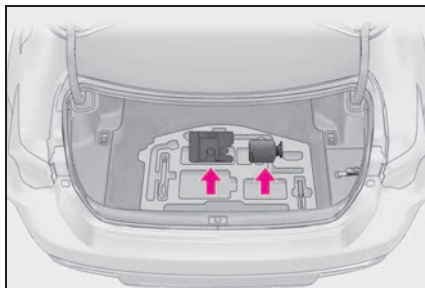
- 1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる



- 2 フックを使ってラゲージマットを固定する



- 3 応急修理キットを取り出す



⚠ 注意

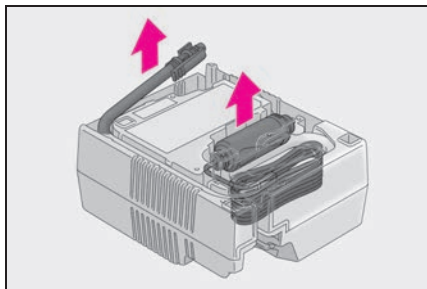
n ラゲージマットの損傷を防ぐために
トランクを閉めるとき、ラゲージマ
ットのフックをトランクの端にかけたま
まにしないでください。

応急修理をするには

- 1 応急修理キットをビニール袋から
取り出す

ボトルに同封されているラベルは指定の
位置へ貼り付けます。(手順 10 へ)

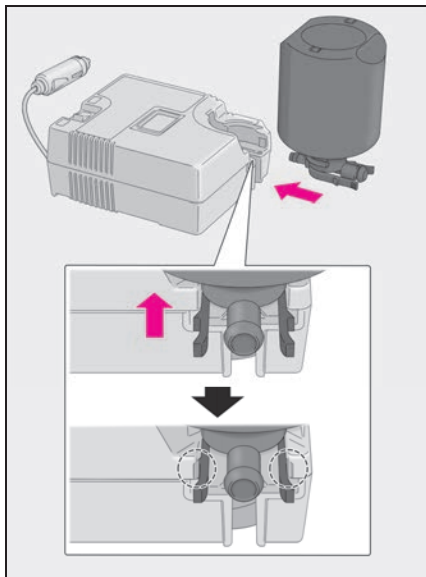
- 2 コンプレッサーからホースを取り
はずし、電源プラグを取り出す



- 3 ボトルをコンプレッサーに接続す
る

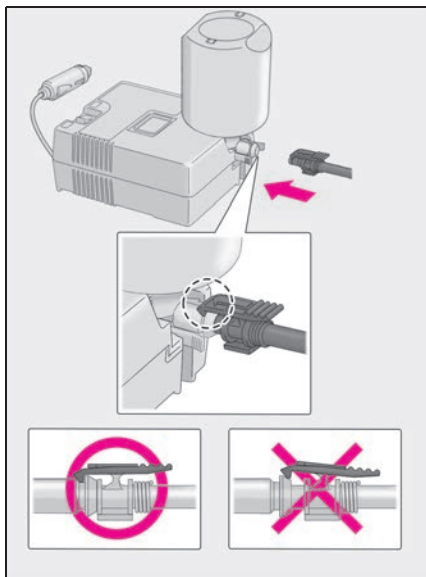
図のように、ボトルをまっすぐコンプ
レッサーに挿入・接続し、ボトルのツメ
が穴に隠れていることを確認してくださ

い。

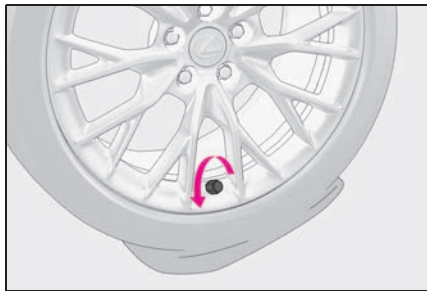


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

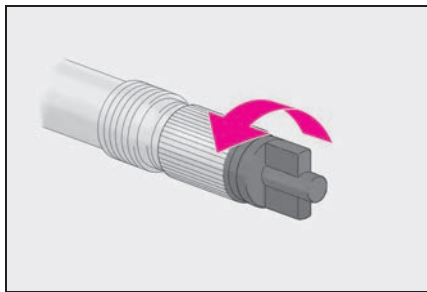


5パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす



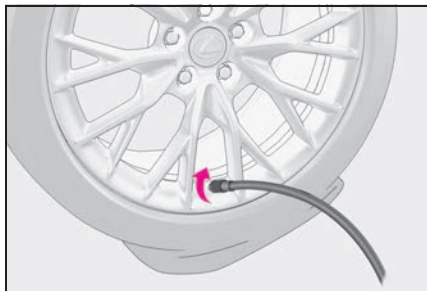
6 ホースをのぼし、空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

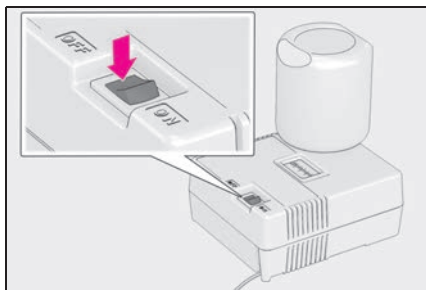


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

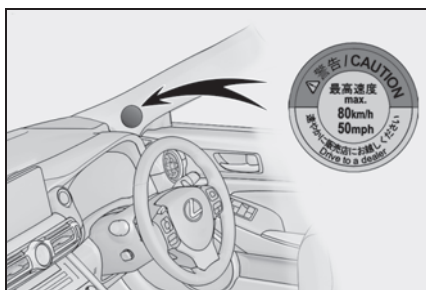


- 8 コンプレッサーのスイッチが OFFであることを確認する



- 9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込む (→P.236)

- 10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける

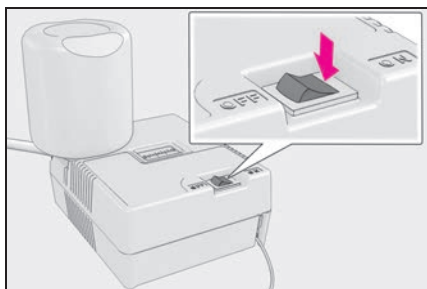


- 11 タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P.253)

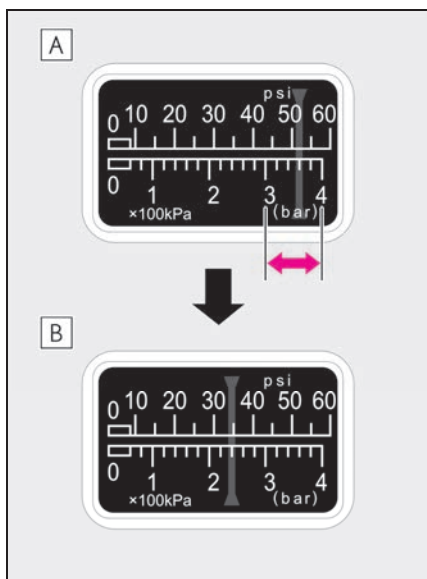


- 12 エンジンを始動する (→P.118)

- 13 コンプレッサーのスイッチを ONにし、パンク補修液と空気を充填する



- 14 空気圧が指定空気圧になるまで充填する



- A 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。
- B スイッチを ON にしてから約 1 ~ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約5～20分です（外気温により異なります）。25分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチをOFFにして、レクサス販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。

(→P.302, 320)

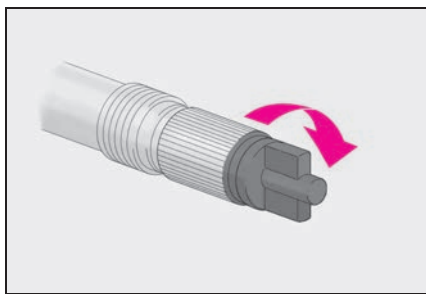
- 15** コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認したうえで、アクセサリソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

- 16** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

- 17** ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

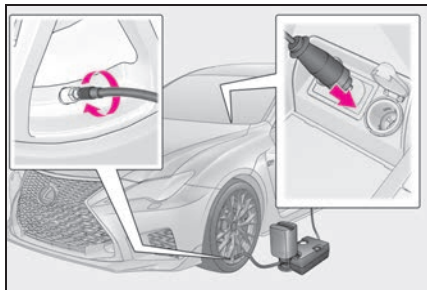
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。



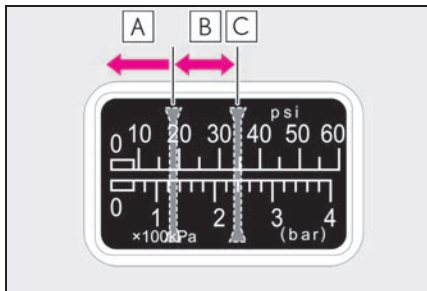
- 18** いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

- 19** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5km、速度80km/h以下で安全に走行する

- 20** 走行後、平坦で安全な場所に停車し、再度コンプレッサーを接続する



- 21** コンプレッサーのスイッチを数秒間ONにしてから再度OFFし、空気圧を確認する



- A** 空気圧が130kPa (1.3kg/cm²)未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- B** 空気圧が130kPa (1.3kg/cm²)以上、指定空気圧未満の場合：手順**22**へ

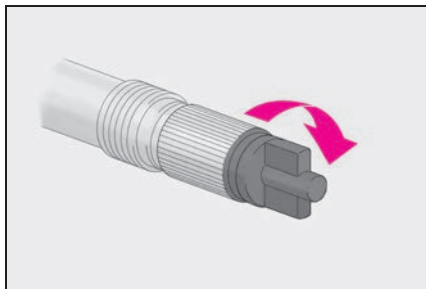
- C** 空気圧が指定空気圧 (→P.320)の場合手順**23**へ

- 22** コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填

し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、レクサス販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはレクサス販売店にご相談ください。

レクサス販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

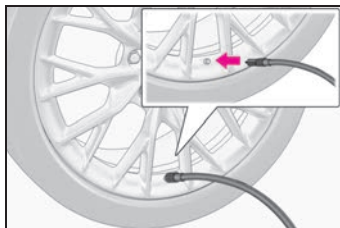
知識

n 応急（パンク）修理キットを使用したとき

- 1 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ/送信機を交換してください。
- 1 タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

n 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

n 補修液を廃棄するとき

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

n タイヤがパンクしているとき

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

警告

n パンクしたタイヤを応急修理するとき

- l 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- l 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- l タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- l 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- l 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- l 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- l 作業手順に従って応急修理を行ってください。手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- l 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- l 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。

l 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ポトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。

l 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

n 補修液を均等に広げるための運転について

- l 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- l 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

n 応急修理をするとき

- l タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- l 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

⚠ 注意

- Ⅰ 砂地などの砂ほこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ほこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- Ⅰ 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。
- n 応急修理キットについて
 - Ⅰ 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
 - Ⅰ 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
 - Ⅰ 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ほこりや水を避けて収納してください。
 - Ⅰ 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
 - Ⅰ 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方 (→P.118) に従っても、エンジンがかからないときは、次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- Ⅰ 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- Ⅰ 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。再度、正しい手順 (→P.118) に従って、エンジンをかけてください。
- Ⅰ エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。(→P.47)

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- Ⅰ バッテリーあがりの可能性があります。(→P.309)
- Ⅰ バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。(→P.305)

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 1 バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 1 バッテリーあがりの可能性があります。(→P.309)
- 1 ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンスイッチを約15秒以上押し続ける

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

n 電子キーを紛失したとき

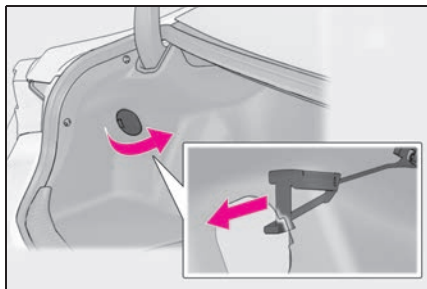
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

給油扉が開かないときは

ドアが解錠されている状態で給油扉の車両後端の中央部分を押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

給油扉を開くには

トランク内のカバーを取りはずし、レバーを引きます。



電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P.92)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

知識

n 電子キーが正常に働かない場合

- l 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。
- l 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→P.92)

注意

- n スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

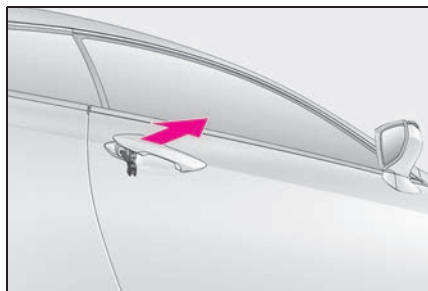
車両に付属しているすべての電子キー(カードキーを含む)をお持ちください。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠

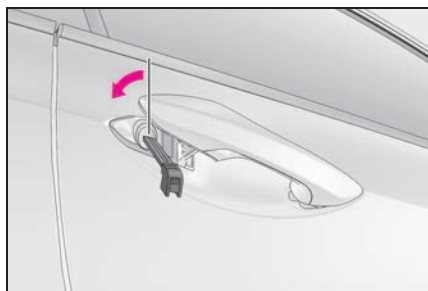
n ドアを解錠するには

メカニカルキー (→P.82) を使って次の操作ができます。

- 1 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む



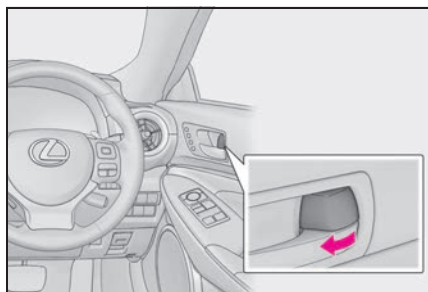
- 2 キーをまわしてドアを解錠する



- 3 メカニカルキーを抜いてドアハンドルを元に戻したあと、再度ドアハンドルを引く

n ドアを施錠するには

- 1 ロックレバーを施錠側にする

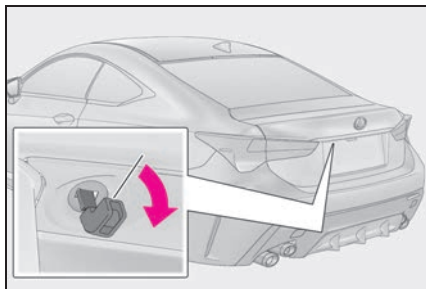


- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

n トランクの解錠

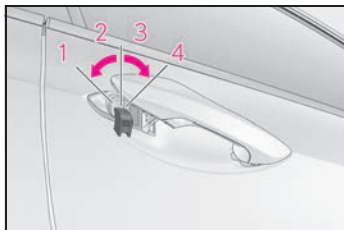
メカニカルキーを時計まわりにまわ

して開ける (→P.49)



 知識

n キーの連動機能



- 1 ドアガラスが開く (まわし続ける) ※
- 2 全ドア解錠
- 3 全ドア施錠
- 4 ドアガラスが閉まる (まわし続ける) ※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。

警告

n メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

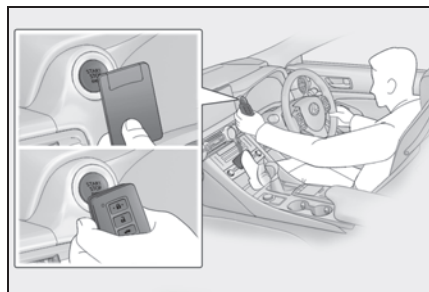
ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。


エンジン始動の方法

- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- 2 電子キーのレクサスエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリモードへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する
- 4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

 知識

n エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

n 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。

す。(→P.269)

n オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.48)

n モードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.120)

バッテリーがあがったときは

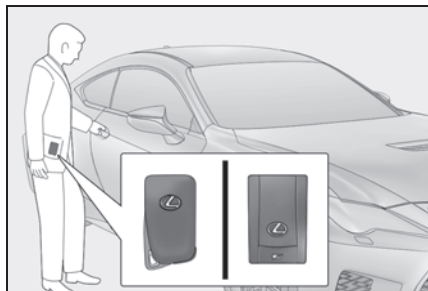
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

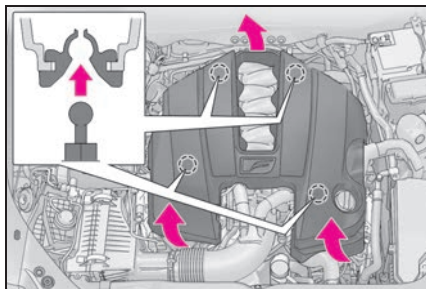
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.49)



2 ボンネットを開けて、エンジンカバーをはずす (→P.249)

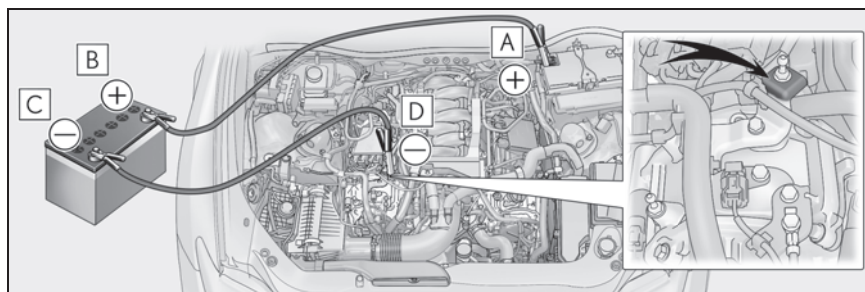
前方のクリップをはずしてから、後方を

持ちあげてはずす



- 3 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子[C]につなぎ、もう一方の端を金属部[D]につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



- A** バッテリーの+端子（自車）
B バッテリーの+端子（救援車）
C バッテリーの-端子（救援車）
D 図に示す金属部
- 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車のバッテリーを充電する
- 5 エンジンスイッチがOFFの状態ですぐいずれかのドアを開閉する
- 6 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッションONモードにしてからエンジンを始動する

- 7 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めに雷克萨斯販売店で点検を受けてください。

知識

n バッテリーあがり時の始動について
 この車両は、押しがけによる始動はでき

ません。

n バッテリーあがりを防ぐために

- l エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- l 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

n バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

n バッテリーあがり時や取りはずし時など

- l バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
 - l バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがあります。異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
 - l 車両は常に電源の状態を記憶しています。バッテリー脱着時、車両はバッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。
- バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

n バッテリー交換をするときは

- l 欧州規格バッテリーを使用してくださ

い。

- l 交換前と同一のケースサイズ (LN3)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (70Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (592A) 以上のバッテリーを使用してください。
- ・ 大きさが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
- ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。
- l 詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

n バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- l ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- l +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- l ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- l バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起さない

n バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

- Ⅰ バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- Ⅰ 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- Ⅰ 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- Ⅰ 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- Ⅰ バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- Ⅰ お子さまをバッテリーに近付けない

⚠ 注意

n ブースターケーブルの取扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

n ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

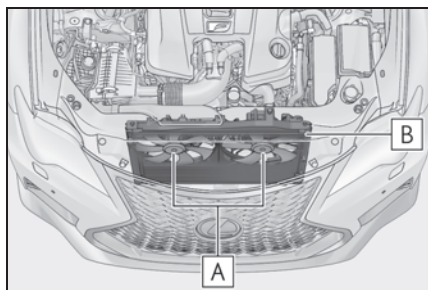
オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- Ⅰ 水温計（→P.57）の表示がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- Ⅰ マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示される
- Ⅰ エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

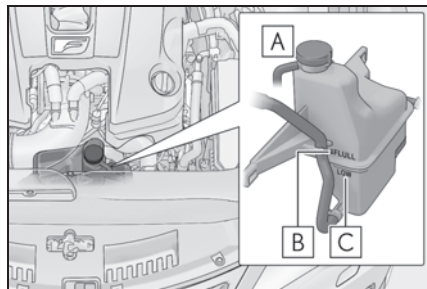


A ファン

B ラジエーター

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

- 4** 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する



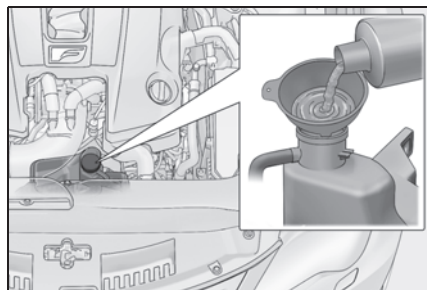
A リザーバーキャップ

B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

- 5** 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6** エンジンを始動し、エアコンを稼働させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどが

ら冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7** ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

⚠ 警告

n エンジンルームを点検しているとき

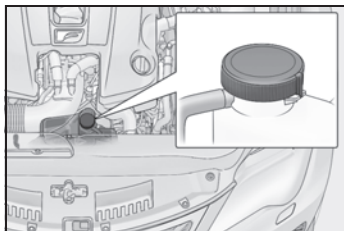
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

┆ エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

┆ 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあります。

警告

エンジンおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。



注意

n 冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

n 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- l 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- l 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは


ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

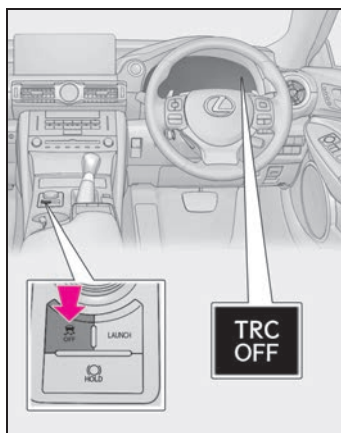
脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにして、エンジンを停止する
- 2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 後輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

n 脱出しにくいとき

 スイッチを押してTRCをOFFにしてください。



 **警告****n 脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

n シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****n トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- | 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- | 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... **318**

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧
..... **322**

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 **331**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	66

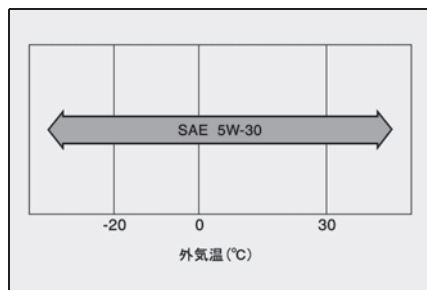
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
弊社純正モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	7.9	8.8

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

n エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として5W-30で説明します）：

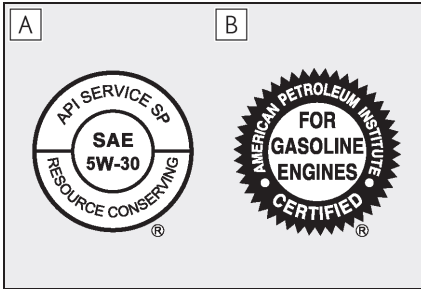
- ・ 5W-30の5Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。Wの前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 5W-30の30は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

n 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

5W-30 は、新車時に工場充填されている推奨オイルです。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークが付いています。



A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

知識

n エンジンオイルの消費について

エンジンオイルは運転中に少なからず消費されます。次のような場合にはオイル消費が多くなり、次回オイル交換時期までに補充が必要になることがあります。

- ┆ 車両購入直後やエンジン交換直後などで、エンジンが新しい場合
- ┆ オイルの品質が悪い、またはオイルの粘度が不適切な場合
- ┆ 高回転・高負荷での運転、または加減速が多い運転の場合
- ┆ アイドリング運転が極端に長い、または渋滞走行が多い場合

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正スーパーロングライフクーラント	11.5
凍結保証温度	
濃度 30% - 12° C	
濃度 50% - 35° C	

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値※)
弊社純正オートフルード WS	11.2

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

n トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ディファレンシャル

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5 SAE 75W-85)	1.35

ブレーキ

n ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

n ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	101

※ エンジン回転時に 500N (51kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
3.1

タイヤ・ホイール

n サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
255/35ZR19 (92Y)	19 × 9J	250 (2.5)	-
275/35ZR19 (96Y)	19 × 10J	-	250 (2.5)

n ホイールボルト締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]
140 (1428)

電球 (バルブ) ※

電球		W (ワット) 数
車内	バニティランプ	8
	足元照明	3.8
	トランクランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。




車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
RC F	USC10	2UR-GSE (5.0L ガソリン)	FR (後輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

- n マルチインフォメーションディスプレイで設定するには
 - 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
 - 2 スイッチを操作して設定変更したい項目を選択する
 - 3 画面に表示されている内容に従って設定を変更する
- n ナビゲーションシステムで設定するには
 - 1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、“設定・編集”を選択する

画面に直接タッチして選択することもできます。

 - 2 “設定・編集”画面の“車両”を選択する
 - 3 “車両カスタマイズ”、“ドライブモードカスタマイズ”または、“クリアランスソナー設定”を選択する

- 4 “車両カスタマイズ”を選択した場合、設定を変更したいカテゴリを選択する
- 5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
- 6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、“する”（作動）・“しない”（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、“+”または“-”を選択してレベルを調整します。

リモートタッチについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

知識

- n ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

警告

- n ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をししないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

n カスタマイズを行うときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

A ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C レクサス販売店で設定変更可能

n メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→P.54, 57, 65)

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	—	○	—
単位	km/L	L/100km	—	○	—
 スイッチを押したときに表示される画面の設定	ドライブインフォ 1	お好みの項目 ※2	—	○	—
ドライブインフォ 1	瞬間燃費	設定できる項目は →P.66 を参照	—	○	—
	リセット間平均燃費				
ドライブインフォ 2	航続可能距離				
	リセット間平均車速				
ドライブインフォ 3	給油後平均燃費				
	始動後走行時間				
割り込み表示	あり	なし	—	○	—
REV インジケーター	タイミング 2	タイミング 1	—	○	—
		タイミング 3			
		なし			
REV ピーク	あり	なし	—	○	—

機能の内容※ ¹	初期設定	変更後	A	B	C
ドライブモード画面	ノーマル	カスタム			
		エコドライブ	—	○	—
		スポーツ			
エコドライブインジケータ	あり（自動点灯）	なし	—	○	—

※¹機能についての詳しい説明は P.71 を参照してください

※²登録できない項目もあります

n ドアロック (→P.84, 87, 307)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	—	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○
シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	—	○
シフトレバーをPにしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	—	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	—	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠（ドアロック連動トランク）	あり	なし	—	—	○

n スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→P.84, 87)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル5	OFF	○	—	○
		レベル1～7			
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

n スマートエントリー&スタートシステム (→P.84, 87, 91)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○

n ワイヤレスドアロック (→P.84, 87)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○
トランク解錠時の操作	1 回押し続ける (短)	1 回押し	—	—	○
		2 回押し			
		1 回押し続ける (長)			
		非作動			

n メモリーコール機能 (→P.98)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	○

n パワーイージーアクセスシステム (→P.98)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
降車時の運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	—	○
		少なめ			
ハンドルの作動	あり	なし	—	—	○

n ドアミラー (→P.103)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		エンジンスイッチと連動			

n パワーウィンドウ (→P.106)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図 (ブザー)	あり	なし	—	—	○

n ドライブスタートコントロール (→P.116)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし*	—	○	—

* “なし” に変更しても、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするたびに “あり” に戻ります。

n ランプ自動点灯・消灯システム (→P.133)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	— 2	— 2 ~ 2	○	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○

n ランプ (→P.133)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
LED デイライト	あり	なし	—	—	○

n PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.152）

機能の内容	変更後	A	B	C
警報タイミング	早い／中間／遅い	—	○	—
PCS（プリクラッシュセーフティ）機能※	あり／なし	—	○	—

※ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

n LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.162）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車線維持支援機能（センタートレース）	あり／なし	—	○	—
警報手段	ハンドルの振動／警報ブザー	—	○	—
警報感度	高／普通	—	○	—
ふらつき警報機能	あり／なし	—	○	—
ふらつき警報機能の感度	高／普通／低	—	○	—

n RSA（ロードサインアシスト）（→P.171）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり／なし	—	○	—
制限速度超過告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—
制限速度超過の告知車速	2km/h / 5km/h / 10km/h	—	○	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ／告知表示とハンドルの振動／なし	—	○	—
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—

n レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.174）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
カーブ速度抑制機能の車速抑制	強／弱／なし	—	○	—

n 先行車発進告知機能 (→P.183)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車発進告知機能	あり/なし	—	○	—
告知タイミング	早い/普通/遅い	—	○	—

n クリアランスソナー (→P.193)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
フロントセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	—	○
リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	—	○
ブザー音量	レベル 2	レベル 1 ~ 3	○	—	○

n ドライブモードセレクトスイッチ (→P.199)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
カスタムモード時のパワー トレイン制御	Normal	Power	○	—	—
		Eco			
カスタムモード時のシャシー制御	Normal	Sport	○	—	—
カスタムモード時のエアコン作動	Normal	Eco	○	—	—

n アクティブリヤウイング (→P.202)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
アクティブリヤウイングの作動	なし	あり	—	○	○

n エアコン (→P.220)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○
排ガスセンサー感度調節	標準	- 3 ~ 3	○	—	○

n シートヒーター (→P.228)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
タイマー制御	なし	あり	○	—	○

n イルミネーション (→P.230)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
リモートタッチパッド照明の点灯	あり	なし	—	—	○
室外足元照明の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
接近時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ドアを開けたときの室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
室外足元照明の消灯時のフェードアウト	長い	短い	—	—	○

知識

n 車両カスタマイズについて

- | “車速感応オートドアロック” と “シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）” を両方とも “あり” にした場合、次のように作動します。
 - ・シフトレバーをP以外に入れると全ドアが施錠されます。
 - ・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
 - ・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。
- | “スマートエントリー&スタートシステム” の設定が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。
- | 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）” ・ “作動の合図音量（ブザー音量調整）” の設定に依存します。
- | ナビゲーション画面以外でもスイッチ操作などでカスタマイズ設定ができる項目があります。スイッチ操作で設定を変更した場合、エンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするまでナビゲーション画面には反映されません。

初期設定が必要な項目

次の項目はメンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	タイヤローテーションを行ったあと	P.253

さくいん

- こんなときは（症状別さくいん）
..... 334
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん） 336
- アルファベット順さくいん 338
- 五十音順さくいん 339

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- Ⅰ メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.306）
- Ⅰ 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.306）



キーが正常に働かないときは

- Ⅰ キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.268）



施錠・解錠できない

- Ⅰ エンジンスイッチがイグニッションONモードになっていませんか？

施錠するときは、エンジンスイッチをOFFにしてください。（→P.120）

- Ⅰ 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- Ⅰ 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.92）



誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- Ⅰ キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→P.89）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない

- Ⅰ ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.118）
- Ⅰ シフトレバーはPになっていますか？（→P.118）
- Ⅰ キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.91）
- Ⅰ ステアリングロックされていますか？（→P.118）
- Ⅰ キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P.308）

- Ⅰ バッテリーがあがっていませんか？（→P.309）



ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーがPから動かない

- 1 エンジンスイッチはイグニッションONモードになっていますか？

エンジンスイッチはイグニッションONモードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→P.123）



エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 1 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.118）



パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- 1 ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？

ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.108）



エンジンスイッチが自動的にOFFになった

- 1 一定時間アクセサリモードまたはイグニッションONモード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源OFF機能が作動します。（→P.120）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 1 警告音が鳴りだしたときは、「車

から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.336）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 1 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.284、291をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 1 車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.294）



立ち往生した

- 1 ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.314）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.48
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.291
	窓が開いている（エンジン停止中のみ）	P.107
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.48
トランクを開めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P.89
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.80
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.85
	電子キーを車内に置き忘れている	P.291

※ スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠するか、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッションONモードにするか、エンジンを始動すると、警報を解

除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P.87
	パーキングブレーキが解除されていない	P.127
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P.288
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.124
ブレーキペダルを踏んだとき（キーキー音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.113
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.178
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.152
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーンレーシングアシスト）を使用している	P.165

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.171
進入禁止区域に進入したとき		
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.193
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.185

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

- A/C**
(エアコン) 220
- ABS**
(アンチロックブレーキシステム)
..... 207
- AI-AVS**
(アーティフィカルインテリジェン
スアダプティブバリアブルサスペン
ションシステム) 208, 210
- AI-SHIFT**
(アーティフィカルインテリジェン
スシフト) 122
- ASC (アクティブサウンドコントロー
ル)** 132
- AVS**
(アダプティブバリアブルサスペン
ションシステム) 208
- BSM**
(ブラインドスポットモニター) 185
- CCB**
(カーボンセラミックブレーキ)
..... 114, 116, 263
- EDR**
(イベントデータレコーダー) 6
- EPS**
(エレクトリックパワーステアリン
グ) 208
- FR**
(フロントエンジンリヤドライブ)
..... 321
- Harmonious Driving Navi. 画面. 73**
- ILSAC CERTIFICATION**
(イルサックサーティフィケーショ
ン) 318
- ISOFIX**
(アイソフィックス/イソフィック
ス) 36
- LED**
(ライトエミッティングダイオード)
..... 133, 272
- LED デイライト** 134
- Lexus Safety System +**
LTA (レーントレーシングアシス
ト) 162
PCS (プリクラッシュセーフティ)
..... 152
RSA (ロードサインアシスト) .171
オートマチックハイビーム 136
先行車発進告知機能 183
レーダークルーズコントロール (全
車速追従機能付き) 174
- LTA**
(レーントレーシングアシスト) 162
- PCS**
(プリクラッシュセーフティ) ..152
- RCTA**
(リヤクロストラフィックアラート)
..... 185
- SRS**
(サブプリメンタルレストレイントシ
ステム) 28
- TRC**
(トラクションコントロール) 207,
314
- VDIM**
(ピークルダイナミクスインテグレ
イテッドマネージメント) 208
- VSC**
(ピークルスタビリティコントロー
ル) 207

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	309
RSA（ロードサインアシスト）.....	171
アウターミラー（ドアミラー） RCTA（リヤクストラフィックアラート）	185
格納のしかた.....	104
操作.....	103
ブラインドスポットモニター（BSM）	185
ポジションメモリー.....	98
ミラーヒーター.....	224
リバース連動機能.....	104
アクセサリースocket.....	236
アクセサリモード.....	120
アクティブリヤウイング.....	202
アシストグリップ.....	236
足元照明.....	230
アダプティブバリアブルサスペンション システム（AVS）.....	208
アラーム オートアラーム.....	48
警告ブザー.....	284
アンチロックブレーキシステム（ABS）	207
ABS & ブレーキアシスト警告灯.....	285
アンテナ（スマートエントリー&スター トシステム）.....	91

い

イグニッションスイッチ（エンジンス イッチ） エンジンのかけ方.....	118
自動電源 OFF 機能.....	120
車両を緊急停止するには.....	276
モードの切りかえ.....	120
位置交換（タイヤローテーション）.....	255

イベントデータレコーダー（EDR）.....	6
イモビライザーシステム.....	47
イルミネーテッドエントリーシステム	231
インジケーター（表示灯）.....	55
インストルメントパネル照度調整スイッ チ.....	64
インテリアランプ.....	230
インナーミラー.....	102

う

ウインカー（方向指示灯） 電球（バルブ）の交換.....	272
方向指示レバー.....	126
ウインドウ ウォッシュャー.....	139
パワーウインドウ.....	106
リヤウインドウデフォグガー.....	224
ウインドウロックスイッチ.....	108
ウインドシールドデアイサー.....	224
ウォッシュャー.....	139
液の補給.....	253
スイッチ.....	139
タンク容量.....	320
冬の前の準備・点検.....	212
動けなくなったときは（スタック）.....	314
雨滴感知式ワイパー.....	139
運転 雨の日の運転.....	110
運転を補助する装置.....	207
寒冷時の運転.....	212
正しい運転姿勢.....	23
手順.....	110
運転支援システム情報表示.....	71
運転席シートベルト非着用警告灯.....	288

え

エアコン

オートエアコン	220
花粉除去機能	224
曇り取り（フロントガラス）	224
フィルターの清掃	267

エアコン・デフォッガー 220

エアバッグ

SRS エアバッグ警告灯	285
改造・廃棄	33
作動条件	29
正しい姿勢	23
配置	28

エコドライブインジケーター 67

エコドライブインジケーターランプ.. 67

エレクトリックパワーステアリング
（EPS） 208

エンジン

イグニッションスイッチ（エンジンスイ チ）	118
エンジンイモビライザーシステム	47
エンジンがかからない（エンジンが始動で きない）	304
エンジンスイッチ	118
エンジンの始動方法	118
オーバーヒート	312
緊急時の停止方法	276
タコメーター	57
フューエルポンプシャットオフシステム	283
ボンネット	249

エンジンイモビライザーシステム..... 47

エンジンオイル

冬の前の準備・点検	212
メンテナンスデータ	318
油圧警告灯	285
容量	318

エンジン回転計（タコメーター）.....57

エンジン警告灯 285

エンジンスイッチ

エンジンのかけ方	118
自動電源 OFF 機能	120
モードの切りかえ	120

エンジンフード（ボンネット）

開け方	249
警告メッセージ	87

エンジンルーム 249

エンジンルームから蒸気が出ている... 312

お

オイル（エンジンオイル） 318

オーディオシステム連携表示 71

オートアラーム 48

オートドアロック・アンロック機能 ..87

オートマチックトランスミッション

オートマチックトランスミッション... 122

オートマチックハイビーム 136

オートレベリングシステム（ヘッドラン
プ）

作動
 135 |

オーバーヒート 312

オープナー

給油扉	145
トランク	88
ボンネット	249

お子さまの安全

チャイルドシート
 42 |

お子さまを乗せるとき

ウインドウロックスイッチ	108
お子さまの安全のために	35
シートヒーターに関する警告	228
シートベルトの着用	25, 26
チャイルドシート	36
チャイルドシートの取り付け	36
発炎筒の取り扱いに関する警告	276

バッテリーに関する警告	311
パワーウィンドウに関する警告	107
“ODO TRIP” スイッチ	64
オドメーター／トリップメーターディスプレイ	63
表示項目	63

か

カーテシランプ	
装着位置	230
カーテンシールドエアバッグ	28
カードキー	80
カーペット	
洗淨	245
フロアマットの取り付け方	22
カーボンセラミックブレーキ (CCB)	114, 116, 263
外気温度表示	57
外装の電球 (バルブ)	272
交換要領	272
カスタマイズ機能	322
型式	321
カップホルダー	
フロントカップホルダー	233
カメラ	
前方カメラ (PCS)	147
白線認識用カメラ (LTA)	162
ガラスの曇り取り (リヤウインドウデフォッガー)	224
ガレージジャッキ	251
冠水路走行	115
寒冷時の運転	212
キーナンバプレート	80
キーの構成	80
キーレスエントリー	82, 91
キーをなくした	306
正常に働かない	307
施錠・解錠ができない	307
電子キー	80
電池が切れた	268
メカニカルキー	82
ワイヤレスリモコン	82
キーレスエントリー	
スマートエントリー&スタートシステム	91
ワイヤレスドアロック	82
救急箱等固定用バンド	235
給油	
給油口が開けられない	306
給油のしかた	144
メンテナンスデータ	318
緊急時シートベルト固定機構	27
緊急時の対処	
エンジンが始動できない	304
オーバーヒートした	312
キーの電池が切れた	268, 307
キーをなくした	306
警告灯がついた	284
警告メッセージが表示された	291
けん引	279
故障したときは	274
車中泊が必要なときは	278
車両を緊急停止する	276
水没・冠水したときは	277
スタックした	314
電子キーが正常に働かない	307
発炎筒	275
バッテリーがあがった	309
パンクした	294
緊急ブレーキシグナル	208

き

キー	
エンジンが始動できない	304
カードキー	80

<

空気圧 (タイヤ)

タイヤ空気圧警報システム	255
メンテナンスデータ	320

区間距離計 (トリップメーター) 63

曇り取り

フロントガラス	224
ミラーヒーター	224
リヤウインドウデフォグガー	224

クラクション (ホーン) 101

クリアランスソナー 193

警告メッセージ	195
操作	193

クリアランスランプ (車幅灯)

スイッチ	133
電球 (バルブ) の交換	272

クリップ

フロアマット	22
--------	----

クルーズコントロール

レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)	174
----------------------------	-----

グローブボックス 233

グローブボックスランプ 233

け

警告器 (ホーン) 101

計器類 (メーター) 57

マルチインフォメーションディスプレイ	65
--------------------	----

警告灯 284

ABS & ブレーキアシスト	285
SRS エアバッグ	285
LTA 表示灯	286
エンジン	285
高水温	284
シートベルト非着用	288
充電	284
スリップ表示灯	287

タイヤ空気圧 289

ドライブスタートコントロール 286

燃料残量 288

パーキングブレーキ 286

パワーステアリング 286

半ドア 287

PCS 287

ブレーキ 284

ブレーキオーバーライドシステム 286

ブレーキホールド作動表示灯 286

ヘッドランプオートレベリング 287

マスターウォーニング 288

油圧 285

警告ブザー

LTA 165

高水温 284

シートベルト非着用 288

シフトダウン制限 124

衝突警報 152

接近警報 (レーダークルーズコントロール) 178

手放し運転警告 (LTA) 169

ドライブスタートコントロール 286

トランク開 87

パワーステアリング 286

半ドア 85, 287

半ドア走行時 87

プリクラッシュセーフティ 287

プリクラッシュブレーキ 152

ブレーキオーバーライドシステム 286

ブレーキホールド 286

ボンネット開 87

マスターウォーニング 288

窓開 107

油圧 285

リバース 122

警告メッセージ 71, 291

化粧ミラー (パニティミラー) 237

こ

交換

キーの電池	268
タイヤ	260
電球 (バルブ)	272
ヒューズ	270

工具 (ツール) 295

航続可能距離 66, 75

後退速度の抑制制御 (ドライブスタート
コントロール) 116

後退灯 (バックアップランプ)

電球 (バルブ) の交換	272
--------------------	-----

コートフック 237

コンソールボックス 233

コンライト (自動点灯・消灯装置) 133

さ

サーキットモード 205

サイドエアバッグ 28

サイド方向指示灯

電球 (バルブ) の交換	272
方向指示レバー	126

サイドミラー (ドアミラー)

RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	185
格納のしかた	104
操作	103
ブラインドスポットモニター (BSM)	185
ポジションメモリー	98
ミラーヒーター	224
リバース連動機能	104

サスペンションコントロール (PCS)
..... 153

サンバイザー 237

し

シート

正しい運転姿勢	23
チャイルドシート	36
調整	96
手入れ	245, 247
パワーイージーアクセスシステム	98
ポジションメモリー	98
メモリーコール機能	99

シートヒーター 228

シートベルト 25

お子さまの着用	25, 26
緊急時シートベルト固定機構	27
シートベルトガイド	27
シートベルト非着用警告灯	288
正しく着用するには	26
チャイルドシートの取り付け	42
着け方・はずし方	26
手入れ	245
妊娠中の方の着用	25
非着用警告灯	288

シートベルト非着用警告灯 288

シートベルトプリテンショナー

機能	27
プリテンショナー警告灯	285

シートベンチレーター 228

シートポジションメモリー 98

G モニター 69

室内灯 (インテリアランプ) 230

始動後走行距離 66

始動のしかた 118

シフトポジション 122

シフトレバー

シフトポジションの切りかえ	123
シフトレンジの切りかえ	125
操作	122
リバース警告ブザー	122

締め付けトルク (ホイール)	263
車中泊が必要なときは	278
ジャッキ	
ガレージジャッキ	251
車載ジャッキ	295
ジャッキハンドル	295
車幅灯	
電球 (バルブ) の交換	272
ランプスイッチ	133
車両型式	321
車両仕様 (スペック)	318
車両を緊急停止するには	276
瞬間燃費	66, 75
仕様 (車両仕様)	318
衝撃感知ドアロック解除システム	85
初期化	
タイヤ空気圧警報システム	257
パワーウインドウ	106
初期設定	331
助手席シートベルト非着用警告灯 ...	288
助手席にチャイルドシートを取り付ける	37
侵入センサー (オートアラーム)	50

す

水温計	57
スイッチ	
LTA	166
PCS OFF	155
TRC OFF	208
VSC OFF	209
アクティブリヤウイング	202
イグニッション	118
インストルメントパネル照度調整	64
ウインドウロック	108
ウォッシュャー	139
エンジンスイッチ	118
オートマチックハイビーム	136

“ODO TRIP”	64
クリアランスソナー	193
シート調整	96
シートヒーター	228
シートベンチレーター	229
シートポジションメモリー	98
車間距離切りかえ (レーダークルーズコン トロール)	174
侵入センサー OFF	50
タイヤ空気圧警報リセット	257
ドアミラー	103
ドアロック	86
ドライブモードセレクト	199
トランクオープナー	88
トランクオープナーメイン	90
パーキングブレーキ	127
パドルシフト	124
パワーウインドウ	106
ハンドル位置調整	101
フォグランプ	138
ブレーキホールド	130
方向指示レバー	126
ホーン (警音器)	101
ポジションメモリー	98
メーター操作スイッチ	66
ランプ	133
リセット (タイヤ空気圧警報システム)	257, 259
リヤウインドウデフォッガー	220
リヤフォグランプ	138
レーダークルーズコントロール	174
ローンチコントロール	200
ワイパー	139
スタック	314
ステアリングホイール (ハンドル)	
位置調整	101
パワーイージーアクセスシステム	98
ポジションメモリー	98

ステアリングロック	118
解除できないとき	118
警告メッセージ	118
ストップランプ (制動灯)	
緊急ブレーキシグナル	208
電球 (バルブ) の交換	272
スノータイヤ (冬用タイヤ)	212
スピードメーター	57
スペック (車両仕様)	318
スマートエントリー&スタートシステム	
アンテナの位置	91
エンジンの始動	118
カスタマイズ設定	322
緊急始動機能	305
作動範囲	91
正常に働かないとき	307
節電機能	92
電波がおよぼす影響について	94
ドアの解錠・施錠	84
トランクの解錠	88
スモールランプ (車幅灯)	
電球 (バルブ) の交換	272
ランプスイッチ	133
スリップ表示灯	208, 287

せ

清掃	
ウルトラスエード®	247
外装	240
シートベルト	245
内装	245, 247
ホイール・ホイールキャップ	241
レーダー	147
制動灯	
緊急ブレーキシグナル	208
電球 (バルブ) の交換	272
積算距離計 (オドメーター)	63

セキュリティインジケータ	47, 48
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	178
先行车発進告知機能	183
センサー	
LTA	162
インナーミラー	102
雨滴感知センサー	142
湿度センサー	227
侵入・傾斜センサー	50
ライトセンサー	134
レーダー	147
洗車	240
前照灯 (ヘッドランプ)	
電球 (バルブ) の交換	272
ライトセンサー	134
ランプ消し忘れ防止機能	135
ランプスイッチ	133
センターディスプレイ	218

そ

走行時間	66
走行情報表示	66
走行モード (ドライブモード)	124, 199
送信機 (タイヤ空気圧警報システム)	255
速度計 (スピードメーター)	57

た

ターニングナルランプ (方向指示灯)	
電球 (バルブ) の交換	272
方向指示レバー	126
タイヤ	
空気圧	266, 320
交換	260
締め付けトルク	263
タイヤ空気圧警告灯	289

チェーン	212
点検	253
パンク応急修理キット	294
パンクしたときは	294
冬用タイヤ	212
ホイールサイズ	320
ローテーション (位置交換)	255
タイヤが空まわりする (スタックした)	314
タイヤ空気圧	
タイヤ空気圧警告灯	289
タイヤ空気圧警報システム	
ID コードの登録・選択	259
機能について	255
空気圧バルブ/送信機について	256
空気圧表示画面	255
初期化	257
タイヤ空気圧警告灯	289
タイヤチェーン	212
タコメーター	57
REV インジケーター	61
REV ピーク	62

ち

チェーン (タイヤチェーン)	212
チャイルドシート	
ISOFIX ロアアンカレッジでの固定	45
シートベルトでの固定	43
知っておいていただきたいこと	36
選択方法	36
トップテザーアンカレッジを使用する	46
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	127
警告メッセージ	128
操作	127
冬季の注意	212
パーキングブレーキ警告灯	286
未解除走行時警告ブザー	129

つ

ツール (工具)	295
----------	-----

て

手入れ	
外装	240
シートベルト	245
内装	245, 247
ホイール・ホイールキャップ	241
レーダー	147
テールランプ (尾灯)	
電球 (バルブ) の交換	272
ランプスイッチ	133
テザーベルト	42
デフォッガー (リヤウインドウデフォッ ガー)	224
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	272
点検基準値 (メンテナンスデータ)	318
電子キー	80
作動範囲	91
正常に働かないとき	307
節電機能	92
電池が切れた	307
電池交換	268
電池交換 (キー)	268

と

ドア	84
オートドアロック・アンロック機能	87
衝撃感知ドアロック解除システム	85
スマートエントリー&スタートシステム	91
ドアガラス	106
ドアロックスイッチ	86
ロックレバー	86
ワイヤレスリモコン	84

ドアカーテシランプ	
位置	230
ドアハンドル照明	230
ドアミラー	
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	185
格納のしかた	104
操作	103
ブラインドスポットモニター (BSM)	185
ポジションメモリー	98
ミラーヒーター	224
リバース連動機能	104
盗難防止装置	
エンジンイモビライザーシステム	47
オートアラーム	48
ラゲージセキュリティシステム	90
時計	237
時計を調整する	237
トップテザーアンカレッジ	46
ドライビングポジションメモリー	98
ポジションメモリー	98
メモリーコール機能	99
ドライブインフォメーション (マルチインフォメーションディスプレイ)	
メーター操作スイッチ	66
ドライブスタートコントロール	
急発進の抑制制御	116
後退速度の抑制制御	116
ドライブモードセレクトスイッチ	199
トラクションコントロール (TRC)	207
トランク	
オープナー	88
キー閉じ込み防止機能	89
警告メッセージ	87
電子キーが正常に働かないとき	307
トランク内の装備	234
パワートランクリッド	87
メインスイッチ	90

ラゲージセキュリティシステム	90
トランクリップ	89
トランスミッション	
オートマチックトランスミッション	122
シフトダウン制限警告ブザー	124
操作	123
パドルシフトスイッチ	124
メンテナンスデータ	319
トリップメーター	63

な

内装

収納装備	232
手入れ	245, 247
ナビゲーションシステム連携表示	71

に

ニーエアバッグ	28
荷物	
積むときの注意	117
トランク	87
トランク内装備	234
荷物固定用フック	234

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)	314
-------------------------	-----

ね

燃費

給油後平均燃費	75
瞬間燃費	66, 75
燃費画面	73
平均燃費	66, 73, 75

燃料

給油	144
種類	318

燃料計	57
燃料残量警告灯	288
フューエルポンプシャットオフシステム	283
容量	318
燃料計	57

は

パーキングブレーキ	127
警告灯	286
警告メッセージ	128
操作	127
冬季の注意	212
未解除走行時警告ブザー	129
パーソナルランプ	231
排気ガス	33
ハイビーム (ヘッドランプ)	
オートマチックハイビーム	136
電球 (バルブ) の交換	272
ランプスイッチ	133
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	272
ハザードランプ (非常点滅灯)	
電球 (バルブ) の交換	272
挟み込み防止機能	
パワーウインドウ	106
発炎筒	275
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	272
バッテリー	
警告灯	284
バッテリーがあがった	309
パドルシフトスイッチ	124
バニティ (化粧用) ミラー	237
バニティミラーランプ	
装備について	237
バルブ (電球)	
交換要領 (外装のバルブ)	272
パワーウインドウ	
ウインドウロックスイッチ	108
閉めることができないときは	106
初期化	106
操作	106
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 ...	107
挟み込み防止機能	106
巻き込み防止	106
パワーステアリング	208
パワーステアリング警告灯	286
パワートランクリッド	87
パンクした	
タイヤ空気圧警告灯	289
タイヤパンク応急修理キット装着車 ...	294
番号灯 (ライセンスプレートランプ)	
電球 (バルブ) の交換	272
ランプスイッチ	133
ハンドル (ステアリングホイール)	
位置調整	101
パワーイージーアクセスシステム	98
ポジションメモリー	98

ひ

ビークルスタビリティコントロール (VSC)	207
ビークルダイナミクスインテグレイテッド ドマネージメント (VDIM)	208
ヒーター	
エアコン・デフォッガー	220
シートヒーター	228
ミラーヒーター	224
非常点滅灯 (ハザードランプ)	
電球 (バルブ) の交換	272
尾灯 (テールランプ)	
電球 (バルブ) の交換	272
ランプスイッチ	133
ヒューズ	270

表示灯	55
日よけ (サンバイザー)	237
ヒルスタートアシストコントロール	208

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方	309
フォグランプ	138
スイッチ	138
ブザー	
シフトダウン制限警告	124
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	178
手放し運転警告 (LTA)	169
パーキングブレーキ未解除走行時警告	129
半ドア走行時警告	87
窓開警告	107
リバース警告	122
フック	
けん引フック	281
コートフック	237
フロアマット固定フック	22
フューエルポンプシャットオフシステム	283
フューエルメーター	57
フューエルリッド (給油口)	
給油口が開かない	306
給油のしかた	144
冬の前の準備 (寒冷時の運転)	212
冬用タイヤ	212
ブラインドスポットモニター (BSM)	185
プリクラッシュセーフティ (PCS)	
PCS OFF スイッチ	155
機能	152
PCS 警告灯	287
ブレーキ	
カーボンセラミックブレーキ (CCB) 114,	
116, 263	

緊急ブレーキシグナル	208
パーキングブレーキ	127
ブレーキ警告灯	284
ブレーキホールド	130
メンテナンスデータ	320
ブレーキアシスト	207
ブレーキフルード	320
ブレーキホールド	130
フロアマット	22
フロントシート	
シートヒーター	228
シートベンチレーター	228
正しい運転姿勢	23
調整	96
手入れ	245, 247
パワーイージーアクセスシステム	98
ポジションメモリー	98
メモリーコール機能	99
フロント方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	272
方向指示レバー	126

へ

平均車速	66, 75
平均燃費	66, 73, 75
ヘッドランプ	
クリーナー	139
電球 (バルブ) の交換	272
ライトセンサー	134
ランプ消し忘れ防止機能	135
ランプスイッチ	133
ヘッドランプオートレベリングシステム	135
ヘッドランプオートレベリング警告灯	287
ベンチレーター (シートベンチレーター)	228

ほ

ホイール	
交換 (タイヤ)	260
ホイール	320
方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	272
方向指示レバー	126
ホーン (警音器)	101
ポジションメモリー	98
保証	7
ボンネット	
開け方	249
警告メッセージ	87

ま

マスターウォーニング	288
マルチインフォメーションディスプレイ	
.....	65
運転支援システム情報	71
エコドライブインジケーター	67
“F” コンテンツ	68
オーディオシステム連携	71
Gear Position	68
警告メッセージ	71, 291
言語	71
G モニター	69
設定	71
走行情報表示	66
タイヤ空気圧	68, 255
ドライブインフォメーション	66
ナビゲーションシステム連携	71
メーター操作スイッチ	66
メニューアイコン	65
履歴 (ラップ計測)	69
割り込み表示	65

み

ミラー	
アウターミラー	103
インナーミラー	102
ドアミラー	103
パニティミラー	237
ミラーヒーター	224

め

メーター	
計器類	57
警告灯	284
警告メッセージ	291
照度調整	64
設定	71
表示灯	55
表示の切りかえ	62
マルチインフォメーションディスプレイ	
メーター操作スイッチ	66
メーターリング	62
メカニカルキー	82
メニューアイコン	65
メモリーコール機能	99
メンテナンスデータ	318

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	322
雪道ですべて動けない (スタックした)	
.....	314
油脂類	318

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)	
電球 (バルブ) の交換	272
ランプスイッチ	133
ラゲージセキュリティシステム	90

ラゲージマット	234
ラゲージルーム (トランク)	87, 234
ラジエーター	
オーバーヒート	312
メンテナンスデータ	319
ランプ	
室内灯	230
電球 (バルブ) の交換	272
非常点滅灯 (ハザードランプ)	275
ヘッドランプ (前照灯)	133
方向指示灯 (ターンシグナルランプ/ウィンカー)	126
ライトセンサー	134
ランプ消し忘れ防止機能	135
リヤフォグランプ	138
ランプ消し忘れ防止機能	135

リ

リバース連動機能	104
リモートタッチ	216
リヤウインドウデフォッガー	224
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	185
リヤ席シートベルト非着用警告灯	288
リヤフォグランプ	138
スイッチ	138
電球 (バルブ) の交換	272
リヤ方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	272
方向指示レバー	126
リング (メーター)	62

る

ルームミラー (インナーミラー)	102
------------------	-----

れ

冷却水

冬の前の準備	212
メンテナンスデータ	319

冷却装置 (ラジエーター)

オーバーヒート	312
メンテナンスデータ	319

レーダークルーズコントロール

警告メッセージ	181
接近警報	178
レーダー	147

レーントレーシングアシスト

LTA 表示灯	286
---------	-----

レーントレーシングアシスト (LTA) 162

警告メッセージ	170
操作	166

レバー

シフト	122
方向指示	126
ボンネット解除	249

REV インジケーター

操作	61
----	----

REV ピーク

操作	62
----	----

ろ

ロードサインアシスト (RSA)

操作	171
----	-----

ローンチコントロール

操作	200
----	-----

ロック

ウインドウロック	108
スマートエントリー&スタートシステム91	
ドア	84
ワイヤレスリモコン	82

わ

ワイパー&ウォッシャー

ウォッシャー液の補充	253
------------	-----

ワイパーブレード (寒冷地用)

交換	213
----	-----

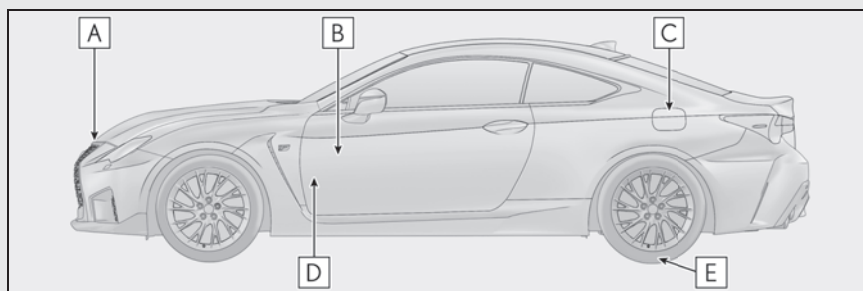
ワイヤレスリモコン	
作動の合図	85
操作	82
電池の交換	268
半ドア警告ブザー	85
ワックス	240

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・ オーディオ
- ・ バックガイドモニター
- ・ ナビゲーションシステム
- ・ 音声操作システム
- ・ ハンズフリー
- ・ G-Link
- ・ ETC2.0 システム

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.249)
- B** トランクオープナースイッチ (→P.88)
- C** 給油扉／給油口 (→P.144)
- D** ボンネット解除レバー (→P.249)
- E** タイヤ空気圧 (→P.320)

燃料の容量 (参考値)	66L	
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク)	P.318
タイヤが冷えているときの空気圧		P.320
エンジンオイル容量 (参考値)		P.318
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル	P.318

「個人情報保護方針」については、<https://lexus.jp>にて掲載しております。



Publication No. M24C16
Part No. 01999-24C16
Printed in Japan 01-2501 NA
RC F